

神學博士デー、エー、モリー氏

大阪傳道同志館ニ於ケル講義



傳道

明治
28 10 9
内交

序文

個人傳道の緊要なる事は近來ますます世に認めらるゝやうになつてまいりました。説教場で説教する時には多數の聽衆に語る事を得るは勿論ですけれども個人傳道に於て人の心を刺激し之に感化を及ぼす方がもつと遙かに勝ります。説教するにも個人的感情と調子とを以て一定の個人に談すやうに説教すれば其効力は決して尠くは御座りませぬ。

先般米國で神學博士ジョンストン氏が著された「個人傳道學課」と稱する小冊子は廣く世に行はれ個人傳道に補益ある書籍で御座ります。本書に載する學課は該書に據る所大なれども譯書では御座りませぬ。日本と米國と自ら風俗、要求、働の方法等を異にした所が多いから該

書を其儘譯出しても利益は少ない、本書はジョンストン博士の著書に基きてモーリ博士が傳道同志館の傳道學校生徒の爲になした講義で御座います、此講義はジョンストン博士の著書の順序を逐ふて書中載する所の適切な教訓は悉皆之を使用し且日本傳道事業の要求に適用すべき諸種の事柄をも加へて致したので御座います、而して學生の筆記したるものを吉本久太郎氏外學生諸士の盡力に由て世に公けにするに至たので御座います、本書が教役者を初め信者一般を補益し、福音宣傳に神の榮光を彰す一助ならんことを收穫の主切に禱る所で御座ります。

明治二十八年六月十六日大阪に於て

個人傳道

目次

第一學課	人間の個人的要求	一
第二學課	神の人間の爲に個人的の働き	九
第三學課	人間の個人的責任	二〇
第四學課	個人的働きの準備	三三
第五學課	躊躇	四六
第六學課	教役者たるに適當の心	五八
第七學課	基督が個人を従はす事	七〇
第八學課	弟子が個人を従はす	九四
第九學課	個人的働きの方法	一一一
第十學課	會ふ所の人に傳導する事	一三六

第十一學課	従はし度と思ふ人を觀察する事	一五三
第十二學課	實際働く方法	一六九
第十三學課	聖書の應用法	一八〇
第十四學課	疑はしき行ひ	一九五
第十五學課	思想的疑問	二〇七
第十六學課	窮に信じて居る人	二二二
第十七學課	弱き信者を助ける	二三三

個人傳道

第一學課

人間の個人的要求

第一日 人は神の子である故に父なる神の保護を要す
 凡て基督教の勸め説教をなさんとすれば先づ第一に人間は皆な眞の神に直接の關係あるものとの觀念を以てし是の價ある人間をして各々自己の神に於ける關係を明かに知らしめ其の神の義と愛を覺らしむる様に懇切に誘導すべき事でありませ彼の路加傳十五章に於ける主の放蕩息子の比喩は其最も切ある一例であります茲に説くべき二個の事實があります即ち

- 一、人類は神に造られ神の子たる事
 - 二、人類は罪に陥りて神の子たるの權を失ひたる事
- 以上の事實を以て之を例せば丁度勘當せられたる息子の様なものである故に主の比喩は最も切あるものであります、彼の放蕩息子は父に請ふて其資産の分配を受け遠く父を離

れました、是は人間が神に離れたるの表徴である即ち人の靈性上の事實を能く講じ出し
 たるものであります、彼は初より別に著しき悪しき事なかりしも其一度父を離れたるの
 一事は容易ならざる罪を犯す根本と爲りました事であります、然れば彼は其の罪の強き
 遠心力に驅られ悲痛の苦境に墜されし事である併し是は自ら求めたる禍即ち當然の結
 果であります、然れども神の愛は少しも變る事なく捐て給ふ事はありません矢張り永遠
 に父として彼を愛の内に置き給ひし事である是即ち全智全能ある眞の神の愛であります
 是は私共が基督教に於て初めて革命的に示されたる天の神の父なる事を明かにせられた
 る唯一の賜物である、斯くの如き破格なる意識を與へられたるものは主キリストの外に
 無いのである、勿論彼の敬虔なる猶太人も舊約聖書時代に於て天地に獨一の眞神のある
 ことを認めて居りました、併し其貴い恐ろしい所謂義の神でありました、彼のエホバの文
 字の如きも之を讀むことだに恐れて主のみ稱た程の事であります、然るに主キリスト
 は革命的に明かある意識を以て天に在ます我儕の父よと最も親しく喚び給ひました、即
 ち愛する神として殆ど自己の家族を指す如く神を喚び給ひし事であります、茲に於て神

は義あると共に愛なることを明かにせられました、是が基督の賜物即ち善き福音でありま
 す、然るに當時の猶太人は却て之を以て神を汚濁す事なりとして大に迫害せし事であり
 ます、更に考ふ可きは主キリストがカイザリヤ、ピリピの旅に於て弟子等に問ひしこと
 である、「彼等に云ひける爾曹は我を言て誰とするか、シモンペテロ答へけるは爾はキリス
 ト神の子なり」(馬太十六〇十五、十六)主は實に神の子であります、併かし人類は素と
 神の子供なりしも罪に陥りて其權を失ふたものであります、併しながら神は愛なるが
 故に罪を悔改めて神に歸るならば再び神の子と爲し給ふのである、是れは實にキリスト
 に依れる神の大なる愛を見るのであります、彼の放蕩息子は父に歸りました一起て我が
 父に行きて曰はん父よ我れ天と爾の前に罪を犯したれば爾の子と稱ふるに足らざるもの
 なり、爾の傭人の一人の如く我れを爲し給へと、(路加十五〇十八、十九)斯く罪を世
 ど人どに負はせずして痛切に眞に悔改めて父に歸り再び父の子たる事を得ました、是れ
 は適當の道であります、況んや遠くにありし是の放蕩したる我子を見て憫み趨り行きて
 云々と記されたる神の愛を味ひます時は更に一層の趣味を加ふる事である、是れ人間の

親心と子心との事を以て神と人類との間柄を示されたる教であります、されば私共が人を勧め導かんとする時に於ても此教訓に基き其父なる神に歸り常に神の保護に依り頼む可きを勧むるとは最も大切なる方法であります、

第二日

失はれたる人間に案内者の必要

失はれたる靈魂と聖書にあるが是れは迷ふて道を失ふたるのみならず人が失はれたるのである、(詩百十九の十)、人は此世の金銀財寶を幾程得ても若し其靈を失はば何の益もないのである、即ち子供の失はれたる時には特別に案内者を要する様に人間が神より離れて、歸る道の明らかに示さるゝ爲めに案内者が必要なのであります、併し神を知るの道は只一のキリストを知るの外はないのであります、キリストは「我れは途あり真理なり生命あり」と申されました、即ちキリストは案内者又た善牧者であります、神を知るにはキリストを知つたならば之を全く知るとを得るのである、トマスが父を我に示せと云ひし時に主は「我を知るものは父を知るあり」と云ひ給ひました、是實にキリストは即ち神に歸るの途亦た其案内者であります、

第三日

人は皆な病者あれば醫師の必要

救は健康非は病氣である、キリスト常に病を醫し給ひし事は救の表號であります、即ち人の心靈上の病を療すとの意を含むのである、キリストは「健康なるものは醫師の助けを求めず只病あるもの之を求む」と又「我來るは即ち罪ある人を救はん爲めなり」と云ひ給ひました、凡て病即ち罪は或る法則に違背するとか油斷するとかより生ずるのである、是の油斷は違背したるものと同一罪の結果があります、即ち人の病も多くは油斷より來るは事實であります、故に完全なる人とは靈魂と肉體との二方面に於て健康あるものに非らざれば未だ完しと云ふと能はざるのであります、罪と咎とは相對的のものである、即ち人が惡をなすと直ちに咎を覺ゆるのである、人に悪い性質の傾きがある之れは罪人即ち靈魂の病のあるものである、即ち咎は公の働きの結果罪は内部の病である、病は既に中にありて咎の未だ見へざると恰も肉體の病の未だ外部に顯はれざる如きものである、而かして基督の權能は其病を根本的に療さるゝ罪の赦しの福音であります、

第四日

人間は罪の奴隷なるが故に自由を得さず援人を要す

罪は唯に病ばかりではない、罪は人を其奴隷といたします、即ち人は罪の絆に纏はれると力を失ふて之れより逃るゝ氣力も精神も全く弱り果つるのであります、然かし其人は他の方面から見れば丈夫な人なるかも知れませんが、即ち社會上に於ては評判のよき人なるかも知れませんが、其れで無論其徒輩は社會に於て大層善き人の様に思はれますか、れども其實は罪に對して大層弱き奴隷であります、其著しき者は飲酒、情慾等に耽ける者である、彼等は其徒輩の間には強き者の様に思はるゝも實は弱き人であり、例へ人望の如何に好き人にては彼れは即ち其實罪の奴隷である、斯様に彼等物質的人が罪の奴隷となるとは世界に多き事であり、然るに彼等は自分で罪より逃るゝの力を有せず即ち他より之れを助くるの力なくば到底逃るゝと能はざるものであります、而して之れは只に聖書の教たるのみならず又實際の經驗に照らされて知らるゝとであります、而して此罪の價は死であります、永遠の滅亡であります、故に此死より救ひ出さるゝ爲めに救人を要することは最も切なるものであります、

第五日 誘惑に會ふて救を要する事

人間は弱くあります故に誘はれたる者は救ひに逢ひ奴隷が自由を得ましても尙三つの敵がある即ち世と肉體と惡魔であります人が信者に爲りて信仰に依りて活動を初めるも尙前の事を總て止めて終ふとは六つヶ敷くあります彼の保羅が舊き人又新しき人と論じた事も基督のニコデモに對して新に生れる事を教へ給ひし事も矢張り其の心の中に新しき生命の種を植ゆる事を教へた事である即ち新しき心は段々に生命を變化し革める効能がありますなれども夫は急に爲す事は出來ざる者であります(馬可四〇廿六―廿九、參照)斯様に人は段々進歩して聖潔められて完全に向ふ者である併し善き種の中に惡き種稗麥を蒔く者がありますから恒に氣を付けて活動を要すとの教を服膺すべきである故に信者は恒に基督より力を受けて強くなり成長して實を結ぶべきであります恰も病者が藥を飲み又運動をして次第に力を増し加へて健全に爲るが如きである併し人生の經歷は或方面より言へば試験である其の試験に依りて人が力を増して偉大なる者と爲るのであります例せば彼の北の國の寒き所に住ふ人は働いて必要の衣服を求め熱帶國の人は衣服の必要のなき爲に却て比較的弱き人と爲ります恰も其れは勞働に依りて筋肉が強く戰に依り

て兵が強くなるが如く罪惡との戦に依りて信仰が強く堅く爲るのである即ち是れが信仰上の試練であります其れで人は信じてより直ちに完全に爲る事は期すべからざるものである其の心が汚いから恒に神の聖靈の力に依り洗はれて次第に聖潔めらるゝのである主基督は大なる誘惑に逢ひて完全に到り給ひました故に吾人も亦主の如く誘を経て善しとせられ生命の冕を受け完全に達すべきであります、

第六日 人間なる僕に對しての主人の要求

人は自由があると云ひましても實は矢張り僕であります、其の一つは義の僕他は罪の僕或は亦是れを基督の僕一つは惡魔の僕と稱すべきであります、而し此の二個のものは絶對的に反對の者であります、併し光は暗さと共にある光りも暗さも何れもの無き所は亦いのであるなれども光は恒に暗さに照り輝き勝つて居るものである決して暗さが光に勝つ事は無いのであります、是の光は即ち救の福音基督の光であります罪の僕惡魔の奴隸たるものはこの光に依りて、義とせられ基督の僕となる事が出来るのである、此の救は決して消極的にあらずして積極的の者である即ち人が罪を放れて、神に仕へ勤めて

良き行爲を勵むに至ります、是れ即ち主人の要求であります、

第二學課

神の人間の爲に個人的の働き

第一日 神は靈魂の價を重んじ給ふ事

靈魂の失はるゝ事は誠に恐ろしき人生の難船であります路加傳十五章に於て三度び顯はしたる大なる喜びは神が是の價値を重んずるからの喜びであります彼の兄の喜ばずして却つて啞くのは其の價値を認めざる故であります、世の多くの基督信者は自分の爲に救を受けて居ましても尙其の靈魂の價値を知らざるが故に熾んに傳道すると云ふ心が鈍いのである、若しも神様が人間の靈を重んずると云ふ事を信者各が認めたらば傳道の心も熾んに起るべき筈である、若し人全世界を得るとも其の生命を失はば何の益あらんや(可八〇三十六) 神の尊き價値は自然に於ける價値の外に尙私共に對する價値であります、物を買ふときは其の代價の如何を考ふる如く、人間を罪より買ひ取るに付ては大なる代價を出して爲されたる神が其の靈の價を重んずる事と知るのである、多くの基督信者が、世の幾億萬の滅ぶる靈を見ても尙救の事に油斷する事は靈魂の價を重んぜ

ざるに因るのである、然ば私共は、神の尊き聖旨を知るべきであります。

第二日 人間に對する神の同情

神が人間の事に就て心配し給ふことを知るは一番大切なる事でありませす (可六〇廿五—三十三)、一度靈魂の價値を知る事が出来たらば神が人間の爲に心配しつゝある事も亦知る事が出来るのであります、救の道に就きて一の道理を知るべき必要がある、即ち神が人間の爲に苦みを受け給ひし事である、それは丁度子の行が親の苦と爲るが如きであります、基督の苦みは殊に彼のゲッセマ子に於て血の汗を流し給ひし事も、恐れにわらずして全く救の爲であります、愛の作用を知るものは其の意義を深く知ることが出来るのであります、即ち子の爲に父の苦しみを爲る事の關係に於て明かに判斷する事を得るのである、主の十字架の死は即ち世の人を愛し其の罪を感じて自から之を負ふて犠牲と成り給ひし事である恰も父が子の悪を見て深く心を痛め自からを捧げて子の爲に死する事もあるが如きであります、併し基督の愛は親の愛よりも尙ほ高尚に完全ある意義の存するものであります、基督の福音の大切なる言葉は同情である即ち憐憫であります、

我この多くの人々を憫む既に三日われと共に居しゆる今なにも食物なしもし飢しまゝ其の家に歸さは途間にて憊ん其中に遠處より來れる者あれば也(可八〇二、三)基督は人間の普通の苦をも憐憫で厚き同情を寄せ給ふたのであります、亦路十章三十三節に記されたる或るサマリヤ人が強盜に逢ひし者を憐憫たる事も、矢張り基督が、人間の罪に苦められて居るのを救ふ處の表號であります、更に亦路十五章二十節に彼の放蕩息子が起て其の父に歸へるや、道尙遠きにも拘らず其父之れを見て憫み趨り往きて温情溢れたるも矢張り罪人の神に立歸るを神の愛し給ふてふ愛の表號たる比喻であります、斯様に愛なる神は凡て人間の經驗に同情を以て共に働き、感じ給ふのである、是れ誠に感謝すべき事であります、

第三日 神の計畫(人間の爲に)

神の計畫は世の始めより今に至る迄變る事なく一定であります、始め神が人間を造りし時に神の像に肖せて人を造り給ひました(創一〇六十二)是は人間を造れる初の目的にて亦救の目的である今日の聖靈の働き救の目的も亦同一であります、即ち全きものを造ら

んどの聖旨である、故に罪に依りて像を亡ふも尚ほ救に依りて至きものと爲さんどの救の目的を顯はし給ふたのであります、即ち救は元の目的を達する爲に受けたる所を補ふ途である、其子の像に救はせんと預め之を定む此は其子を多くの兄弟の中に嫡子たらしめん爲なり(羅八〇廿九)是は救の目的である、是の目的を達する爲に其の子を遣はして十字架に釘けて迄救の途を立て賜ひました而して今も尙天に位して救ひ給ふのである、凡て我等の顔を帕子かくして鏡に照すが如く主の榮を見榮に榮いや増さりて其の同じ像に似るなり是れ主即ち鹽に由りてあり(哥後三〇十八)蓋は恰も寫眞を取るに人の像を眼鏡を透して其種板に顯すが如く吾人は神の姿を寫す種板の様な者である、即ち神の榮光は私共に照り私共の心に之を映して盡くのである是れが救の榮光であります、是に於て三つの要件を知るべきである即ち下の如し、第一造られしとき神の像に肖せて造られたる事、第二救ひの目的は人間を神に立ち歸る様に勸める事、第三日々神とキリストに交際して元の像に歸る事、是等の必要の爲には或は假りに人間に罪はかくとも宗教の必要は尙ほありしことならん罪がなかりしからは基督の降りし時に、主に、大なる苦しみは無

かりしならん併し基督との交際は矢張り必要の事なりしならんと思はるるのである、然るに人間は全く神を離れて罪人である併し神は永遠に義なる愛なる神であります、今私共が神の聖旨を伺ひまする時に一種の考へが浮ぶのである、即ち神は至きものを造らんとして人を造りたれども人間は罪を犯すに至りました茲に於て神は二つの自由なる方法を取り給へりそれは丁度此途を歩むとは彼の途を歩む事である即ち、神は罪を亡すの道を取らずして却て神自身を苦め痛め給ふて救の道を取り給ひし事であります、尙之れを譬ふれば人が手足に創を受け痛むも之れを切斷せず其の痛みを忍びて其の創を治癒せしむるの方法を力むるが如きものである、更に亦た之れを例せば人が妻を娶りし後に於ても二途の道があります、一は離縁すると二は自から苦しむのであります、是のときに於て愛なきものは離縁となり愛あるものは即ち苦を忍び自からを殺して其の十字架を負ふに到るのであります、是れは不完全なる人間の妻の事であるが況んや完全なる神の人類に對するの愛は更に優れたものであります、夫れ神は其の生給へる獨子を給ふ程に世の人を愛し給へり(約三〇十六)基督は此等の難を受けて其の榮光に入るに非ずや

(路廿四〇廿六)凡そ人は求めに飽かざれば容易に満足するものに非ず救の道も亦人に本来に求めつゝあるものである故に之を興へなければ人間に満足は無のである、基督が苦しみを受け給ひしは神の愛を満足せしめんためである、神の榮光は何ぞやと曰へば恰も彼の畫工の榮は全き畫を成すに在る様に、神の榮光も亦た其宏大なる目的を達することである、而して是の目的を達することは亦基督の榮光であります、

第四日 神の第一の賜物は光である

光は最初より輝きつゝあり(創一〇一)、光あれと言ひ給ければ光あり併し是は物質的の光である靈性上より言へば光は律法であります即ち神の賜ひし教は光であります殊にモ一に依りて賜ひし教は光である其教の律法は神の愛を顯はせる人の爲あるものであります律法は即ち健康の則である律法に従ふ事は何時も人の利益であります律法に逆して迷ふとは道に於て缺けたる事である丁度物質上の則に背くは肉體の缺け即ち病とあるが如く靈性の則に背くは心の害毒となるです或人は言ふ律法は鎖である故に之れより免かれて自由になるとを六ヶ敷と併し之れは誤であります其れは丁度小兒は輝ける光を見て

手を觸れんと欲します母は之を止めますなれども小兒は終に母の止むるも従はずして手を觸れて痛に苦ます斯様に靈魂上の律法に於ける事も亦同一の次第であります併し神の律法は人を痛める爲めに非ず全く人をして罪を知らしむる益ある者であります即ち倫理的律法は人の光である蓋し誠の人の歩むべき道を示し人の利益なる道を示し又人の危害あることを示すからであります或人が野に歩むや若し光なくば穴に陥の危険に及ぶである之の危険を免かれしむる光は即ち救であります律法は光である故に罪が在るから暗き處があります故に律法は一層の光です若し全き暗き處なくば光の必要を知らざるとである暗き所と光の所と並べて見るときに光の價を知ることが出来ます律法に従ふ者と律法を知らざる者は相並べて見る時に律法に従ふ事の光にして尊きことを増す故に靈魂上の事も律法ある者と律法なき人々の有様を見て律法に従ふことの尤も必要なる事を覺るべきである然れども光のある事丈にては尚ほ不足である其光を見る目が無ければならぬです人が若し其目悪からば何物をも見る事を得ません盲者は何も見る事を得ず其で人が若し心の眼暗ならば神の光を見る事出来ません而して世の多の人は斯様な有様にあるのです己に神を知り

て之を神と崇めず自らを智しと唱へて却て愚者となり(太六〇二七)若爾の目悪からば全身も暗かるべし神は初めより光を與へ給ひましたなれども人の目暗きが故に其の光を見る事が出来ません併し神は其光を見る事の出来る人を重じ給ひます而して彼のアブラハムは即ち其光を見て其道を歩みたる者である故に之のアブラハムを選びて恵み賜ひました又モーセが棘の中に火の燃えて居を見ましたから亦特別の光を與へ賜ひました勿論他の國にも神の賜の賜物は有けれどもイスラエル國には亦特別の賜物を與へられたのであります。

第五日

第二の賜物は神が基督を遣し給ひし事である

人間が光が見えぬから基督が降りまして交際してから人間をして見せしむるの恩恵を與ました例へば人が所を尋て見當らざるるときに之を導きて教ゆる人あれば例へ其人の明に知る事は有ませんも其導人の爲め幸を得るのであります聖書に基督は光なりとあり尙(約一〇一四)聖文には其榮光を見るに眞に父の生み給へる獨子の榮光にして云々とある故單に光のみには非ず恩恵と眞理に満ち給ふので有ます殊に満てりどあり注意す

べし(哥後四〇六)彼光に命して暗きより照出さしめたる神我等をイエス、キリストの面にある神の榮光を知るの光を顯はさしめん爲に我儕の心を照し給へり、即ち神の榮光を知る爲に我儕を照し給ふ恩恵の光であります前の舊約時代の光は唯一の光の部分だけで在ます併し今は凡ての光を直接に示して恰も太陽が上天に照り輝くが如きであります又例へば前に小兒が危き所にありて光が其を教へました今は其母の來りて危き所に行かぬ様直接保護をするが如きであります(約一〇一四)道は肉体と爲りて我儕の間に寄れり即ち道が顯るゝ爲に是非とも肉体と爲らざれば身の權能を現すと出来ませんからキリストの降生の必要が有ります基督の人間と爲り降生し給ふ要は下の如くであります。

- 一 贖の爲に眞理を顯する事
- 二 病氣ある者の爲に醫師である事
- 三 罪の奴隷に爲る者の爲に其を贖て自由を得さずる事
- 四 誘に逢ふ者を助け給ふ事
- 五 基督は年期奉公の主人である事

六 凡ての働に父の愛を顯し給ふ事

是の六要点であります尚聖書に就て見ますれば下の如くあります(哥後五〇一九) 即ち神、基督に在りて世を己と和らがし其罪を之に負はせず且つ和がしむる言を我儕に委ねたり(哥後九〇一五) 其言盡されぬ神の賜物に依りて我神に感謝すとなり、是故に私共の神に對する務は唯頭にて神の事に賛成するにわらずして己を捧けて神の聖旨の爲に働く可きであります、

第六日 神の賜の聖靈

道肉休と爲りて我等の内に宿れりて有ます即ち肉體と言ふ者は確たる一定の所に在るべき者である故に時に限りがあり又所に限りある様なことは基督は與へません即ち降世の肉なる基督は其目的を達したるを以て元の位に歸りたりと記してある併し永久迄も併に在んどの契約聖靈の賜物がある是れ 即 基督の靈で在る即ち基督である基督の肉体は一の所の時に在し其靈は時と所に限りなくある事の出来る永遠の賜物である若し基督尚肉体の儘に在んか世界中何れの所に居る可んや無論僅なる所に居らざるを得ざるに到

るです然れば人も尚遠く其居所に行き恰もエルサレムに行ざるを得ざる人の苦み廣き世界の人々に見るであります其は到底満足と與ふ道でありませぬ故に肉なる基督よりも靈なる基督は私共の爲めに最も必要であります我汝を孤子とせず亦汝等に來らんとは即ち靈の來り給ふとである又天に昇り給ふは時に汝等上よりの力を受くる迄はエルサレムに留れと教へ五旬節の日に靈が火の如く降り給ひました是れ皆約束の聖靈であります茲に於て使徒等は大きな力を以て働くことを得ました故に其時より使徒等は何事も基督の力との信仰が高く且つ確實にありました(使徒行傳二章の記事を御覽なさい) 夫で私共も聖靈が私共を透ふして活動することを信す可きである是の信仰に依りてこそ大なる功能を現すとが出来るのであります併し聖靈は矢張り基督である故に聖靈と共ある基督と併に働く者であります(約一六〇二二一四) 斯様に靈に依りて神は人間を全きに爲し給ひある父基督に依りて救を備へました故に其實を結ぶ様に矢張り聖靈に依り働き給ふのであります即ち靈の結ぶ所は聖書に示されてある(加五〇二二、二三)(加二〇二二) 基督我にありて生るる是が神の賜たる聖靈の偉大なる働きであります、

第二學課 人間の個人的責任

第一日 人を助ける唯一の道

見へることが無ければ光が無益であります即ち道は肉体となりませぬならば人々に生命を興ふるには有ません其様に私共も肉体に依りて其道を顯すの義務があり亦必要があり其の方法は自分の善良なる性質品行を以て基督の力を顯すとである神は其眞理を顯す爲に肉体に依るの必要がありませんから基督を遣はしました併し其顯れが恒に存續する爲に信者が又肉体上に顯はすべき義務を負ふて居てあります我は世の光なり(約九〇五)爾曹は世の光なり(太五〇十四)而して基督曰く我父我を遣はし如く我も爾曹を遣はさん又曰く爾曹は我證人なりと即ち基督信者は基督の代表者基督は神の代表者であります尙又信者は基督の書なりと(哥後三〇三)保羅は示してをります是故説教者が如何に眞理を語るにも其行に依て之を顯さざれば少しも功なき生命なき事に終るのであります即ち道肉体となるは第一は基督第二は信者であります而して又神が基督を遣はし如く基督か信者を遣し給ふたのである是は大に覺ゆべき要點であります(羅十〇八一十五)

を見給へ餘程味ふ可き事である殊に其の十三、十四、十五は最も大切である即ち下の如し(十三)凡て主の名を願求る者は救るべし(十四)然ば未だ信せざる者を何で願求ることを得んや未だ聞かざる者を何で信することを得んや未だ宣る者わらずば何で聞かざることを得んや十五も一遣されずは何で宣ることを得んや録して和平ある言を宣また善事を宣る者の其足は美しき哉)即ち重要な點は下の如くであります(一)遣はす(二)述ぶる(三)開く(四)信する(五)信用して求むる 是等は神の計畫であります

普通傳道は勿論按手せられたる役者の働きは申す迄もかく凡の基督信者は皆傳道するの義務を有して居ります併し夫れは矢張り教會に屬して働くことである教會は即ち立ちたたる宗教の機關であります即ち下の如くあります(一)遣はす所の教會(二)傳道する處の役者(三)開て信して信用する個人 斯く各其働の道が有ます即ち(靈と新婦といふ來れど之を聞者も來れといへ渴く者は來るべし願ふ者は價なしに生命の水を飲むべし(黙二二〇一七)教會に屬せず獨立に働くこのことはいけません矢張り教會に和合して爲すべきである即ち基督の目的は人々をして更に他の人々を改革せしむる爲めに傳道

の任を負はせ給ふのである而して是の人に勤めることは又自らにも大なる利益を受けるのであります今之を例せば商業には或人が責任を負ふて此金此田畑又は寶を守ると言ふ義務があります若しも此の責任の人が能く働かせぬならば其商業は成功なき事とあります其テ東京の或る會社より假りに壹萬圓の責任を以て大阪に來りたるものとすれば大に其責任を盡して之を守り尙更に利殖して會社の業を隆盛にすべきであります斯様に基督信者は神より大なる寶を托せられたる重大なる責に任せねばなりません(羅一〇十四、十五、我はギリシヤ人及び異邦人また智人および愚人にも負へる所あり、是故に我力を盡して福音を爾曹ロマにゐる人々にも傳ふことを願ふ)ポーロは實に萬民に福音を述べ傳へるほどの重大なる責任ある事を感じました併し是は唯にポーロ一人の責任ではありま

第二日

無頓着の罪惡

人間社會の初めには生命迄も餘程無頓着にせられて居ります則ち(創四〇三十四)を見ますれば彼のカインが弟アベルを殺したるごとくありまして其九節に到ります

ば彼れカイン則ち曰く我れ豈我弟の守者ならんやと實に甚しき無頓着であります併し人は兄弟の爲めにも心を置くべきものである然るに基督信者にして兄弟の永生に付て無頓着ではありますまいか

然るに現時は傳道稍熾にありし爲に其一年間に於ても大なる働きの功の見へて多くの信者を増し加しことであります是は當然のことである尙更に益勵されて働く可きであります然るに茲に一つ實話があります其れは或人が其友と十五年の間親密に交りて居ります而して其友に曰く君は基督信者である又曰く君は私を基督信者と爲さんと考へられますか彼友答へて曰く然りと彼れ曰く然らば君に問はん君は私と斯くも長い間交際するにも拘はらず私の靈魂の爲に救の事を談し勸められたることなし故に私は君が如何に基督に依らされば救はれずと曰ふも夫れは偽言ならんと思ひます若し左なくは君は私を愛して居らぬことである君にして眞實私を愛し居らるゝからば其れは其救のことを私に度々告ぐ可き筈である是の實話は私共の最も服膺すべき教諭であります、

第三日

人を基督に従はするのは基督信者の最上の義務

舊約聖書の結第三十三章第一一九を精讀し給へ誠に心す可き神の聖旨が示されてありま
す即ち神は罪人に滅亡を望みます故に信者は福音のラツパを吹きて人々に準備を爲さし
む即ち守望人と爲らねばならぬのである信者が福音のラツパを吹かずば人々は皆亡に入り
ます故に其の民を警むる爲めにラツパを吹かねばならぬのでありませ故に信者は是の大
かる責任を負ふて居るものでありませ元來神の人間に對する目的は其肉体の美と健と又
は智識の智等ではありません即ち神の目的は人間を神の形に造りたるの其至き目的を成
すとでありませ夫れで神は此世か唯だ財が家學問又は社會上の事而已を目的とは爲し給
はぬのである即ち神の目的は人間を神の像に肖せて道德上の榮光に輝くものとせんとの
とでありませ其れで若も其目的を達せぬならば他に於て如何に立派にあるとも其目的を
爲さぬならばそれは全く無益であります恰も傘は雨を防ぐの目的時計は正しく時間を
示すにゐるが如きである人間も亦然りである其造られたる目的に違ふことは大切あるこ
とであります而して救は人間を其目的に達せしむるものとは言ふ可きである即ち救は人
を神に従はしむるものである併し奴隷にするではありません却て人間自らの目的を達せ

しむる自由を與へるものでありませ茲に於て二の注意すべき事があります即ち下の如し
第一は自分の救はれること第二は他人をして救を受けしむること而も是の同胞を愛して
救ひに入しむる事は最も尊き榮光ある任務である彼陶器師の或者は平凡なる水入を造り
ます又或者は立派なる花瓶を造る即ち美術家と稱せられます然るに神の福音の傳道者は
全世界中無上の尊き美術家即ち人間の靈魂をして至く其の造られたるに適することを得
せしめ神の造化の目的を至く成就せしむる働であります故に是の尊き任務に及ぶものは
ありません併し是は唯に義務たるのみならず亦大なる自らの權利であり喜びであります
主基督はサマリヤの婦に傳道し給ひました時に飢へ且つ疲れ給ひしも尙是れ我が糧なり
と仰せ給ひしとである又十字架上の慘絶極まる御苦みの裡にも尙は傍にある盜賊を救ひ
給ふたのであります(約十五〇十一、我この事を爾曹に語るは我が喜なんちらに在て爾
曹の喜を盈しめんが爲めなり)斯程に基督は私共にも其喜を盈たしめんと愛し給ふて居
ます是れは一番大切なる事でありませ若しも私共が今年一年間に百圓を儲けることよりも
百萬圓を儲かることが出来るに致しますれば如何にするのでありませしよるか其は言ふを待

たざることでありましやう斯の如く私共か今神の力を受けて人の永遠無窮なる永生に對する尊き務に立つことが如何に尊重すべきことでは有ますまいか而して此は唯だ貴を喜びたるのみならず亦實に吾人基督に屬けるものゝ大なる責任であります。

第四日 救の目的は勤め

人の價値は勤むる事に依ります是れは基督教的標準である世の人の標準は之と相違してあります即ち富に位に色に或は宴會の席上等に於て價を持つ事であります然し神の教基督の教には神の爲に救の爲に勤むるか最上の價でありあす即ち人の子は自分の爲めにはあらずして全く人の爲めに犠牲と爲り給ひました彼は唯だ神の子たるのみにて價値と申しません其神の爲亦人の爲に勤め給ひましたる勤に因て最も尊ひのであります其れ故に私共人間に於ても其の元の神に與へられたる價値に復ることは亦た其の自らの勤めに因のであります使徒保羅は下の如く記してあります(羅六〇十六一十八、十六爾曹身を獻げ僕とあり誰に従ふとも其従ふところの僕たるを知らるか或は罪の僕とならば死に及び或は順の僕とならば義に及ばん 十七然ども我神に感謝す爾曹は素罪の僕たりしか

と今は既に授られし所の教の範に心より服ひて 十八罪より釋され義の僕となればなり) 即ち要は其勤める所の主人の異なることにてあります然れば私共は其の何れに事へ勤めつゝあるや誠に慎みて考へ可き点であります元來人は社會を離れて單に自分のみに關して生活し活動あることは出来ぬのです聖書にも人は自分の爲に生き又死ぬる者は無いとある若しや自分に死することは出来るとするも自分に生ることは出来ないものである是れは生命の意味である即ち其周圍に關係を及ぼすより哲學的に人生を論したるものであります是れ畢竟人は生命の境遇は物質的の質にあらすして即ち他人に及ぼす生命と生命の關係に於ける貴重なる問題にあるのである故に私共か此最大なる問題に對する動作は人生の最高要件であります而して基督信者に更に下の如く聖書の教があります(加六〇二、なんぢら彼此の勞を任へ斯してキリストの律法を全すべし)(加六〇五、我等望む所のもの即ち信仰を以て義とせらるゝことを靈に由て待なり) 是れ恰も彼の煉化石の建築に於ける其一個の石の自分の責任を負ふて尙ほ他の石の爲めにも重を負ふて居か如く又又彼時計の車の一が他の車を回はし共に一致して其要を全くするが如く私共も人世に處すへ

きである而して是れは明に神基督の求め給ふ勤めであります元來基督は人間の主であり
 ます故に私共は人間に對して勤めねばなりません即ち基督を主人として勤めることであ
 ります是れが基督の命令に従ふて勤める事である今基督の目的は何ろやと伺ひますれば
 (可十〇四十五、蓋人の子の來るも人を役ふ爲にわらず却て人に役はれ且多の人に代る
 の命を與て 贖とならん爲めあり)と斯様に人間を救ける爲めに親切を盡し給ひました
 而して今尙ほ天に昇て活て私共の爲めに斷へす働き給ふのであります基督既に私共を罪
 より血の價を以て買ひ給ひました然れば私共は買はれたるもの即ち基督の屬であります
 然れば私共に義務あることは勿論である併し唯た是の義務のみてありません即ち權理で
 ある亦感恩の激勵であります故に保羅は基督の愛我等を勉ませりとしりました是れ信者
 か救の爲めに取るべき働きの動機たるべきであります、

第五日 勤めと勢力

今人と神との關係を見まするに人は誰れも残らず自分の生命靈魂自分の生活の全部を神
 に任して事へるものが稀れである故に神も亦人に充分の力を任し給ふとが稀れである即
 ち人か生命を神に預ける程其れ程神が力を其人に預けます斯の如く人が充分に神に其命
 を預けませぬならば神は人に充分其力を預けるとはありません是れは神の力の法則即ち
 天然の法であります然れば人の力は天然の法則に適ふ時は力を得然らざれば弱き筈です
 彼の蒸氣機械の運轉に於けるも其法則に従ふに於て強大の力を顯し若し不完全なる所あ
 れば力も之に應じて弱きが如きである二十世紀の文明は人間が天然の法則に適して天然
 の力を受くるの機械を發明したるを以て發達したる文明であると申して少も差支は無で
 せう則ち天然の法則は神の法則である併し是れは物質的の法則である斯て靈界にも更に
 幽玄なる神の法則があります是の神の法に従ふに於て亦人の靈性に大なる力を受け之に
 反されば亦其自然の結果を見ることは明瞭なる事實であります恰も其は彼の電氣力の如
 きものである即ちゴムや硝子管は電力を通せず又線の一端が土に着くか或は中間に切斷
 し居れば其の力は止つてしまふのでせう又線の性質に依りても鐵線は半分位の力を受け
 ます鎮鍮赤銅又は金銀等の適當なる線を用ふる時は能く其の全力を通ずることを得るの
 である是は確かある法則であります斯の如く吾人は神の靈魂上の完き法則に従ふならば

神の力を受くるのみならず其に依りて更に大なる他の力を受くる法則を發見します電氣の力の法則は尚ほ他の事を發見するの力を受くるなり即ち彼マコツレー氏の發見に係る無線電信の如くに深遠なるに至るのである如此人か今の則に従ふ事は更に又或他の大切なる教と力を與へらるゝ來因でありませす彼モーセ アブラハム パウロに於て皆是の楷模を登りたるものである故に現今の人にては其至心至靈を委して働くことあらんには神の聖靈は之を助けて偉大なる業を爲さしめ給ふのでありませす基督は曰く我が往くは爾曹に益ありと斯く吾人をして神と直接に交りを爲さしめ給ふのである(約十六〇二十三、二十四、然と彼即ち眞理の靈の來らんとす爾曹を導きて凡ての眞理を知しむべし蓋かれ己に由て語るにあらす其聞し所の事を爾曹に言又來らんとするを爾曹に示すべければあり 十四彼我榮を顯さん蓋わか物を受て爾曹に示せば也) 又(約十五〇二十六、われ訓慰師を父より遣らん即ち父より出る眞理の靈なり其來る時我爲に證をなすべし) (約十四〇二十四、我を愛せざる者は我言を守らす爾曹の間どころの言は我言にあらす我を遣はしと父の言あり) 是れ唯に古昔の偉人に於けるのみてはありません即ち吾人の均しく與り得べ

き神の賜物でありませす、

第六日 模範に對する責任

ブルツクス教師曰く基督の主たる證據は議論的證據にあらすして人物にあり推測式にあらすして斯く人格の勢力偉大なるにありと故に吾人が世に處するの道も亦是れ基督の道に從て善き行をすることは最も勢力ある事である(羅十二〇一一、然は兄弟よ我神の諸の慈悲を以て爾曹に勸む其身を神の意に適ふ聖き活る祭物となして神に獻よ是れ當然の祭あり 二、又この世に效ふ勿れ爾曹神の全くかつ善にして悦ふべき旨を知らんが爲めに心を化へて新にせよ) 如此聖き行あくば如何に善き教を語るとも其れは全く無益でせう然れど善き行とを以て善き言葉を語るときは其の力は非常に感しを與へるのである有名ある或る無神論者が或る一牧師に申しましたに私はわきたと共に長く居るならば不得止信者となるであらふと言ふことである又彼有名なる探險家スタンレー氏の信者となりたる動機は彼のリビングストン師の聖き行爲を見て感化せられたるにありませす或人の生活する行爲と其勸めの多くは議論的に傾て居るのである其は基督の道に人を導く効

力あると共に又其防害と爲ることもあり得ます斯く其行爲の善美あるを見れば以て基督教の能力生命を覺ることを得べく若し之に反せば則ち其れを以て直ちに基督教の説く所は聖書中に甚だ美なりと雖も其實力は無きものなりと断定せしむるに到るのであります是れ誠に信者の注意して毫も忘る可らざることであるパウロは下の如く申しました(哥后三〇二、三三) 爾曹は我儕の書なり即ち我儕心に書せり衆の人の知どころ讀むどころあり三、爾曹は明かに我儕か役事に由て筆るキリストの書なり是墨にあらす活神の靈にて記し又石碑に非らず心の肉碑に記したり) 斯て尚ほ彼れ我儕をして新約の役者となるに足らしむ、儀父に事ふるにあらす靈に事ふるありと明に示されてあります又彼有名あるドジモント教師曰く基督教の事業の最大なる要求は役者の人數の敢て多きにわらず唯其性質の最も善良なるにあり蓋は敵より受くる疵は友より受くる疵よりは淺しと斯は實に至言と申さねばなりません然れば基督教會の要求は果して何の標準にありやと問へば即ち自己中心の我慾主義でありません亦厭世的悲觀の非人格でもありません唯だ專念一意に神中心の献身主義に基し大に活動して天與の人格を發展するにありませ斯くて信者の斷

然たる決心か實行を伴ひ他人が之を見て以て基督に到るの道程を作るべきである是れ模範に對するの責任であります、

第四學課 個人的働きの準備

第一日 其必要を認める事

只漠然役者になるの希望にては之を十分なりといふことは出来ません(徒十八〇二四—二八) に依れば彼のアポロは熱心なる傳道者なりしが其準備なき爲め初は成効しませんでした但其準備を経て後大なる働きが出来ました斯く成効の前に其成効の條件を十分に準備せされば成効することはありません故に其條件を十分に覺ることは大切であります然し或人は十分傳道する實力なしとて單に其れを申譯として實地の働きを致しませぬものもあり得ますなれども是は準備する責任のあることを顧みず徒に其の責を辭する譯にて甚だ不都合なる申譯である兵士陣に立つ未だ戰を學ひ居らずば其は不覺千萬である故に先づ之を學ぶ可きである而して此準備を整ふるに當り下の如き大方針を要するです

第一 基督に事ふる大希望大決心大覺悟である此の希望は只自然に起ることにわらずし

て其人が適當の方法を以て其希望決心覺悟を強く決定することにありませぬ即ち前に述べたる様に人の靈魂上の有様に付て其救の大切なる事を能く覺るときは之を救はんどの大希望は沸然として生し來るのです是其靈魂の價値又其滅亡を憂慮して天性の活動を惹起し以て神と基督の聖旨を体して大に其道の爲に盡さんと感激するでありませぬ斯くて此の働きの爲に折角神の聖靈の能力の宿り賜ふ様に待ち望むべきです而して恒に自分の救を眞面目に考へ感恩の心情が裡に燃へて火の加く我れ若し福音を傳へずば禍ありと意識せねばありませぬ而して尙靜かに其の善き方法を求めて其説教其他の方法を研究して出來る丈完全に其準備を要するのであります主は弟子等を選びて之を遣はし給ふや三年間之を教へ導きて其準備を爲させ賜ふたではありませぬ然ば吾人の修養を要する事や申す迄もありません尙ほ教會には傳道者牧者が種々なる人物の其性質に従て指導開發して傳道の實力を得せしめ自ら獨り働くのみならず他の凡ての信者をして其の分を知りて之を働かしむるとは適當なる方法で保維は常に獨りで旅行せず適當なる補助者を連れて行かれました故に今も教役者は此注意を以て信者をして各適當なる道に伴ひ共に働くべ

きである併し其に付ては矢張り相當の準備と其實地の活動の伴ふ事を要するのである例へは醫師たらんとするものは先づ書籍を學ぶ而已にては何の用をなしません其の醫學と醫術との調和を實地的習得せざればならぬでせう斯く傳道者たるものも基督教の根基たる聖書に就き深く神の御心の如何なるかを十分に知得し併せて之を實地に傳ふるの道を知らねばなりません聖書の一面を見て他の一面を解釋すること完きものにわらず多の學問又は強き論辨等は其の最も必要あることにわらず之を實際に考ふれば或人が書物に就ては機械を運用することを研究を致して居りましたが併し其實地を知りませんでした故に此人は直に其機械を運用して其の實効を納むる事が出來なかつたのでありわす斯様に基督教の議論と智識に富みて居る事ありとも若し眞に其の救の眞理を實際に自得して居りませんならば其れは未だ他人を救ふに於て充分なる勢力は無のである是れは多くの神學校學生に於ける欠点であります即ち彼等の多くは未だ實際の經驗が乏しくあります故に其傳道の數々失敗することがあります是れ即ち傳道者の欠点に基することか多です議論的書籍を著すと實際的人を救ふことは自ら別かあり丁度畫工を其批評家の如きであり

まず則ち學問と實地が相待て初めて成效するので故に學問も亦實地も何れも大切なるものである是の故に凡ての傳道者は其傳道を爲すと共に大に内に養ふの必要を確信し益々以て準備を怠るべからざることであります、

第二日 信仰

神と神の事業に關する事に於て神を知り之を信用するとは即ち信仰である罪の源は信仰である而て是不信仰は凡の失敗の源であります是不信仰は唯に神の助けを求むることを油斷するとのみではありません尙大切なる無くてならぬ事は罪と救である即ち人間の救の要求に對する神の御業を信す可きであります多の人は別に神の言を疑ふ事は無けれども其實際に於て人の靈魂の滅亡を左程に信することがありません故に熱心がありません是は即ち智識的の信仰にして實際的の信仰を兼ねざる者である其て人々が實際滅亡に至ると信するならば即ち之を救ふ爲に働く可きであります若も尙其救の爲に働くことがありませんならば其人の信仰は偽りであります茲に最も大切なる点があります即ち其信仰は基督に於ける救の愛を信する事である夫は基督教を單に道德上の善良なる教なり道ありと云ふのみにてはなりません是は人の爲國の爲善き教利益有る者と考ふる丈でかい更に進で天下の人の依頼むべき唯一の救の道ありと確信するが第一の要点である若も是信仰なくば其は格別の幸福であります(徒四〇一二)即ち基督に依りて受くる救の恩寵である其親切である其實血であります斯して基督は私共に天父を顯はし給ふたのであります故に基督の救は全く人を罪の權威より救ふの力あるを信す可きである又基督を信すると共に父ある神を信す可きである蓋は基督に依らざれば父なる神を見ると能はずとある然れば眞に勢力ある説教は即ち基督が救給ふ事を説の外はありません更に進で大切なるとは神が斷然自ら信する者の爲めに働きて恒に強助を與へ給と確に信仰する事であります

第三日 聖潔

聖潔は神の能力を受くる根本であります聖書を讀めば初めより終まで恒に一貫して主張せられある者は聖潔でありますモーセの儀式的律法も皆其主義にあるとである即ち外部を潔むるとは内部に於ける精神的聖潔の模標であります人が表面に白塗の墓あらば神を

欺くとは無心こころなきが清きよからざる者は凡おほろ人の面前まへあたりに人が品行ひんぎやうの正ただしき者の如ごとく見ゆるも其内そのうち部の事ことは却かへつて正ただしくも潔きよくも無なき事ことである是内こゝ部の不潔けがれなるとは神かみの能力ちからを受うくる事ことの出で來きぬ妨さまたけです夫それで教役けうやく者は若もし其内そのうちに汚けがれを有あするあらば速すみやかに悔改かへつむべきである何人なんびとにても此この點ちんに克かつとを得えずば凡すべての事ことに於おいて失敗しつぱいです(哥前こぜん三〇十六一十九)是こゝに一の則おきてがわりますす即すなはち茲こゝに二人にんあつ在あつて一ひとは潔きよく一ひとは汚きたき者ものである場合ばあひ而しかも其一人ひとが勢力せりよくつよにありしならば他たの一人ひとは其そのに感化かんくわせらるゝのである故ゆゑに其強そのつよき友ともが善良ぜんりやうならざる人々ひと々とあり亦また自分じぶんも其感化そのかんくわに由よつて影響へいやうを受うくるのである是こゝは事實じじつであります尙なほ一ツの則おきては譬たとへを以もつて説明せつめいすれば其は清水しみづの如ごとくである之これに黒くろインキ一滴てきを落おすならば全体ぜんたいを汚けがすでせふ然しかり其水そのみづが湧わき出いづる流ながる泉いづみであるならば澤山たくさんの黒くろインキを投なげしる事ことあるも左程さほどの害がいは受うくことなく却かへつて之これを清きよめる者ものであります其は泉いづみより滾こん々と流ながれて水みづに生命いのちがある故ゆゑです若もしも溜水たまりみづならば一滴てきのインキの爲ために全体ぜんたいを汚けがさるゝと同一どういに基督きりすと信者しんじやが若もし恒つねに基督きりすとに就ついて活動くわつどうし居ゐらねば一ツの罪惡ざいあくの爲ために至性せいせいを汚けがします然しかれども基督きりすとと共に活動くわつどうし居ゐらば直ただに其汚けがれは潔きよめられ元もとの清きよきに復かへります更さらに亦また一ツの則おきては若もし人ひとが其罪惡そのざいあくに居ゐるを好このみ其悔その悔かへきものであります、

改かへせずは神かみは之これを救すくはず又助またたくるとも出来できません斯かる汚けがれは神かみに交まはる大なる妨さまたげとなり
ます(太五〇七)(詩五一〇十)、(詩十九〇十二)之これに依たうて考かんがふれば人ひとは即すなはち唯一人ひとの
主基督しゆきりすとなる幹かきに連つらなり其枝そのえだは爲ために潔きよめを受け益ます々繁さかく多おほくの實みを結むすぶことを得うるの外ほかは道みちな
きものであります、

第四日 祈禱

静しづかある朝夕あすけの時間じかんに祈いのる習慣しふくわんあくば充分じゆうぶんなる祈禱いのちの力ちからを得えられません基督きりすとも其極そのごく必要ひつやうを
ることを思おもひ給たまひしと見みらるゝことがあります(可一〇三五)如ごとく基督きりすとは夜明よあけ前まへ迄まで人無ひと
き所ところにて祈いのり給たまへると基督きりすとの爲ために必要ひつやうなりしとすれば吾人われに於おいて祈いのりの大切たいせつあるとは論ろんを
俟まちたぬとであります博士はかせデール氏しの申まをされますに多おほくの事ことの爲ために暇いひまを得えずと雖いへども暇いひまを作る
事ことをせざるべからずと即すなはち其適當そのてきとうの機會きかいは餘あまり無なき様に思おもひますが他たの事ことを止やめて適當てきとう
の時間じかんを作つくるとは大切たいせつなることであります祈いのりの爲ためには斯かく勤つとむ可べき者もので有あります譬たとへば彼かれの潜ひそ
水業者すゐげふしやは潜行せんかうし働はたらくのは交際かうさいするのでなく働はたらく爲ためである其世そのよは周圍しうゐを壓迫あつぱくするの戦たたかい
る併しあし其生命そのいのちは上うへから受うくる空氣くわいである其空氣そのくわいは管中くわんちゆうを通とおつて上うへの船ふねに連つらなり以もつて呼吸こきふする

のである故に萬一其管を斷れたならば其れは直に死でしまひます如斯信者の世に在るは唯生活の爲にわらず世の救の爲めに神より生命を受けて働べく命せられて居るのであります故に絶す神と連続せねばなりません若も少にては切れる時は丁度潜水者の生命と同様であります而て此の生命の連続は即ち祈である此祈の管を通ふして絶へず生命は源より生命を受く可であります然れば基督は絶えず祈る事の必要あることを感せられ是を教へ給ふたのである而も我等今の信者か此祈を重せざることは大なる不思議と申さねばなりません彼ルーテルは大切なる事業のある時には他の日よりも早く起きて多く祈られました世の普通の人は實務の多ければ其祈の時を却て多くせられぬとであります今一ツは祈の分量よりも亦其祈の性質を考ふることも大切である勿論眞實に聖潔き信仰を以て祈ることの必要あるは言ふ迄も無き事なれども其外の必要なることは他人の爲に心配して祈る事が極大切である人が自己の事よりも他人の爲に熱心に心配して祈る時には神は則ち許し給ひであります(路二一〇五一—三)参照斯様に我等が他人の爲に最も熱心に心配することは神より大なる助を受るとである主基督は人の爲めに殊に罪人の爲めに犠牲と爲り給ひました

した、故に私共も他人の爲に力を盡して祈るべき筈であります、然し誤るべからざるの一事は他人の爲に働きつゝありと思ふ内に内部に自己の榮譽の爲にする事が其動機とあらば實に可憐むべきであります、故に凡ての望みは眞に其人の爲めに求めつゝあるか或は我名譽の爲めならざるかを考へねばなりません、要は先づ自らを全く忘れて神の大事業の爲め他の人の爲めに働くの確信である、されば其確信は神の祝福を受けて大なる働きを表すことを得るに於て間違なきものです、之れ實に我主基督の主義聖旨であります

第五日 聖書

聖書は聖靈の劍でありますから其の劍の扱方を知らざれば無益なるのみならず却つて危険であります、故に聖書に對して能く熟達することを勤めねばなりません、聖書を繙かば其歴史の多くは個人歴史である、是れ私共の爲に神が教訓として其生命を示し給へる所以である、即ち其の記事は亦自からの経験に等しく應用の出来る事でありませぬ(哥前十〇—十参照)斯く神が他の人を導き給ひし事を見て自分の道をも明かに知らるゝのであります、蓋かれ聖書を引てイエスのキリストある事を示し人々の前にてユダヤ人

を甚く辨折たれば也(使徒行傳十八〇廿八)斯様に聖書を用ひて居る、爾學びて信する處の事を守るべし蓋あんに誰に由て之を學びかつ幼少ときより聖書を識ことを知ばなり聖書は爾をしてキリストイエスを信するに因て救を得しめん爲に智慧を予ふるもの也……是れ神の人の完全を得て諸の善事を行ふに缺なからん爲なり(提后三〇十四、十七)即ち此様に聖書は大切でありますから個人の働きに於て功益を見んとするものは先づ聖書に能く達せねばなりません、又聖書は生命のパンであります、人は三度の食事を爲さざれば充分に活動する力を得ざる者であります其様に靈的活動を要するものは亦其の糧たる聖書を充分に研究して其の力を受けねばなりません今又軍隊が其の糧食を受くる所より離れ居るとせんかろは其の軍隊の弱点でありまして敗けて終ふのである、彼の露國のクロバトキン將軍の大軍にして鐵道の連絡なく糧食と離れたりとせんか直ちに敗軍をなすのであります、或る信者は其靈魂は飢て居る即ち糧を取りません故に力が無い、是れは聖書より離れ、祈りを怠りて神との間が切れて居るからである、又た或る人が一度牧師の言により絶へず聖書を讀むならば強く爲ります併し若し一日でも止めた時は直ちに其

の損かりしことを深く感ずるに至ると聞きまして之を實行せんと誠實に致しましたが其の言の如く大なる喜びを得ました、或る日朝早く急に旅行し爲に瀟車の時間に差迫りし爲常の如く聖書を研究するの時がありませんでした所が非常に不愉快に感じて爲に絶へず讀むべき必要のある事を一層深く覺へしどの事である、是神の言は活きて且つ權能あり而かも私共靈性の糧たる事を疑ふべからざる事實であります、

第六日 個人を研究する事

凡る人は町寧に周到なる頓智を以てすれば幾分か人格を常に同じ様にする傾きがある故に人を知る爲に自分を調べて研究する事は能き工夫である、又た人の心、人の弱点、人の傾向、人の有様等を見て其れを自分の情態と比較し参考して研究する事も適當なる方法である是れ自分を研究する第一の要素です、併し之れにては尙ほ不足である、人は各異なる点ある事は恰も其の顔の異なるが如く其の心も力も望も皆各異なる者であります、故に個人的傳道は周圍の人を研究して其望、傾向、智力其の爲す所等を研究する事が尤も必要である、併し是れは後ちの學課に於て詳細に説くべきなれば今は只其中に就

さて極めて必要ある事のみを説くのであります、最も能く人を改心せしむる能力を有する者は即ち是等の人に就ての研究すべき色々要点を悉く知らして其急所を見認めて適當なる働きを爲し得るからであります、併し是れに伴ふて他人を導く爲には即ち亦自分を導き治めて守る事が大切なることである、他人を導く事は最も至難の事であるが併し亦自分の望み感情、傾向等を充分に悟りて之れを慎み守る事は他人に厚き同情を持ちて働く時に際して尙一層重要なる事でありませす、之れに對して有名なる教役者の其働きを調べて見る事は大切である即ち主基督は此様に叮嚀にして適當なる頓智を以てサマリヤの婦を導き給ひました其の始めより終り迄叮嚀に導き其罪を顯はし給ひましたニコデモは其の婦とは大に異なるものである然かも之を懇切に説き給ひました又彼の富める青年にも其の爲す所の尤も善き事を示し更に進んで其の足らざる所を示して其所有を賣りて施せど周到に教へ給ひました、是れは即ち主が人々に對して各異なりたる適當の方法を以て教られたる事を知ることが出来る、而して亦パウロに就て見るも、彼れパウロも亦斯様なる頓智の行を見らるゝのである、即ちアンテオケ及びアデンスの教會に傳へし事は各

異りたる方法でありました、是れ其聽く人に應じて亦其方法も異ならざるを得ざるからである(徒二十一〇七—四十参照)即ちパウロは希臘語を以て百人の長に語り猶太人にへブル語を傳へられたり是れ各々何れの語にても相通する事あれども其人に尤も適當なるものを撰み取りし所以である、是れは丁度醫師が其病人の詳細なる事情を知り居るからば尙一層適切なる療養の道を撰む事が出来る如き例である、故に教役者たるの任にあるものも亦是れと同じく個人の研究が必要であります、而して此の準備は衣を着るが如く直ちに着る事も又學問を學ぶと云ふ様な譯にも行きません是れは長き間に熟練して得ざるべからざる者である然れども適當の準備方法が無いからと云ふて働きを見合す事は善くありません却て勤むべきである而して之れ等の事は亦全く神に依り頼まざれば只容易に得らるゝ事ではありませむ、彼の有名なる米國のムーデー氏も多くの欠点ある人でありましたが熱心に神に祈りて個人を研究する事と聖書を調べる事を勤めてより其大なる力を得られしこの事である是れ神は之等を望む者に對しては與へんと望み給ふ事切なる者でありますから私共が各熱心に勵むべきであります、元來救の事業は神が充分なる

準備を爲され給ふのでありますから、人が熱心に之を求むるならば神は惜みなく相當に能力を與へて其人として満足を得さしめ給ふものであります。

第五學課

躊躇者

第一日 モーゼの經驗

凡人は多く初めに於て神の爲に働くべき者であると思ふ事あるも其の義務を任ずるに附ては躊躇する傾きの多くあるものである其の一例は即ちモーゼであります、彼れモーゼは初めは躊躇する傾無く埃及人が其の兄弟を打つを見て直に其兄弟を自由に爲さしめ度と考へたなれども又直ちに失望を致しました是れは今少し躊躇して能く考へ決心せざりし爲でありました併し其の後神がモーゼを呼び賜ひて命せられた時はモーゼは失望して私は能はざることであると答へました、併し其が準備の爲に躊躇することあらば或は適當の事でもあるが斯く斷然と之れを拒絶したるとは誠に宣しくない事である、是れ全くモーゼの失望は絶望に近きことでありまして大なる誤りであります、例せば米國にある多くの金満家には其の職業商賣に充分なる成功を遂げたる者があります、併し是

等の成功せる人の經歷を調べますれば亦度々失敗をも重ねしものである是れ其の欠点を知りて更に準備をなし遂に成功の域に達したるものであります、モーゼは初めに其企を誤りまして失望を致しましたなれども神は之れが爲に其の事を許し給ひません却て更に心を改めて其の準備を爲し奮勵すべき事を命じて勵まし給ひました即ちモーゼは棘の中に神の命を受けました時に自らの足らざるを述べて御辭退を致しましたなれども神は之れを聞き入れ給はざりき、是れ其申分は人間の目の前には或は適當かも知れませんが、神の前には不適當なるのみならず亦大なる不敬虔の事であります、蓋し神は全能の力を持ち給ふが故に神の思召は如何なる事にも成し遂げらるべきであります、召されたる者は唯だ任せ奉りて服従すべき者である、モーゼが私は訥辯でありますと申しますれば神は別に之れを助け給ひました而已ならず、パロ王を責むるにも其方法を示しました故にモーゼは只其出来る丈の自分の力を盡して爲す事である、成功の責任は全く神が自身に負ひ給ふて、モーゼは唯機械として用ゐる給ふた事であります、是れ聖書に示されたる私共の弱き時に神の力は私共を通じて働か給ふとの聖旨を見る事であります、我に

言給ひけるは我が思なんぢに足れり蓋わが能は弱に於て全ければ也この故に寧ろ欣びて
 自己の弱に誇らん是れキリストの能われに寓らん爲なり之れに因て我キリストの爲に懦
 弱と凌辱と空乏と迫害と患難を樂みとせり蓋われ弱き時に強ければ也(哥后十二〇九
 一十)是れは實に使徒パウロの實驗せられたる信仰上の活歴史であります是れ其我等の
 弱き時に神の力は私共の上に働き給ふて却つて善良ある意外の結果を顯すものたる事
 を教へられたる事である、如何となれば人は己の勤なる事を深く感ずるに於て全く神の
 旨に従ふに到り是に完全なる力を受けて其の適當なる準備を爲し得らるゝに到るのであ
 ります、是れ即ち神の用ゐ給ふ時である、併し人が若しも自暴自棄するならば神に對し
 て悪しく且つ不忠あるのみならず亦其身を誤るゝのである故に唯だ自からの力を思はず全
 く神の力に信じて其命令に従ふ時は神の靈と力を受けて亦大なる結果の顯るゝものであ
 ります、

第二日 ダビデの經驗

撒母耳前書十七章三十四より四十節の記事を見ますとダビデが敵將ゴリアテに會戦せん

とするとき於て、彼れダビデはソロ王より武器を着くべく與へられました、併し其
 の不適當なるを見て止むる事に致しました是れは矢張り躊躇でありますも此は適當な
 る躊躇である、ダビデは牧羊の事に従ひ神の助けを得て或る時は猛獸をも打倒して羊の
 生命を全ふする事を得ました、こは信仰の實驗を有せられ深く神に信用するの心が熾で
 わりましたから彼は此の大なる敵將ゴリアテに向はんとするも別に恐怖の念はありませ
 ん唯厚く神の力に倚頼したる事であります、然れども他の人の爲すが如き眞似を爲して
 敵對する事は果して適當なるかと彼は躊躇を致したるのであります、其はソロ王の
 武器を用ひて戦ふとは適當なるが如く思はれますもダビデ自身に取りましては却て此れ
 は由自なる活動をなし能はざる事であると思はれて躊躇し終に用ひざりし事である茲に
 或人は辯者でありますから其雄辯を揮ふて話を致しました、是れ其辯を以て働かねばな
 らぬと思ひますも是は場合に依りて又誤りであります、恰もダビデが其武器を辭せる
 か如き者である、又或人は拙き辯を以て働きて居ります、然るに此人は巧みに善き結果
 を得ますも私共が之れか眞似をして働く術とするとは己れの成功を自ら捨つる失敗の

大原因である、即ち人は各々銘々が自分の性質に適應したる各種別々の方法によりて成功ある働きがあるものである、或人は説教をなすに當たり草稿を携へ或人は之を携へることを要せざる等人各自の特別ある傾向のあるものにて互に何れも一方に眞似て各自の本質を害することは不適當である、然れども其各長所を見て次第に改めて其完全さを求むるとは大切なるのである、マビデは聊か躊躇せしむ其自ら信ずる所によりて人の眞似を斥けたるとは確かに彼れの成功したる原因であります故に彼が暫くの躊躇は此決心を生み出したる適當なるものであります、其故に有名なる牧師傳道師等の事蹟を研究するとなどの價値は唯其れに眞似る譯には非らずして之れより種々なる教訓を學び自己の爲す所を改め完全に達せんとするに利益あるものである、例せば西洋の衣物は能く身体に合ひ見事なるを見て直ちに其まゝを見本として仕立をなさんとせば之れ實に愚なる極であります、然れども其裁縫の則を學び取りて而して之れを我身に適應する様にすれば其れは餘程賢明なる行であります、或人は明聲の高さに依りムーデー又はサンキー氏等の事業を眞似するに及びます、又他の人のあしつゝある孤兒院等の事業を見て之

れを眞似するに及びますも之は第一に自分の天職ありや否やを十二分に攻究してよりの上なすべき事である況や神の直接なる事業は又特別なるものでありますから又深き注意を要することである、

第三日 イザヤの經驗

以賽亞書第六章に預言者が高く掲げる御座にエホバの座し給ひしを見しに其衣の裾は殿に充ちセラピン其上に立つと斯く聖なる御神を拜したる以賽亞は其自己の汚れを深く感して躊躇する所がありました、併し其責任を感じ働く可き務めの甚だ大切なることを思ひました、然れども自分は全く價なきものあるが故に尊き神の大事業に堪へざるを感じたるも其れを止めんとは定めません、只其能力なきことを思ふて爲めに躊躇しました、イザヤは如何にして自己の汚れを知りしとなれば即ち彼は聖なる神の榮光を抑でより明かに自己を知るとを得たのである、誰れにても神の聖者の榮光に向ふに於ては其自己の汚れを感じることは又自然の事であります、イザヤは當時國中にて最もある聖者ありしならんも尚ほ彼れにして如斯とせば他は思ひ半ばに過ぐる所である、併かし此イザヤの躊躇は

彼れの準備とありて彼れイザヤが神に聖めらるゝ方法たりしことを疑ふ可からざることであり、是れ人は自分の欠点と汚れとを知るに至らざれば神に聖めらるゝと能はざるものである、而して神の聖あることを知ると共に己れの汚れを明らかにせられ又隨て他の人々の汚れあることを判然せらるゝに至りてより大に其國民の潔め救の必要あることを併せて感せらるゝに至るものであります「此に天使の獨り 鉗をもて壇の上よりとりたる熱き炭を手携へて我れに飛び來たり」と聖書にあります、此壇は贖ひの形にして即ち基督の贖によりて贖はれ活かされたるものである、譬の意義も是れに外ならぬのである、即ち天使は壇の火にてイザヤを聖められました、基督の贖ひも我儕を潔め給ふに於て同一の意義であります、併しイザヤが其潔を受けて躊躇せず我れ「茲にあり我れを遣はし給へ」と答へ奉りし様に私共基督の信者たる者も其神よりの潔めを受け居ることを信する限りは主よ我れを遣はし給へと答へ奉る可き事でありませぬ、

第四日 ヨナの經驗

エホバ ヨナに命じて彼の大なる市ニ子へに行きて傳道せよと彼を撰み給ひました、ヨナ

は是を好まざるを以て舟にてタルシ、に涉りニ子へに行くことを躊躇しました、時に舟途中にて大暴風に會ひて苦み同乗の人々種々事を議するに至りました、ヨナは遂に己れを海に投せよと即ち海に投せられました、而かも神は大魚をもて彼れを救ひ遂にニ子へに送り給ひました、是れ神がニ子へを救はん爲めに彼れを救ひて彼處に到らしめし事である、斯くてニ子へは幸に救ひを得ました、併かしヨナは却て之れを惡しく思ふて怒りました、是れ彼の胸中其働きを重んずるの感なかりしは勿論彼れはニネベの敵國たる感情より寧ろ其滅びなことを欲したりしやも知れませんよしや斯程まであらざりしにもせよ彼れは自己以外の爲め著しく救ひの必要を感じ居らざりしとは間違ひなきことと思はれます、現時に於ても多くの人は他人の亡びを好み居る程の事はなかるべきも其滅ぶことを見ても格別之を氣の毒に感ずるとか少い故に救ひの道に付て躊躇するものであります、併かし唯人の大切なるとは自分の天職を自覺する事である、ヨナも船にありて彼の船頭の浪高くして危険なりと云ふを聞くに至りますや直ちに自らの罪を感じて其使命を受けし天職を蔑視せしを後悔したであらうと思はるゝであります、之れと同じく現時の人にも救

の事を充分に了解せざるが故に熱誠ある同情の活動と其天職の自覚に至らざるものがあ
 る、彼のヨナがタルソ行きの船を見て是は適當の時と思ふて其使命を忘れしが如く今も
 世に多くの信者傳道者等が他の職務を見るに當り之れは自己に適當なる業となして其使
 命天職は果して何れにあるや充分に考慮すべきことである、而して恰もヨナが逃れんとし
 て難船に逢遇し初めて悔ゆるに至れるが如き者多いのである、斯くして遂にヨナの如く
 神の指令の下に其天職に従ひ傳道をあすに至るものがあります、是れ自ら経験して其人
 が人々を罪を救ふことを熱心にするに至るからであります、神は豫めヨナのなすべき勤め
 を準備せしをもて大なる懲罪により之を回復せしめ給ひました、之れは又凡ての人にも
 なし給ふ神の計畫であります、ヨナは又ニ子への救を聞きて怪しみ驚き且つ失望を致し
 ました、人々も餘り他の人を充分に愛して居らざるをもて其人々の救るゝを喜ぶことも能
 はず故に其働さも熱心ならざるとかあります、要するに眞正の愛がありませんからば又
 眞正の喜びがありません、ヨナがエホハの命に従はず逃げ隠れたるとは大なる愚である、
 故に私共之に深く鑑みて斯る愚かなることに習ふとなく宜しく神よりの使命を自覺し天

職に従順なるべきであります、

第五日 ペテロの経験

良心に従ふことを躊躇する人は其種類色々ある中に自分の受けたる教育によりて斷然信す
 ることなく躊躇する人があります、使徒行傳十章に使徒ペテロが躊躇したとか記されてあ
 る、猶太の教育を受けしペテロは外國人に行く事は其良心の許さざる事でありました、
 併し良心に従ふ躊躇は敢て悪しき事にあらざるも之は正しく直さねばならぬ事ですペテ
 ロは前に反對の説を開きましたたなれども之を認めて居りません、併し基督は萬民を愛す
 ると明かに教へ給ひました、我れは此牢にあらざる別の羊を有てり彼れ等をも引來らん
 彼等我聲を聞かん遂に一の群一の牧者とある可し(約十〇十六)然れども猶太人は自國
 の人のみ救はるゝと信じた、或時クリストは律法の人情義理の大切あるを教へ給
 ひました、或時パリサイ人が安息日に主加人を療せしを見て怨言を言ひました、主は「神は
 憐憫を好みて祭りを好まず」と答へ給ひました、而かし此意義はペテロも充分に了解せ
 なんだ、即ち外國人も救はるゝ事と思へども只猶太教に入り來りてこそ救はるゝ事と

思ひ直接に救はるゝ事なしと思ふたのでしよう、今も斯様なる誤解は傳道の防害となり
 外國人と交際せぬと云ふには非るも我教會に屬せざれば救はるゝ事なしと思はるに至る
 のであります、或人々は傳道する時に或人が他の教會に入らんとする様ありて我教會
 に加はらざるを見て其れからは熱心に働かない人があります、是は大なる誤りである、
 勿論人は別々で教會も亦別派である、其主義も意志に合はざる或る点のある可きも之れ
 か爲め主の業の働かざるを緩ふする如きは甚だ不可ある事である「ヨハネ答へて曰けるは師
 よ爾の名によりて鬼を逐ひ出せるものを見たりしが我儕と共に従はざる故之れを禁め
 り、イエス曰けるは禁むること勿れ我儕に敵抗するものは我儕に屬者あり」(路加九〇四十
 九、五十)而し此場合に饑渴如くに人を救ふに熱心ありし故に彼れは喜んでコルチリヤの
 所へ行きました、如斯く人を救ひ度き熱心は即ち古き習慣を打破りて異邦人の許に行き
 ました、即ち幻を見て異邦傳道を志すに至りし事である是れはペテロの經驗中學ぶ可
 き趣味ある服従であります、

第六日 保羅の經驗

保羅の躊躇せし事を云へば其様などはなかりしならんと云ふ人がありますけれども、彼
 もやはり躊躇せし事があります、即ち彼が哥林多にありし時其事がありました、「主或夜
 まぼろしにパウロに語り給ひけるは懼るゝ事なかれ默せずしてかたるべし、蓋は我れ爾
 と共にあれば爾を害せんとして責むる者あり且この邑におほくの民あり是に於てパウロ一
 年と六ヶ月の間かれらの中に居りて神の道を教へたり」(使十八〇九―十一)是れパウロ
 が幻に示されたることにてパウロ落膽より躊躇せしが故である、即ち其れは自分の力を以
 て根本としてよりの落膽であります、是れは誰れにても自らを見て根本としますれば常
 にあることであります、しかしパウロは此幻によりて大なる神の力を見てよりは絶て躊
 躇することなく其地の傳道に十有六ヶ月働いて少しも失望する事がありませんでした、か
 く躊躇は實際不信仰より來る所の神の聖力靈の力を疑ふからの結果であります、其れは
 公然疑ふと言わらばさざるも其内にあるとは明かでありませぬ、彼のイスラエル人が曠野
 を通りてカナンの地に入るとを得ざりしは全く不信仰からであります、神は三度助けを
 與へ給ひしも彼れ等は其充分なる信仰のなかりし事である、現時多くの信者は長く働

ても其成功なく人々の従はざるを見ては無益なりと思ふことがある、而かれども今之れを比較すれば其の割合にパウロの場合には失望すべき理由がある、其れは數百人なりし事であるエリヤの時神の爲めに働くものは己れ獨なりと思ひしも今は數億の信者あり亦幾萬の傳道者あり故に少しも失望すべきとはないのである「且この邑に我ははくの民あり」(使十八〇十一)と即ちパウロの説教を聞かんとするものが多くあつたパウロは未だ説教をせずありし時幻をもて其民あることを示し給ひました、私共も何時も斯様に多くの聞者のあることを信じて然る可きでありません、此躊躇をなす時は先に説きたるが如く即ち神の榮光、神の能力、神の偕にありて働き給ふことを見ることであります、其一旦神の榮光を見る時は我儕決して失敗することなきを確信するに至るのである、而して如何にして私共は幻を見るを得べきか即ち肉眼に見ることを得ざるも確かに心の眼即ち靈の眼に於て明かに見るとを得るのである主キリスト宣はく「心の清きものは福なり其人は神を見ることを得べければなり」と、

第六學課

教役者たるに適當の心

第一日

犠牲的同情

前の學課に於ては其教役者の心を消極的方面より論せしむ此學課に於ては積極的方面に於て論するのである、哥林多前書十三章には基督信者殊に教役者に最も大切なる教を書いてある其れは愛であります、即ち愛は自分の利益を求めず人の益を圖ることである、人を基督に從はし其人を善良に變化せしめんとするには此献身的最高の愛あるものが最も必要な要件であります、此の愛の則は即ち神の人間を救ふ根本の同情である、故に其愛に連りて人を助けたいと云ふ者へとなり神に從ひて神と偕に働くこと云ふ愛に満たされたる活動の外は方法なきことである、若しも然らざれば基督の友神の友とあるとは決して出来なひです、「爾曹キリストイエスの意を以て意とすべし」(腓二〇五)然れば基督の心とは何ぞやとの答は即ち其神と等しくある所のことを棄てがたきことと思はず却て己れを俾くし僕の貌をとつて人の如くあり死に至るまで順ひ十字架の死さへ受くるに至れりどあります、これ即ちキリストの心であります、斯く主は我儕人類に利益を興へん爲めに御身を空しくし死を遂げ給ひました、此れ即ち愛である、而かも最高の愛であります

す、是故に利己主義は絶対的基督教の事業に妨げである、又敵であります、即ち斯の如き宏大なるキリストの愛に對して無頓着なる人は全く利己主義の奴隷と申さねばなりません、キリストは其十字架を負ひて我に従へど教へ給ひました、然も世の一般の信者は其重さに至れば十字架を離れて自ら己れによりて生活するに至るのであります、唯に教を受くる心はわれどもキリストと苦みの友となる確信がありませぬならば其れは偽信者であります、されば世界の人には是れを以て基督教をば偽善の宗教と申しましよう、而し人か眞正のキリストの榮光を顯はす時には世の人がキリストの榮光を認めて是は眞の宗教なりと認め多く信するに至るは明らかなる事でありませぬ、されば教役者たるものは其責任より己れを重んずることは大なる間違ひたるのみならず神に對しキリストに對して不忠不虔なる僕となることでもあります、是故に誠實に愛の則を重んじ己れを捨て全靈全身を捧げて其君命に服従すべき事でありませぬ、

第二日

謙遜と叮嚀

自分の缺点を深く感ずるものは誇り心を制するものである、神か凡て人のなすべき義務

と思ひ給ふことは即ち基督を顯はすこと交人間のなさねばならぬこととし給ふとは基督を顯はすことでもあります、而して私共は果して其の如く基督を顯はしつゝあるや否やと自問する時は其義務を怠り命令を蔑視して居つて毫も誇ると能はざるものであります、而かし此キリストを顯はすことは説教に在らず口に非らず行ひの上に顯はれ居るや否やと自問する事である唯自分のみならず他人よりも基督を顯はすものと言はるゝか否やにありませぬ、之れは神の計畫にして之れを見れば其價値が知れることである、是故に私共如何に墮落し居るも神の計畫は其人として神を顯はすの目的あるを知り我れ等は決して失望することなく却て大なる希望を以て其人を見る可きです、例へば茲に一個の花瓶あり未だ美麗ならず只火の中より取出された儘であるされども之を磨きさば其れは立派なる光輝を顯はす珍器となりませぬ、斯様に私共も人を見るに常に此心をもて人を教へ自ら覺悟して勵み勤む可きであります、又茲に一の繪畫あり、三分或は四分程畫かれたるものである、而かし其れは未だ決して輕んず可きものでありませぬ、即ち此の未製品たる繪畫は後ち立派に完成せらるるのであります、斯様に人も欠点あるも其れを輕んずること

さく却て之れは我れに責任あり義務あることと思ひ其人を完ふすることに忠實に働く事は必ず立派なる成功を得る基である、之れ苟くも其人の内には尊き神の像のあることを認めて常に之を尊重し可憐に其人を導くべきであります、私共の知らざること又解すること能はざることも多きを知らば大に自らが謙る可きである、而かし一方に自分の知れること即ち確信して働くことの出来るものある可し蓋は基督の教に付て實驗したることである此れは最も大膽に勧む可きことであります、又私共は自らの缺点を見すこと誰と雖も他人には明らかに見ゆるものであります、故に私共は自ら誇りますならば其働きは空しきに歸するでありましよう、私共が神の愛と恵みを受くる價値ありと自ら信するならば彼の人も神か之を適當に用ひ給ふ事と信すべきである、即ち私共の如き何の價値なき者をも愛する神は彼の人をも深く愛し給ふものと確かに信す可きであります、

第三日 熱心と奮發

希臘語に奮發とは神が人を勵ますと云ふ意味があります、英語も又此意義を含んであります基督の役者たるもの奮發も斯る意義に於て勤むることが適當である、神の勵ま

し給ふ目的とは何であるか其れは何時も初めより終りまで一貫したる唯一の目的である即ち凡てのことを完全に済すと云ふことです、然れば神に勵されたるもの目的も又只一ツある可きである、故に教役者たるもの目的も亦凡ての人を完全なるもの罪より救はれたる者どさし度いとの奮發即ち此爲めに勵まされたる者との心あるを要するのである、使徒パウロは斯る奮發ありし偉人であります、パウロ云へり、「キリストの愛我等を勵ませり」と、斯様にパウロは苦めば苦む程神の力は充満し給ふて益々熱心に奮發致しました、其如何に防害迫害に遇ふも失望することなかりしは全く神の力がパウロを通じて働く事を深く自信せられたからであります、約十五章に此事を解されて居ります、枝は樹に連りて絶へず其力を受けて居ることを教へられてある、即ち教役者たるものが自分の心自分の力によることなくして絶へず神の力神の恵みに固く結び居るならば決して失望に陥ることはありません、英語の諺に死せる熱心即ち外の望みが皆な死んで此一條の望のみ存して之れこそ唯一の熱心である、人は二人の主に事ふること能はずと其れは何れにも充分に事が出来ないからであります、熱心ならざる無頓着は靈魂上の中風症の

如きである、而かし此無頓着は今日の教會一般にある所の耻とすべき事である、故に目的既に神の心を主とするとならば凡て人も亦神に従ふことを想像するに至りません、若し人が聞いて許す限り神の力が其人に住ひ居ることが知らるゝのである、而して神は悉く心を啓いて十分に入り給ふ様望ませらるゝのであります、神の靈宿り給ふに至らば人は直ちに之れを感ずるに至り以て其人の言を尊重して導かるゝ事を喜ぶに至るのであります、

第四日 信用と眞實の忠義

神は確しかに凡ての人が基督の救によりて新らたなるものとなり聖なるものとなることを得る能力を與へ給ふです、之れは信仰の賜である、是の信仰は即ち信用である、而かし信用は相互の間に於て信用され可き價値なくば其成長發達をなすことがありません、是れは信用の法則である、是の眞の信用は此世に於て最も大切なる關係を有するものである、例へば商賈は信用の上に立ち家族も政府も信用の上に立つものである、然れ共此信用は一方の價値にて成立するものにわらずして必ず兩々相俟つて信用する價値を要す

るのである、又信用は朋友の間に縁を結びます併かし一人は直に信用する價値あるも一方が不正にて信用の價値なくば其關係は直ちに絶つものである、斯の如く我等と神の間にも又信用を要するのである、只神丈け信用すべき御性質あるも信者の方にも信用すべき事なくば其の信用が成立したとは云はれませんが、即ち私共も神に信用せらるゝ丈けの要素を備ふる事を要するのである、此れ雙方の間に信用は價値を要するからであります、即ち神が私共の要求に答へて満足を得せしめ奉る可きであります、然れば私共が神の求めを満さずば神の私共の求めを満足せしめ給ふことを信することも能はざることである、故に私共も神の前に神の要求を満たし奉る可き務めあるものであります、主の祈りに熱心に神に事へて充分に神の力を與へ給へと祈ることを教へてあります、元來神は我等に十二分の恵みを與へ給ふことは明らかなるも尚ほ私共は出来る丈け神の爲働さ以て益々神の恵みを受く可き筈である、即ち神の前に全力を擧げて従ふ事を決心して居るならば神はたしかに我儕を助け守り其必要のものを與へ給ふことを確信し安心して全く神に任せ忠直なる僕たるの働きをなすことか出来るのである、故に信用には其信用する心と

又た信用する方面との両面とを考ふることか必要である、彼の米國に於ける商業の盛なる事は其商賣社會が正直になしたる約束を遂げることであり、其れで其約束を破ることは最も大なる耻と思ひます、殆ど日本の武士道の心にも横着なることは耻と思はれ又敵より逃ぐることを最も大なる耻ぢとせるか如く米國商人は約束を破るを以て商賣の成功を妨害するものとし又大に耻とすることである、世の凡ての人か人に約束を守ることを知るも神の前に守ることを知らざるものか多い之れは不充分である、即ち神と人の前に其約束を重んじ守ることを深く知る可きであります、信者殊に教役者の目的とする所の則は即ち神が自分を信用する事の出来る様に其人格を作る事であり、

第五日

忍耐

「愛は寛忍をなし……凡そ事包容凡そ事信し凡そ事望み凡そ事忍ぶなり」(前哥林十三〇四―八)とある、是れは愛の著しき有様を書かれたる事であり、又「蓋爾曹の受くる信仰の試みは爾曹をして忍耐を生せしむることを知ればあり」(雅各一〇三)斯の如く忍耐のことが全くなりし時は是れは全体が完全にありたることとあらんと思はるのであり

ます、又ヤコブは神の忍耐を顯はして、爾曹の内もし智慧足らざるものあらば其咎むることなく惜むことなくして衆人に予ふる神に求めよさらば與へん」と即ち神の忍耐は神が如何に罪人なるも之を助け恵み給ふに於て惜み給はざるものであります、使徒ペテロが主よ幾度まで兄弟の罪を赦すべきかとキリストに問へる時に主は七度を七十倍せよと宣ひました、而かし神の忍耐は之れより尙ほ大なるものである、故に我儕は其事業か急に成功せざるを以て急に之を止むるは大なる愚であります、神は斯程までに我儕の缺點を忍耐し給ふであいか、私共も忍耐かくして其神より命せられたる任務を早急に止むべきであります「善を行ふに臆する勿れ蓋もし倦むとなくば我儕時に至りて獲取るべければ也」(加拉六〇九)又キリストの譬の中にもある彼の寡婦は不義なる裁判人の前に請ふて倦まず遂に其乞を聞かれたと教へ給ひました、然れば況や我儕の正しく眞實なる神は我等の願ひを拒み給ふことはありません、是れは確かと信す可きである、キリスト宣はく汝等か再三再四願ふて與へられじと失望することは是れ全く信仰なきに由るなりと而かし神は急に凡ての事を與へ賜ふの理由なく只適當なる時と思ひ給ふの時に與へ給ふ

のであります、是れ神の思召の存する所にしてやはり愛からであります、故に我儕は熱心に忠義に働いて唯神の定め給ふ時を待つべきであります、茲に一の事實談があります或一人の蘇國を回復したる勇將あり彼れ戦争に於て二三度も失敗し最早力盡き絶望して或る土穴に入り將に自殺せんとす、然るに穴中に蟻ありて或一のものを引きあげんとして能はず然れども彼の蟻は再三再四屈せず撓まず遂に其目的を達せり勇將之を見て感慨胸に溢れ余もし之より自殺せんか此小虫にも及ばざらんと驟然奮起して以て再び戦ひ遂に祖國を回復して名譽を博したりと、我儕神の爲め働くもの宜しく確信を以て神に事へ其定め給へる時までには其成功を信じて熱心に働き待つ可きである、即ち要は唯結果は唯神の恵み神の手の中にと信じて奮起して待つ可きである、之れ忍耐の望みであります、

第六日 常に怠らずして戦ふこと

前哥林十三〇八節に「愛は墜つることなし」とあります、又約十三〇一節に「世にありて己れの民を愛し終りに至るまで愛せり」と記されてある、斯る愛は利己なき純潔なる憐愍である、又之れは忠義熱心誠實の源である、併かし時として神の働には一の方法ある

ことがあります、即ちイスラエル人が神に背き偶像を拜したるや之れを罰しました、けれども其れは之を戒め給ふと共に之を恵み給ひつゝあります、即ち罰を與へ給ふも滅さず導き給ひし事でありす、斯く神の約束は終りまで約束にして違ふ事はありませんです、斯く神の約束はやはり終りまで務む可く決して中止す可き事でありません、米國の南北戦争は急に終ると云ふ考へがありまして南方も間もなく滅ぼし得べしと思ひ初めに九十日間の兵士をよびました、併かし其れは九十日にてやまず其より後には皆三三年間の兵士を呼びました、其れも其期日は適當しませずして終に戦争の終りまでと兵士を呼び出しました、斯様に私共も即ち神の世の來るまで戦ふ可きである、九十日三年間の兵にあらすして戦ひの終りまで戦ふの義務ある神の軍兵であります、彼のパウロは此決心がありました、故に彼れは決して失敗せず又失望することもなかりしのであります、然れども我れは我行べき路程と主イエスより受けし務め即ち神の恵みの福音を證することを遂げん爲めには我生命をも重んぜざる也」(使徒二十〇二十四)尙ほ此章を精讀すればパウロの精神を深く伺ふことが出来るのである、故に私共もパウロが以弗所の

長老等を呼んで語りし如く私共も又爲さざる可からざる事である、かくパウロは勇しく進んで働きました故に我等も常に戦ひ且つ進み標準に向ひて信仰の善き戦ひを戦ひて勵む可きであります、

第七課

基督が個人を従はす事

第一日 アンデレを従はす

普通に人は基督を知る前に於ても其の人が偏に神を信せんとの希望あるか他の宗教に傾いて居る人にも其の善良なる心だに有は其良心の指導に依りて終に眞神と認め基督を信するに到るものであります、今茲に彼のアンデレに付て研究し彼れに學び度あります蓋は彼は前に述べたるが如き人物である故に餘程趣味ある事でありす、即ち彼は初めに猶太教を信じ居るパプテスマのヨハ子に従ふて悔改の必要を悟り適當なる準備をせざる人でありす、然ば是の人物の經驗により今も亦同様の傾向ある人々をして基督を信せしむる爲に大なる教訓を味ふ事である而已ならず日曜學校に於ける兒童に對する宗教觀念を植へ付ける事の大切ある事をも併せて學ぶ事でありす、彼の日曜學校に教ゆる

兒童等が早速に基督に従ふ事には限らざるも後ち彼等が或る時機に到るの準備とある事丁度アンデレに於けるが如きものであります一般に人が初めて教へを聞や直ちに従ふ事は稀なる事である何れも度々聽きて次第に信仰の起る者であります、併し人に教へを傳へんとする者は決して其の人に躊躇する事を勧めめる事は善くありません彼のサマリヤの婦は聽て直ちに信じました故に勧めめる事は矢張り今直ちに勧めべきであります、アンデレはヨハネの悔改の説教を聞きて他の人と偕に彼れに従ひ居りました前日ヨハネは基督を指して神の羔を見よと彼等弟子に示しました是れは即ち神の遣はしたるもの贖人救主たる事の三つの重要なる意義を含みたる証言であります、是れを聞きしアンデレも又他の弟子等も直ちに従はかかつた併しヨハネの説教の無益かりし譯ではありませぬ彼等は次日迄一日間深く考へし事と思はれます然れば次の日ヨハネの再び紹介するに當りてアンデレ等は斷然とイエスに従ふ事に爲りました是のヨハネがアンデレを勧めたる方法は唯だ一つの基督を擧げる事でありました「我若し擧げられれば萬民を惹きて我れに就らせん」(約二〇三十二)思ふに彼れアンデレはヨハネは神の預言者なりと信するも

尙満足せず更に高きメシヤの顯はれん事を望みこゝに來居し事であり、然ば一度基督を見るに當りてや即ちヨハネを去て主に従ふに到りしものである、併し彼はヨハネの今迄の説教勸めが眞とである事を信じ今又た先生の言に勸められて更に深く信じて基督に従ふ事にありしものである、ヨハネの弟子等の中には異なる意見を持ちし者もありました「ヨハネの弟子とユダヤ人と潔事に就て争辨ありけるが」(約三〇二十五)茲に於てアンデレはヨハネの言を信じて率直に基督に従ふたのであります、是れに付て私共の學ぶべき事は信者をして己に従はしめ自分の爲に教會に入れるのであつて全く基督に直接従はしめねばならぬのであります、米國に於ける一つの例は或る人が或る教會の牧師にありまして熱心に傳道を致しまして多くの人が洗禮を受けました其後何にか理由の爲に其牧師は他に轉任致しました爲めに他の牧師が來まして熱心に働きましたかれども多くの信者は前の如くに教會に來りませんでりました是れは前の牧師の欠点であります即ち彼れは自分に従はしたる事であります是れは實に不都合である、唯だ自己を捨てて直接基督に就かしむる事は最も大切なる事であります請ふ願はくばヨハネに學ぶべきでは

ありませうまいか、さて基督はアンデレが従ひ度との熱心なる望むる事を知り給ひました故に其求めよりも速に且つ大に恩を與へ給ふたのである「イエス彼等の従へるを見て汝等何を求むるやと」(約一〇三十八)の質問は主の可憐なる挨拶する意味深き扱ひであります、即ち其人に自分の心を顯はす爲めの言葉である此の汝等何を求むるやとは剛弟兩者の間に於て最要なる條件であります、唯夫れ而已ならず基督の親切愛の高く深きを思ふべきである、斯くの如く基督信者に爲りたいとは何の目的でありますかとは求道者に對して大切なる質問であります、即ち自分の心を示す爲に質問するあり、併しアンデレの様に人が初めより其目的を十分に知り居る事はありません即ちアンデレ等はラビ何處に住るやと申しました、斯くて彼等は來りて觀よと招かれて其日共に住りました是たアンデレ等の基督に交りて求むる一偏の心より適當の道を與へられたる恩恵である、故に求道者に何を求むるやと問ふ時に未だ十分に罪を感せず又た永生を悟らざるも唯其基督と共に居らん事を望むで居るならば是れは善き事であります「我れに學ばんがら心に平安を得べし」(太十一〇廿九)救の第一義は即ち基督と交るの一事であるこは根本的

の要素であります、唯だに人が罪より救はれて幸福の途に居るも是れは消極的の事である故に更に進んで積極的に基督と共に歩む働きを要するのであります、來りて觀よ亦た聖靈と新郎、言ふ來れと是れは招きであります、故に人が如何なる目的なるも基督に從ひ度との心あれば其招きに應ずるとは適當の事でありませぬ、

第二日 基督のニコデモに對する扱ひ

ニコデモはアンデレより異りたる風の人でありますアンデレは平人の漁師で餘り學問の無い位の低き者である、之れに反してニコデモは司にして位のある又パリサイ宗の人即ち宗教に熱心ある人であります、而も彼れの夜基督に來りし事は確かに臆病なるものと斷定する事は無理かも知られざる併し其多分の理由かりし事は差支なき觀察でせう、而して彼は亦た半信半疑の人でありました即ち基督の神より遣はされしとの事を信ずるも其他は悉く知らぬ又信せざりしが如し(約三〇二)彼は亦た地位を重んじたるものである、即ち我儕と云ひて自分の同位地の者がどの特殊の意を含で居るので、故に彼は未だ個人的に一人にて決心する迄に信仰はありませぬでした是れ多くの人に於て見らるゝ

事でありませぬ、即ち基督教は一般の人が善き教であると見認むるも未だ私てふ一個人が決心して信せんとするに到りませぬ是れは誠に残念の事でありませぬ、宗教は要するに個人的に信仰する事である、世には多くの人が基督教は善き教でありますと單に社會的に觀察して賛成する事あるも之れは未だ適當ではありませぬ、矢張り各々個人的に信仰するに到る事が大切であります、ニコデモは其の結果を見て其事を信せんとする善き考へを以て居りました、基督は如期人に對して如何にせしや、基督はニコデモを學者の様に宰司の様に扱ひ給ひました、又アンデレには單に來りて見よと招きました之れ平凡無學なる者には交際に依りて信せしめ亦思想家には深き道理、奧義を以て教へ給ひました、故に其の扱ひの異なる處が考ふべき点であります、即ちニコデモに對しては彼れがパリサイの人、猶太人の教師であるから彼れには、新に生れ變る事、聖靈の事、天と地との區別、モーセが野に蛇を擧げし事、又舊約聖書の事を以て教へ導きました是れ各の人に對して適當なる方法を以て勧めたる事で、深く觀察すべきである、即ち聞く人の種類に應じて説くべき事なり、基督は此の方法に由て其奧義に就て爾が新に生れずば、天國に

入る事能はずと單刀直入に教へ給ひました「ニコデモ彼に曰けるは人はや老ぬれば如何で復生る事を得んや再び母の腹に入て生る可んや、イエス答へけるは誠に實に爾に告ん人は水と靈に由て生ざれば神の國に入ることも能ざる也」(約三〇四、五)尙一層詳細に觀察し之を約言すれば下の如きである、第一深く道理を示せる事、第二彼れに適する扱を與へ給へる事、第三個人的の要求のあくてあらぬ事、第四理窟的の事より實際的の事を教へ給へる事、第五物質的より靈的の事、を教へました、即ち彼れに對して宗教は無形の問題なれば或る事柄は人間が充分に究める事が出来ぬ其は理學の事に於ても同様である、彼の風は如何に其音を聞くも其源は如何、是れは明かにする事能はざるも其音なる結果は聞く事が出来るではないか、と教へました、かくて靈の事に及びて更に反省を促し給ひました「イエス答へて曰けるは爾はイスラエルの師あるに猶この事を知らざる乎、誠に實に爾に告ん我儕知し事をいひ見し事を證するに爾曹は我儕の證を受けず、」(約三〇十、十一)而して御自分を顯はし給ひました「若われ地の事を言ふに爾曹信せずば況して天の事を言はんには何で信することを得んや、天より降り天にをる人の子の外

に天に昇りし者かし」(約三〇十二、十三)是れは宗教の土壌である、故に私共も求道者には基督の個人的の價値を知らしめ、彼れが神の旨神の愛を証し給ふ事を信せしむる事が大切であります、宗教は元來哲學ではない、即ち見し事聞きし事を証することに實際の事である、然し基督を人に教ゆる事は單に以上の証人たるのみではなく更に大切なる事があります「モーセ野に蛇を擧げし如く人の子も擧げらるべし、凡て之を信する者に亡ぶること無くして永生を受けしめんが爲なり」(三〇十四、十五)其滅亡より救ふどの事其永生は、即ち我れに依て受くる事と示しました、斯様にニコデモに對して新に生るべき事、聖靈の事を教へたるのみならず、更に御自分の事、救ひの事に進んで教へ給ひし事は最も大切なる意義ある事です、斯くて最後に神の愛を教へ給ひました、「それ神はろの生たまへる獅子を賜はんに世の人を愛し給へり此は凡て彼を信する者に亡る事無くして永生を受けしめんが爲なり」(約三〇十六)是れは實に聖書中の最大なる福音であります、

サマリヤを経ずして行くに能はずとあるも他にも道はあります、然れども主は此の婦に會し傳道せねばならぬ、故に他の道を取らざりしに依るでせう、彼の弟子が食物を持ち來ました時に、我は食物を持って居る蓋は、我父の旨を行ふ之れ我糧なりと謂ひ給ひました、然し基督の疲れたる事に依つて此の婦に會する事を得ました、則ち此の婦の通常の勤めの儘に會ひました、別に特別の場合で會合したのではありません、私共信者も大切なる働きは普通なる働きにする事、即ち通常の交際の時に傳道の機會があります尤も好む時であります、是の通常の場合には傳道することが余程大切です多くの人は特別の集會の時に於て教への事を勧めますけれども、却て多くは普通の場合に傳へる事が多く勢力あるのであります、然し其は特に説教するとの事でありませぬ、其の好む機のある時に教への爲に少しく語のみならず、可成好機會を造りて教へるのであります、主は適當なる機を作り給ひます、即ち彼の婦は宗教的事は少しも知らざりし、然れども主は其機を利用して傳道の端を開き給ひました、而して主は自からの頼みを以て開きました、之れは普通の事の頼みであります、人を勧めんと思はざ、其人と交際を以て結ぶ事は善き

事である、唯に役目的に説教し談ずる事は餘り勢力がありません却て友の様に談じて宗教の門に導く事は余程力ある事でありませぬ、一つの交際の法則がある其は人の信用を受くるに到るべき事は其人に何かの親切をするの事であれども是れよりも尙大なる事は却て其人より何かの親切を貰ふ事である、若しも主が此の婦に何かの物を與へんとしたりとせば彼は汝は猶太人然かも未だ而識あしとの故を以て拒絶する事でありしかも知るべからず、然るに其願ひし事に依り却て交際の端を結ひました、斯く私共の傳道にも是の善き方法は即ち其人より親切を貰ふて交際をする事でありませぬ、基督は或る惡習慣を破り給ひました、即ち猶太人とサマリヤ人の交際する事なかりし惡しき習慣を破りました、是の様な交際を妨げる事は現時に於ても尙澤山ある事でありませぬ、然し其の惡習慣を全く捨て、直接に凡ての人に交際し人に教へて働く事は基督の則であります、基督は亦不適當なる議論を許さず、之れを防ぎました即ち彼れが言には餘り重きを置かず其言ふが儘にして矢張り御自分の目的一方に進まれました(約四〇十一—十二参照)今も尙求道者が他の事より議論を爲す事がありますなれども之れは論するよりは之れを利用して

積極的に其大切なる問題を説き及ぼすべきである(約四〇十参照)如斯求道者に大切なる物を明かに與へる事が、出来ると示しませんが、其は熱心に求めません、唯だ信者に爲りなさい研究しなさいとのみ勧むる事は其の人の内心には拒んで居る事であるかも知れませんが、然れども大なる利益を受くる事が出来る事と勧めるならば大に求道者の心を勵ますのである、夫れから基督は此の婦に御自分の大なる權威ある事を示し給ひました、此の二つの事は適當なる説教である即ち、一は神の權威の傳へる事、二は救の個人に大なる利益を與ふものなる事であり、イエス答へて曰ひけるは爾もし神の賜と我に飲せよといふ者の誰かを知るは爾われに求めん然らば活水を爾に予ふべし(約四〇十)基督は此の婦を物質的より靈的に導き給ひました、「イエス答へて曰ひけるは凡て此水を飲者はまた渴かん然ど我與ふる水を飲む者は永遠かわく事なし且わが予ふる水は其中にて泉となり湧出て永生に至るべし」(約四〇十三、十四)「イエス曰ひけるは婦よ我を信せよ唯に此山のみならず亦エルサレム而已にも非ずして爾曹父を拜すべき時きたらん」(約四〇十二)基督は如斯次第に導き給ひました、是れは余程善き方法であります、婦は水の價

を主にして居ります、此の時基督は其の間違たる考へを責めずして直ちに聖靈の價を以て教へ給ひました、其水は聖靈を人間に與ふる事の形である、併し此の世の事は充分に満足する事の出来ぬ者である其は丁度此の水の如きであると教へました、其れも私共が遺ふ事の出来る者である、亦儀式より、眞の心の禮拜活ける供物は大切であると教へました「眞の拜する者靈と眞を以て父を拜する時きたらん今今の時になれり夫父は是の如く拜する者を要め給ふ」(約四〇廿三)基督は素より定まりたる風俗がありますけれども夫は機械でありまして、眞實に大切なる事は心より神に禮拜する事の外はないのであります、此の婦は矢張り依り頼む所がありました即ちゲリジム山、ヤコブの井、即ち此山に拜し、此の井に毎日來る事が出来るどの物質的の誇りがありました、今も一般の人が矢張り依り頼む所があります、私は大切なる商賈、役人、兵卒、私の父が何とか色々理由を付けて頼む所を各自に持て居るのであります、然し是を頭から輕蔑する事は宜しくありません、

或点迄は大切であります、然れども尙是よりも優りたるものである事を教ゆる事であり

ます、基督は此婦に對し其罪深き事を知らせ給ひました、併し無罪には致しませぬ、汝は罪人なりと直接に言ひ給ひませぬ矢張り知り得る様に間接的に教へ給ひました、丁度ダビデが大なる罪を犯し、ナタンが一の例話を以て自からをして悟らしめしが如きである(母下十二〇一七参照) 凡る人を罪に定むるは大變危きことである故に善く丁寧に親切に説きて自から悟らしむる事は適當なる方法であります、斯くて主は最後に最も重大なる事を示し給ひました即ち一は眞の禮拜を教へました、神は靈なれば拜する者もまた靈と眞をもて之を拜すべき也(約四〇廿四)、二はメシヤは即ち我なりと示し給ひました「イエス曰ひけるは爾と語る處の我はそれなり」(約四〇廿六)、是故に我共も深く學びて此の二つの事を積極的に教ゆべきであります、

第四日 ペテロを呼ぶ

約翰傳一章はアンデレが自分の兄弟ペテロを呼びました事がある、馬太傳四章にイエスは直接にペテロを呼びました事が書いてある、夫れから又馬太傳十六章にはキリストの尋ねに對して、爾はキリスト活ける神の子なりと答へました記事があります是れにペテ

ロのキリストに従ふた三つの階段であります、人がキリストを信する事は稀には、或時急に起る事もあります、然し普通には、永らく色々の經驗に後りて後漸く信するに到るのでありますペテロは正直なるものであります故に、前の考へを捨て直ちにキリストに従ふ事は少しく、困難の事である、ペテロはアンデレと同じ様にヨハネに従ふて居りましたかも知れぬと思はれます、然れども彼も猶太教に熱心であり、メシヤの降る事を望みたる人でありませう、故に十分宗教的の支度を爲して居りしと思はれます、左れども彼れは兄弟アンデレより招かれたる時に直ちにイエスの弟子に爲りました、後ちエルサレムに登りました、併しまたイエスは弟子と共に旅路を致しませぬ、故にペテロが共にエルサレムに行きしや否やは不明であります、多分無かりしやも知れませんが、彼は後ち歸ましてから元の漁師の業を働いて居りました、多分此間にイエスはペテロを教へて居られたであります、斯くて其後イエスが折角我に従へと曰ひてペテロを呼びました、其時ペテロは一切を捨てキリストと共に居ることを望みました(路五〇一十、參照) 斯如く基督は適當なる休徴を以て示し給ひました、即ちペテロの職業に適當する所の

休徴でありました彼は漁師たりしが故に魚を漁る事を以て示しました、故に私共が人に話すにも其人に適する事を以てする事は其結果の能き事であります、例へば、小兒には基督の小兒を愛し給ふ事、學者には基督のニコデモを扱ひ給ひし如き事、百姓には基督の捕種の譬、又富める百姓の如き事、等人毎に適當なる談を以てする事は勢力ある事であります、尙進んで考へ度き事は基督のペテロを呼びましたのは働かしむる爲である、決して唯從して靜かに居るべき筈でありませんでした、即ち汝等が適當なる働かしむる爲として今より人を漁るべき事であると教へました、イエス彼等に曰ひけるは我に従へ我爾曹を人を漁る者とせん」(可一〇十七)元來人が眞實に改心したる時は其望は、主よ我は何を爲すべきかと謂ふ事であります、生命は必ず目的あるものである、故に改心する事は目的を改める事であります、則ち目的が自分の事のみなりしを基督の榮の爲生ける新しき目的と成るのであります、併ペテロは未だ充分の改心には達しませんが、後カイザリヤピリビの旅行に於て一つの試験をせられました、「彼等に曰けるは爾曹は我を言ひて誰とするかシモン ペテロ答へけるは爾はキリスト活神の子なり」(太十六〇十五、十六)是

に於てペテロの改心は充分に達しました即ち基督の弟子として稍充分なるものと爲りました併し此のペテロの信仰も始めより漸次進歩したる跡は明かに見らるであり併、即ち下の如く其要を摘んで示します、第一彼は初め親より猶太教を開きました、第二彼はヨハ子の説教を聞いて信じました、第三彼は兄弟アンデレに導かれてキリストに往きました第四彼は魚の奇跡に依りて直接にキリストに招かれて従ひました、第五彼は永らくの教論に導かれてカイザリヤピリビに於て基督を明に告白しました、第六彼は基督の目的に付て間違たる考がありました、後ち五旬節の聖靈の充滿に付きて基督教は靈魂的のものなりと初めて知る事が出来たのであります、第七彼は未だ目的、考へが狭くありましたか彼のコルネリオの幻に依りて初めて萬國萬民の宗教たる事を知る事が出来ました、第八彼は尙未だ不完全でありました(加拉太二〇、十一、參照)、第九彼は死して靈魂が天に昇り初めて全き弟子と爲りました(哥林多前十三〇九―十二參照)然ば以上の經歷に鑑みまして人を導き亦自からを養ふ事は餘程大切なる事であります、

第五日 ザアカイに對する扱ひ

此人は特別の人である、即ち悪くされたる職業の人であります、此人を呼びて弟子とすることを民の惡みを招く事でありませす、然も基督は此人を特別の弟子と爲し給ひましたキリストは我が来るは正しき人を招くに非ず罪ある人を招きて悔改めしめんが爲なりと仰せ給ひました、賤しき人罪ある人を招く事は出来るも人に惡まれたる人亦之れが爲に人に惡まれる事をかす人を招く事は余程苦しき困難の事である、税吏は其當時特別に惡まれた者である又其實際に品行の惡ひ人が多くありました、然しキリストは唯だ一人の税吏を呼びしのみならず、他の税吏とも交際して善く親切に扱ひました即ちキリストは誰れにても捨てません凡ての人を喜んで受け納れ給ひました事の証據であります、此のサアカイは税吏で人に惡まれ亦惡まるべき人でありました然れを實際は此人の内心に於て善き事を致し度との幾分の希望が在つたでせう、即ち良心がかりました唯だ境遇に制せられて次第に品性を落したる事でありました今も斯様な人は幾らも實例ある事でありませす、有名なる蘇蘭土のハフクステルと云ふ敬虔なる人は申しました、或時懲役人を見まして、私も若し神様の恩がなくては彼の人と同じ様に爲るものでありませすと、申されま

した誠に趣味ある言であります、此のサアカイは基督に面會したいとの望がかりました是れは單に奇を好んでの事ではわりませせん、必ず何にかの望が有つたのでせう、彼は遠方から見る事が出来ると思ふて樹に攀りました「彼を見んとて趨りゆき桑樹に登れりイエス其道を過んとする故かり」(路十九〇四)併斯様な望みだにわらば如何に賤く亦惡まれ罪深き人にもキリストは喜んで受け納れ給ふのであります「イエス此に來り仰ぎて彼を見いひけるはサアカイよ速ぎ下れ我今日かからず爾の家に宿らん」(路十九〇、五)キリストは斯くサアカイに他人よりも大切か交際を與へました、故に彼れは意外の事に非常なる喜びに満たされました、彼いろぎ下り喜でイエスを迎へたり」(路十九〇、六)、基督は其の求むる望ある人には必ず拒み給ふ事なく反つて、より多く恩を與へ給ふと、人々に説き勸める事は適當であります、即ち基督は彼の樹の下にまで來り彼を仰ぎ、罪人たるサアカイを喚び給ひましたサアカイは恐れて近づく事も心配して居りましたに却て主は謙遜に來られました故にサアカイは非常に喜びました「サアカイ起て主よ我所有の半を貧者に施さん若しわれ誣訴て人より收たる所わらば四倍にして之を償ふべしイエ

「彼に曰けるは今日この家救はるゝ事を得たり蓋この人もアブラハムの裔あれば也」路十九〇八、九）即ち彼は悔改の結果を顯はしました斯様に信仰は實際の行爲に依りて顯はるべき善です、然し基督は此のザアカイに對して今日此の家救はるゝ事を得たりと謂ひ給ひました主はアンデレ、ペテル、ニコデモ等に付ても救はれたと曰ひ給ひませぬかれども此の賤しきザアカイに向てはかく一言會き御言を給はりました、是れは特別の事であります、主は即ち罪人の亡はれたる靈を救はん爲に來り給ひましたからであります「ろれ人の子は喪ひし者を尋ねて救はん爲に來り、（路十九〇十）是故に謙遜の心を持つて唯だ罪の赦しを得度と望む人には別に議論を以て勸める事は必要でない、即ち基督は斯程に汝を救ひ度と憐んで居給ふと勸める事は最も適當なる事であります、

第六日 基督使徒パウロを招き給ふ

神が大なる奇跡を以て反對者あるサウロをして忽ちにして神の人と爲したる様に考ふるも其れは實際左様ではありません、是の熱心ある傳道者保羅を作り給ふ事は矢張り長き働き、入り込たる事業であります唯だ單に迫害するサウロより傳道するパウロと爲つた

どの事ではない、恰も美術家が一個の花瓶を造るときにも其仕事は多く其時日より多く要するが如きである、即ち初めてサウロは猶太人と生れて來ました、神の傳道者使徒パウロに到る爲猶太人に生れて來ました、蓋猶太人は古來神に忠義ある傾きを以て居るからでせう、丁度日本人の日本國家に忠義を盡す傾きが強い様に、猶太人は神を拜む事に於て強き一つの傾がであります、故に彼れは熱心に眞の神を拜むと云事に養はれました、彼は即ち宗教の土臺神に對する道理に鍛鍊せられました是れは極く大切なる支度であります、初めは其一千年以上舊約聖書の永い歴史上の事柄に依りて斯様な人間を作る爲に働き給ひました、彼は有名なるガマリエルを教師と致しました此の教師は二つの性質がありました即ち一は教師として大なる勢力ありしは極く公平なる正義の人でありし事である。（使徒行傳五〇三十四參照）保羅は此の教師の許に育てられました、而して彼は身分の良き人財産家で有りました然しサウロは餘程地位高き議會の議員に迄上られました、是れは神の御攝理に、使徒パウロの様あるものを作り給ふ資格である、斯くて彼は忠實ある良心に従ふものでありました、而かも彼は唯だ大膽なるもの、力ある者智

惹かる者として矢張り熱心に働く傾むる者で名譽を以て大なる寶と考ふる人ではありませぬ、即ち彼は眞實なる真心に従ふて大に熱心に勤めし人でありました、然し其地位等は矢張り關係して勢力と爲りし事でありませぬ、然とも彼は根本的に間違たる偏見の傾むがかりました、火は餘程勢力あるものであります而も其が燃ゆる所に依り大なる利益と禍害とを異にするものである、例せば旅順港には露國の澤山の軍艦が沈没しました是れを日本に於て引上げ修繕するならば又大なる日本艦隊の勢力と爲る事でありませぬ、サウロの改心に於ける亦斯の如き大勢力であります、然れども此の偉大なるパウロの改心に於ても下の如き階段なる事を考へねばかりませぬ、第一猶太教に養成せられたる事、第二ステパノの説教を聞き其勢力に感したる事、第三ステパノの謙遜にして少しも反抗さざのみならず、彼が敵の爲に祈りしに感したる事、然はテルトリアンが殉教者の血は教會の種なりとは誤らざる言と申すべきであります、而かもパウロは餘程心の強い或は頑固なりとも申すべき様奇人物にて容易に改心の六つヶ敷い事でありました所謂大なるものには亦大なる力を要するの道理であります、是故に神は彼を改心せしむる爲に又特別

に大なる奇跡の力を用ひ給ひました、斯てパウロは大なる經驗を興へられました其は奇妙なる光、而も非常なる力でありました即ち自分を倒す力でありました、元來パウロは自からの力を重んずるものでありましたあれども今此の力は自分の力より非常に大なる力でありました大に怖れ驚きました是れに依りてパウロの初めて聞く心、信する心を起すに到りました、普通に強き人は自分に依頼む事が強くあります例へば金満家、位高き人の如きは恒に自らを誇りて神に依り頼む事を忘るものであります、然ば基督曰へり富者の神の國に入よりは駱駝の針の穴を穿る方却て易しと(太十九の廿四)然れどもパウロは自分より萬々大なる力に出會する事にて自分の弱き事を充分に知る事が、出來ました故に基督を信する様に爲りました彼は此の不思議なる事を見て全く神あると信じたのであります、故に彼は其の幻の意味を明かに學び度と感じまして教諭を求めました「かれ地に侍る其時はサウロく何ゆゑ我を窘迫やといふ聲を聞けりサウロ曰けるは主よ爾は誰ぞ主いひ給けるは我はなんぢが窘迫としろのイエスなり爾有る鞭を蹴は難しかれ戦ひ驚きて曰けるは主よ我に何を行しめんと爲給ふや主かれに曰けるは起きて邑に入さらば爾

行べき事を示さるべし」(使九〇四、一六)是れは餘程大切なる事であり、即ち單に幻を見た丈けのみならず是れに依りて基督教の眞の宗教なる事を初めて信する様に爲りました、元來パウロは基督教は道德上の悪い宗教であるとの考に依り迫害する事でもして其根本は全く自分が極力迫害をしたのであります、然し今此幻に依りて其の考の間違ひ即ち基督教は神に逆ふ宗教では無いと悟る事が出来ました彼は熱心に今迄神に事んどの善き心の人でありました、故に此の悟りを得まして初て基督を信する様にあり其迫害の誤てる事を知るに到りました、而も彼は三日間盲目でありました是れに依りて自分の弱い事を深く感じました即ち人を導く人が人に曳かれる様になりました、此の三日間の暗ひ間に彼は大なる思慮を廻らした事であり、又祈禱りて決心を確めました事であり、此の三日間は基督が三日間暗き墓場に居給ひし事にも似て居ります、而して彼は其の三日目の日一人の基督教者に因りて恩を受けました、即ち自分が迫害せんと考へし人に依りて大なる幸福を受けました、是れは定めしパウロの大に感じられし事でありませう即ち初めて幻に依りて神の大なる力を見ました今又一人の信者に依りて大なる愛を受けました而も其は神より與へられ信者が大なる力を持つて居るとの事を考へ知る事が出来たのであります、即ち彼のアナニアは畢竟キリストの名を用ひて爲したのであります、パウロは斯の如く自分が迫害し居る者より是等の事を受くるは餘程恥と思ふ事であり、之に依りてパウロは大に信者を助け度との希望を起す様に爲りました故に彼は直にダマスコに到りて基督教は神の眞の宗教である事を勧めました、然ども神の働きは未だ完全に達しません即ち彼は尙ほ大に準備を要すべき事たるを以て、神は彼をして二年間或は三年間アラビヤに導きて退かしめ給へり(加一〇十七參照)然し此の年数は明に記しては無いが三年を経て後である故に之れに依りて略察する事が出来る、終に説くべき事は使徒行傳の歴史を讀んで、パウロは悔改めて直に傳道せしが如く説く者われど其は先づアラビヤの野に三年間を経て歸りて少時ダマスコに傳道し其後エルサレムに傳道せり時に猶太人は彼を恐れしました、其れよりエルサレムを去りて自分の故郷タルシに於て九年か或は十年間働きたる者の如く斯くて後其友人バルナバの導きを得聖靈の教に従ふて其の選ばれたる異邦傳道の器として偉大壯烈なる傳道を致されました是我等の

深く學ぶべき活歴史であります。

第八學課 弟子が個人を従はず

第一日 アンデレがペテロを従はず

アンデレがペテロを従はしめたる記事は極めて簡單なるも餘味趣味多き事である、即ち約一〇三五―四十二に就て見給へ、彼れアンデレは基督に從ひし最初の弟子であるのみならず亦他の人をして基督に從はしめたる一番最初の人であります、彼れは二つの點に於て大切なる事を成したる幸ひなる人である、即ち一つは基督に從ひし最初の人、二は他の人を基督に從はしめたる最初の人たりし事である而して是れは私共に大なる教訓を與へるものであります、アンデレが基督に從はしめたるものは誰れなるかと云へば即ち有名にして且つ勢力ある彼のシモン、ペテロであります、誰れにても基督に一人づゝたりとも従はずならば、其れは如何に大なる結果があるか誠に測り知られぬ事でありませぬ、彼れアンデレは唯一人を従はせたるも其時ペテロは未だ有力なるものにはあらず然れども後ペテロは基督の導きにより特に大なる使徒となりました、ペテロは曩に洗禮ヨハネ

の弟子ありしも或はアンデレより心の鈍きものなりしかも知れませぬ、併し後には極勢力ある大人物となりました、アンデレはペテロより少しく基督を知ると鈍かりしを以て其時鈍かりしペテロを導きました、そして是れはアンデレの非常なる働きとなりました、是故に私共の導きし或る人が却て私共より實際に大なる勢力ある人となるかも知れぬ事を心すべきであります、而してアンデレが兄弟パウロを従はしたる方法は如何にやと問へば其れは只だ自分の経験を持つてでありました、其れで私共も人を導く時には自分の経験したる事は最も大なる力ある事でありませぬ、即ち學問的理屈的事よりも其實際的の経験を以て勸めるとは肝要の事でありませぬ、尙ほ殊に注意すべきものは約一〇四十二に見るが如く即ち彼をイエスに携せしにどある事である、即ち唯教へ招くにあらず又往かしむるにも非らず携れ往く事である、是れ實に個人への働きの本主意であります、此れアンデレの品格より其傾向を観察するに彼れは初めて自分の爲めに先ちて基督に從ひたるのみならず亦他人をも携れ往き度しと望んで居つたのでありませぬ、是れは實に基督信者たるものゝ當然有すべき傾向であります、而して彼れアンデレの事

跡は四福音書中に唯三度記されて有るが皆人を導きたる事ばかりである、約一〇四十二
 (ペテロを従はしむと)、約六〇八(五ツのパンの奇跡の時)、約十二〇二十二(ギリシヤ人の
 來りし時)、斯様にアンデレの働きは終始一貫したる結果多き働きであります、而かも
 彼れは著しき監督等の如きには有らざるも何時も基督に携れ往くべき人を探り求めて勤
 めました、是れは今日にも極大なることにて多くの信者の深く學ぶ可き所であります、

第二日

ピリポがエテサビヤの大臣を従はす

此ピリポは十二使徒の中の一人でもなく又按手せられて教職に在りしものにもわらざり
 しなれども彼れは極大なる働きを致しました、其で誰れにても普通の信者は皆な大切
 なる働きが出来ます筈であります、ピリポは此大臣を従はしたる前に聖靈に撰まれてサ
 マリヤの市邑に傳道をしたる事もあります、按手禮を受けさせぬれば教會の特別な
 る役員に任せらるゝとは出来ませぬけれども聖靈の盈満さへあれば大なる働きが出来ま
 す、如何に教會の按手を受けられたとて若しも聖靈の盈満なかりせば大なる働きは到底
 出来ぬ事でもあります、彼れピリポの大臣を導く聖靈の勧めは亦私共に實際度々與へら

るゝことにて即ち傳道上適當なる機會であります、ピリポの其處に居りしことは聖靈の特
 別なる導きと云はねばなりません、斯様に私共が或る所に居る人に遇ふことを得るも亦
 同じく特別な導きたる事を思ふ可きであります、是れが聖靈の勧め即ち適當なる機會
 であります、ピリポは大臣の下に趨り行きました是れは聖靈の勧めに應へし彼れの熱心
 なる印しであります、(行傳八〇三)故に私共も斯の如き場合は熱心に従ふて働く可きで
 ある、而し其れは實に私共の教を勧めめる言に偉大なる力のある時でありますから其調
 子も強く又鋭く人の肺肝を徹するの勢ある事でもあります、是の大臣は即ち現時の人の模
 型の様であります、蓋は彼れは異邦人かりしも眞の神を信じて居りました、併かし未だ
 基督の救ひの事は聞きし事すらなく唯だ神のみを信じて居つたのである、而して彼れは
 誠に公平にして偏見のなき人物であつたが茲に大切なる事は是れを導く人である、彼れ
 曰く「若し我れを啓くものなくば如何で知る事を得んや」(行傳八〇卅一)と其肝要なる
 と思ふ可きであります、ピリポが此大臣に教へたる文は舊約聖書以賽亞五十三章にて即
 ち救主基督に就て證したる所でありました、此聖書の文を読みますとピリポが大臣を導

きたる事を知る事が出来ず、即ち彼の大臣が充分に基督の存在、罪の赦免、救の恵を知るに至るや直ちにパテスマを受け度いと切に望みました、是れは適當なる事であり、故に誰れにても信する時には早く其信仰の印し即ち罪の赦しを受くる約束の印し洗禮を施すは當然あすべき事であり、

第三日 ペテロがコルネリオを従はす

此研究の初めに大切なることはペテロに對する勸めペテロの働きをなす心を起さずする方法である、即ちペテロは初めコルネリオの如き異邦人を導く心は無かりしかれども聖靈の初めてペテロの上に働きて彼れを導きたのであります、而して此時に二の働のありし事を見度くあります、即ち一は初めてコルネリオに對して心を開き相當の準備を爲さしめました、二はペテロに對して其必要の準備を爲さしめました、此二点は注意して觀察したるべき所であり、而して是れは或方面より見ればペテロが異邦人コルネリオを基督に従はし教會へ受くるが如く見ゆるも矢張り是れは聖靈が彼曹の上に働かし結果にしてペテロは只其機械となりたるばかりであります、茲に於て私共の教訓にはペテロの方面より

見ることが大切である、其れは即ち彼れペテロが偏見を捨て公平ある心を以て人を基督に従はしめたる愛心である、是れは第一の必要の件であります、斯様に私共も凡ての偏見の弊を捨て謙遜に柔和に人を従はするの當然の務めであり、然かしペテロのなしたることは特別に必要の事でありました、其れは是の場合に神はコルネリオにもペテロにも幻を與へました、即ち天使を直接に二人共に遣しましたなれども天使をして直接に基督に従はしむるなく矢張り人間の働きを徹して従はしめたる事である、神が人間を使ひ給ひて聖旨をささしむることは今の傳道に於ても亦同じとであります、即ち私共が働く時聖靈も共に働きて居給ふと信す可きであります、でもし人間が働かずして怠るならば其成功はないのである、是れ私共が働かねばならぬ理由である、矢張り之れは神の計畫であつて即ち神は人により人を導き人間によりて人間を救ふ聖旨であります、是のコルネリオは眞實に堅く神に従ふものであつた故に神の恵を受くるに至りましたが尙ほ別に最も必要あることがありました、其れは基督によらざれば受くることの出來ざる特別の恩恵であります、世の中には今も極く熱心に倫理的の善き事を爲さんとする人が多くあり

ます、而し其人が如何に善き人でありましても基督によらねば決して受くることの出来な
 い只一の特別ある恩恵があります、今もし斯様ある人に遇ひました時に其は左程勸める
 必要な様であるが是の一の大切なる恩恵に與からざる必要がありません、ペテロがコ
 リントに逢ひました時に餘り長い説教をなさざりしもペテロは明かに基督の愛、救の道
 を嚴かに説き勸めました、現時も矢はり此の愛と救の道を教ゆる事は必要である、是れ
 即ち宗教の喜びや神の慰安を受くる根本的勸めであります、茲に於て私共の服膺すべき
 教訓は第一、偏見の弊習を捨て、如何に悪しき憎む可き人でも直接に救を受け得ると第
 二、如何に善人、コルネリオの如き敬虔の念ある人でも基督の救ひの必要あると(勿論斯
 様な心ある人ならば幸ひに早く神の救ひに入るとやらんも而し其導きは餘程大切なるも
 のである) 第三、私共の傳道の事業は實際初めより終りまで聖靈の働きが力でありませ
 と、即ち聞く人の心に準備を爲し又説く所の人の心にも準備を爲さしめて居ります、此
 聖靈の働きがあれば決して失敗するの心配は無用であつて若し私共が聖靈の働きに從ふ
 て從順に力を盡すならば確かに成功したる結果を見るは疑ひありません、此故に私共が

人に向つて勸めをなし神の爲めに働か度いと思ふ時に是れは聖靈の示しであると感ずる
 ならば決して之れを拒む事なく唯熱心に從順に其示しのまゝに働く可きであります、

第四日 アクラがアポロを導く

是れは行傳十八〇廿四より十九〇七までに書かれてありまして極大切なる教を含んで居
 るのである、或人々の云ふに人が若し眞實に信じてさへ居るならば其信する所は何でも
 格別差支へはないと云ひます、然し是れは大なる間違であります、前學課のコルネリオ
 も眞實に神を信じて居りましたけれども基督を知らぬからペテロの導きが大切でありま
 した、今ま此アポロも同じ様に神を信じて居るのみならず熱心に働いて傳道さへなして居
 ります、彼は極めて辯舌の能き人にて洗禮ヨハネの教を以て教を説きて居りました、然
 れども未だ基督を實際に知りません故に其救ひを充分明らかに解する事が出来ず殊に聖
 靈の降るとを少しも知りませんでした、其れ故にアクラの勸め、導き、教へが餘程必要
 でありました、主基督の御言には「永生とは唯獨の眞神なる爾ど其遣はしイエス
 キリストを知る是れなり」(約十七〇三)即ち斯様に知ることが大切であります、併かしア

ポロは是を知る事がありませんでした、彼れは自分の力を盡して傳道しつゝありしも未だ是の大切なることを知らなんだのだから未だ完全なる信仰には至りませなんだ、或人は佛敎やマホメツト敎や波羅門敎、印度敎等の哲學的宗教を信じて倫理的の精神を有する其宗教に熱心ある人には最早別に傳道する必要が無いと云ひます、其れは成程其の持つて居る程の敎の光に従ふて居るかも知れせぬけれども眞の神の光基督の光を知らぬから完全なる信仰を有して其救ひを求むる事が無いのである、此の如く此辯士熱心に神に従ふアポロに對してさへ基督の必要が有りしならば外の如斯今の人にも亦必要なる事勿論であります、彼れアポロはアクラよりも見込のある人又知識ある人力ある人多分猶太敎にも達したる人かりしかも知れませぬ、併かし只一の事は此アクラがアポロの知らざりし事を知り居りし事である、即ちアクラは基督を知り居りしもアポロは此れを知る事なかりし一事であります、昔時イスラエルよりスリヤに捕虜にせられたる一少女は有名ある大將ナアマンとは素より比較の出来る筈でありませぬが彼の女はナアマンの知らざる一の救ひを知つて居りました、故に彼の大将ナアマンをして其救ひを得せしめたの

であります、私共も聽衆の或人物程の力がなくても其人の知らぬ然かも大切なる事實を知り居ります、其れは即ち此基督の救ひの一事であります、而して是れを知らずと云ふとは私共の務でありませぬ、又彼の五つのパンを持ち居りし童子は餘まり力のあるものでなく自分が大群の人々に食せしむる程のものは持ち居らざりしも人に食せしむるものを持つて居りました、即ち童子は大群に與ふる事はもとより出来ざりしも唯主基督が此些少なる物を用ひ給ふて大群の人を飽かしめ尙ほ残りあるに至らしめ給ひました、此れ童子が其持物を惜まらず捧げたるの結果であります、如斯私共も皆々人々に永生を與ふる靈魂のパンを必ず持つて居ります併し私どもが其人をして其パンを食せしむる事は出来ぬとも基督が之を與へて食さるのであります、私共は只其持居る其些少のものにても持出すならば基督が之れを祝謝して人々に飽かし給ひます、是れ即ち聖靈の働き給ふ大なる恩寵の力でありませぬ、茲に一つの敎訓あり、こは此のアポロが力が多く辯舌に巧に智き亦熱心なる傳道者でありしも尙ほ聖靈の力即ち眞實に基督的の力が無くては其働きは無益でありました、私共も何程に辯者智者亦熱心にして其説敎も倫理的道德に

適ふ事でありまして、其れに若し基督的力がなかりせば、其れは全く無益であります。此アホロが先に基督的の説教が出来ざりし時は、左程の力がありませんでした。併し一度基督を知りて其の恩を受けしよりは、大に力を得まして、人々を助けました。乞ふ行傳十八〇廿七節に就て見られよ、併し私共が自然に與へられたる辯論と智力は、全く必要なしと云ふ譯ではなくて、却て一層はげんで之を發達せしむるの必要であつて、殊に聖靈によつて基督的力が最も必要である。そは此の力なくば、其働きが全く無益にあるからであります。

第五日

保羅がルデヤと腓立比の獄吏を信せしめたる事

是の従はしめたる二人は保羅が歐羅巴に於ての一番初めの弟子であります。此女と獄吏とは當時あまり尊まると身分のものではありません。現時基督教の世界中に於ける勢力を見ますれば、亞細亞にあらす亞弗利加にあらす、即ち歐羅巴は一番熾なる洲であります。併し此の歐羅巴に於ける保羅の一番最初に従はしたるものは、彼の身分高からざる此女と獄吏であります。

保羅が哥林多人に贈りたる哥林多前書の一章二十六節より廿七節に「兄弟よ召しを蒙れ

る爾曹を見よ、肉によれる智慧あるもの多からず、能あるもの多からず、貴きもの多からざるなり、神は智者を憐れんとて世の弱きものを選ぶ」と是れは神の恵みであります。今此の女に付て見れば、行傳十六〇十四に「主其心を啓きパウロの語ることに心を川ひしめ給ふ」とありまして、即ち神の聖靈の働き給ひし事を見ます。即ちパウロは説教を致しました。主が其心を開き給ひました。保羅は只其敬虔ある人の集まる所に至つて説教を致しました。敢て其聞く者を撰まずして熱心に説きました。主は其聴衆の中にて彼の女の心を啓きました。だから彼れが初めて其説を信じ、基督に従ふたのであります。今夫れ私共が説教を致しますとも、誰れか信するか解かりません。なれど主が其人の心を啓きて信せしむる様に助けて働き給ふのであります。されば私共の責任は時々説教して種を蒔く事である。何時神が誰れの心を啓き賜ふかも知れませんが、それは多分私共の有り得べからざる事と思ふ時に神が誰れの心の戸を開き給ふかも測り知られぬ事でありませぬ。即ち獄吏の改心の如きは一番有り得可き筈でない場合でありました。即ち保羅が獄屋中に祈りて神を讚美し熱心に神につかへて居りました。其時でありました。又彼の女の従ひし時も、河邊に僅か

の女が集りました其所に保羅が説教致しまして神が其實を結ばせ給ひました、如此して腓立比の町に最も勢力ある教會が出来ました、此教會が保羅の傳道事業を助けまして時々金を送りました、故に保羅は腓比書を感謝して居ります、此書の他の哥林多、加拉太、帖撒羅尼迦等の書を見ますれば斯様な感謝の記事は無くして其教會に向つて戒めて居るのを見るのであります、然れ共此立派ある腓比教會の萌芽は彼の僅かなる女と地位なき獄吏であります、人が女は弱いもの餘り勢力がないものと思ひますが實際は女は家庭の長小兒を教育するものにて家庭を支配する力は餘程大なるものである、故に一人の女を信せしむる事は將來に大なる結果を見るに至るものであります、其れは男の人が信者となる時には現在に於て大なる勢力のある事の様には思はるゝなれども女は家庭の子女の教育に於て將來に大なる勢力の種となるものであります、又彼の獄吏の改心も矢張り特別の事でありませす、彼れは保羅が數ヶ月以前にも傳道したる事あれば其説教を聞き基督を愛し神の教の事を聞きし事ありしからん又は卜者の女が久しく教へられし事あれば彼れよりも保羅の説教の事を聞きし事があるのである、保羅は罪人の様に獄に入れられま

した、彼れは或夜神を讚美し感謝して祈りを捧て居りました、時に大なる地震が起りまして非常なる事がありました、此時彼れ獄吏は之れを聞いて居りました時に獄吏は痛く良心に責められました、其獄の戸が開きました時に彼の良心は大に彼れに教へました、凡そ人が死に會ふ時は最も深く救ひの事を望むのである、今日露の戦争の際に於て多の猛將勇卒等が熱心に基督教を研究する事も矢張り此の理であります、夫れで此獄吏も保羅の前に於て我れ救はるゝ爲めに何を爲すべきやと問ひました、パウロは即ち答へて「主イエスキリストを信せよ然らば汝及び爾の家族も亦救はる可し」と教へました、彼れは其れを聞き喜ひキリストを信じて洗禮を受けてキリストの弟子とありました、是れ實に彼れの無上の幸福であります、是れは獄屋の事で普通傳道者の働かない處でありますかれどもパウロは斯様に働いて少も止める事なく常に神を讚美し祈り且つ勤めて居りました、其獄吏が来て「我れ救はれん爲め何をなすべきや」と求めし時に彼れは直ちに基督の救ひの道を教へました、斯様に彼れは迫害の中にも絶へず傳道致して其善き實を結ばれたるものであります、故に信者は如何なる場所にても熱心に基督に忠義に働くならば

必ず其實を結ぶ事は疑を容れぬのであります、

第六日 保羅がオネシモを従はす

オネシモはピレモンの奴隷でありましたが罪を犯して逃げて羅馬に行きました、保羅は當時羅馬の獄に居りまして矢張傳道を致して居りました、オネシモはパウロに逢ひまして改心を致しました、其れでパウロが一の書翰を持たせてオネシモの主人ピレモンに還しました、是れ即ち腓利門にある愛情濃やかなる個人的手紙であります、當時の法律には逃げた奴隷に遇ひましたならば其主人に歸さねばならぬ事でありました、而かし斯様の場合には矢張り法律上にも其人が其爲めに親切を以て餘り強く罰し辛い様に或は其人が其奴隷を主人より買ひ取る事の出来る様認められてあります、斯様の事實を心に止めて此手紙を精細に讀みますれば色々面白き大切なる趣味を覺ゆる事であります、パウロは尊き地位ある智識ある人ばかり重んじて居る傾きもなく即ち此一番賤む可き奴隷オネシモをば其主人ピレモンと同じ程厚く愛して居ります、何故なれば此の一人の奴隷まで方ある彼れピレモンの如き人の様に矢張りクリストにより大なるものと爲る事が出来

るからであります、元來基督教は誰れにても人間の價に於ては其永生のある大なる尊きものなる事を教ゆるものであります、即ち基督の眼前には尊き者賤しきものと區別更に無く何れも皆な平等であります、例へば茲に一人の赤坊があります其れは餘り力もなく又智識も素より有りませぬけれども其れが大人となりませすれば尊き王様とあります何故なれば其れは王様の子でありました、斯様の譯で今ま人間の有様を見ますと餘り價ひの無いものゝ様に見えますけれども未來の生命に這入る時は皆神の子あれば天の榮光の輝く所に至るのであります、しかし是れは神の子たるものゝ特權であります、故に如何に賤しき人にも救ふ事が出来れば最も幸福なることであります、勿論此の救ひの例は人間の目の前に左程に響れを受くる事でありませぬ、而かし或は位の高き力あるものを改悔せしむる事は人の前に幾分名譽なるかも知れぬが最も賤しき汚れたる罪人を改心せしむることは却て人の目前よりも神の前に響しき働きであります、キリストの言に一人の罪ある人悔改めなば悔改に及ばざる九十九の義人よりは尙ほ天に於て喜びあらん(路加十五〇七)故に賤しき人にも罪人を悔改せしむることは神様の前に價あ

ることであります、ハウロが其主人にまで歸らしめたるオネシモは別に縛はりて送りたる譯でなくして全く彼れが自由に好んで主人に歸る事でありませぬ、是れは彼れが悔ひ改めて歸るの意が充分あらはれて居るのであります、ハウロは人を導き従はする時に其人が或る義務ある時は其れを避けしむるはなかつた、故に奴隷が其主人に歸る事は大層苦痛かるとあれども矢張り主人へ歸しました、併し是れは保羅の餘程正しき事を教へたものであります、其れで人が何かの六ヶ敷き事にて其爲さねばならぬ事あるならば其人に其重任を盡す様に勸める事は宜しき事である、其道を安くする爲めに義務責任を油断する事を勸める事は断じて宜しくない事でありませぬ、世には多くの人が基督信者となりませすれば苦痛多きことを成さねばならぬから信者たる事を躊躇する人があります、斯様な人に其油断する事を勸めるとはよろしくない、却て其人に苦痛に打ち勝つ程クリストの助靈の力を受くる様に勸むるのであります、是れを實際に見れば人が其苦痛に戰ふて進むとは靈上の一番強き救ひであります、其れでハウロ彼れオネシモをして其義務責任を重せしめ其苦痛なる事に就く可く教へました、唯だ其出来る丈けは其道を安く致され

ました、其れは即ち其親切なる手紙を携へしめた事でありませぬ、其主人に奴隷として親切にせられ度く又負債あらば其れは私が拂ふとまでハウロは實に同情厚く彼れの爲めに申送りました、是れは全く人を導く愛の働であります、若し此奴隷を導くに於て其愛の働きあかりせば此成功はなかりし事でありませぬ、故にもし唯々役目的になす傳道なりしからは斯様な賤しき人をして如斯成功を見る働きは到底能はざるのであります、是等の實例により考ふれば私共信者が基督に事へる最も大切な事は人をして基督に従はしむる事で其働きは全く深き同情と愛の働にある事を學ぶ可き事でありませぬ、

第九學課 個人的働きの方法

第一日 個人を誘ふ

勿論此書の學課の全部は個人的の事なれども茲に特別に主張するのは初めから人が個人を誘ふとの最も大切な事を深く研究せんとする譯からであります、教役者は誰れにても何時も何かの大なる働きをなさんとする希望を持つものであります、例へば彼の有名なムーデー氏や新島先生やの事業に付て見ますれば其實に數十万の多き信者を見るの偉大

なる結果を見ることがあります、是れは實に目覺ましき聖なる偉蹟であります、是れは私共の羨望に堪へぬ事である、併かし如斯偉大なる彼等人物の事業に付て深く觀察を致しますれば其れはやはり個人々々に對して其人を親切に導き助けたのであります、即ち聖書には適切なる教へが示されてあります、(路加十六〇十)「小事に忠きものは大事にも忠く小事に忠からざるものは大事にも忠からず」是れは人が僅かあるものに忠義ならずば神が又大なる事を預け給はぬとの教訓にて私共の深く心すべきことであります、尙ほ亦舊約聖書に付て見ますれば(但十二〇三)「穎悟者は空の光輝の如く輝かん亦衆多の人を義に導けるものは星の如くになりて永遠に至らん」此れ私共の深く甘味して最も學ぶべき事であります、即ち神の導きを重んずるとは多の人をクリストに従はする忠實ある善き働きとある事である、而かも其多大の人を従はするとは又其源を個人々々に導き従はしたるの結果であります、而かも是れ等の働きは凡て信者たるものゝ責任たるのみならず却て其信者たるの光榮特權たるのであります、故に信者たるものは唯其負ふ可き義務責任を神の前に盡す可き事であります、最早や其義務のあるか無きかの事を問ふの必

要なき明白なる問題である、即ち之を盡すか否やとの最後の斷案を以て處す可き餘地なき事柄であります、而して私共を導きクリストに従はしむべき所に第一番目のものは誰れなるやと問はざれば凡ての信者が各々直接に神に祈りて定め決心することを要するのであります、後の第十學課には色々の人が色々の種類に於て働く可き區別を書いてありますから之れを調べて其何れの方が自分のなし得らるゝ種類あるかを研究が出来てあります、しかし人は兎角或一人が自分に關係して居るより自分の力を以て招く事の出来るものを有するものである、故に其一人を招き導く爲めに自分の力を盡して骨折り其人を神に従はするに熱心に決心を遂行する事の出来るのであります、此時に際して最も大なる助けとなる事は聖書に教へられて有ります、即馬太二十八〇十九廿に「是故に爾曹行きて萬國の民にバプテスマを施し父と子と聖靈の名に入れて弟子とし且つ我が凡て爾曹に命せし事を守れど彼等に教へよ夫れ我は世の末まで常に爾曹と共に在るなり」如斯我主クリストは常に爾曹と共にあり給ふと仰せ給へり故に其れを覺悟して働く時には即ちクリスト私共と共にありて力を與へ聖靈が偕に働くより大なる力を覺悟して其働きの成

功を見る事が出来るのであります、其れで充分ある決心の許に學課の研究をして其適當なる方法を選びべきであります、如斯して尙ほ注意すべき一の事は或る人を救はんとする方法に付て又教會の牧師に相談をなして其注意を仰ぎ適當の道を取る事を叮嚀に求む可き事でありませ、其場合に依りて必要な折りは其救はんとする人名を示して尙十二分に牧師の教を仰ぐ事も必要である、其れから尙ほ又進んでは牧師と共に其人の爲めに祈りの契約を結び共に神の大なる能力を仰ぐ事である、又或る場合には其同じ目的を以て一つの祈りの爲めに二三人の友が偕に祈禱の約束を結び互に力を合はす事も宜ろしき事である、而かし此祈りの組は初めから左程多くの人を組とするよりは却て少數の者にて約束し働くとは成功するものであります、斯く致しまする時には私共が其導かんとする人に會ふ時に何時にても其目的熱心を以て居りますから適當なる機會だにあるならば其人をして油斷せしむる事なく恆に勧める事が出来るのみならず尙ほ時々なる可く其機會を自ら作りて其救ひの成功を勤むる事が出来るのであります、其れは勿論信者たるものが傳道の爲めに忠實なる望を有し其れが心の内にて一番大なる望と喜であるならば

其働く可き機會は常に又有り易き筈である、其れはやはり普通の談話の内にも度々其心を以て勤むる事は實際上最も容易なる事でありませ、斯様に信者が基督に忠實なる者へを以て居らるゝならば其れは確かに人を贖かす事はあいののである、唯私共の働かす事は即ちパウロの申した様にあるべき事でありませ、クリストの「愛我れを勵ませり」(後哥五〇十四) 斯様に私共が眞正にクリストの愛に勵まされて働くならば唯に勸定的働かにあらずして或人を導きし扱とも思はず誠心實意に唯其人の重負を思ひ同情を寄せて其人の爲めに喜びを得させんと愛心を以て働くならば其れは大なる勢力であります、私共が既にクリストに救はれて居る事を明かに自識して居るならば私共は即ちクリストの前に一人にても多くクリストに従はする事を勤むべきであります、若しも一人にても伴ひ行くことが出来ぬならば其れは私共の耻辱である、即ち無益なる僕である、クリストの前に出づるとの出来ぬ者にあります、然れば熱心に働きて人を喜ばしめ又自ら喜ぶのみならずクリストの御喜を頂きたい事でありませ、尙ほ又私共信者たるものが深く慎んで考ふ可き事は即ち私共の救主クリストが其大なる苦しみに合ひ給ひし私共

人間を助くる程の望と愛がありましたから私共も又同じく其恩に感激して同じ望みと
同じ愛がある筈であります、其れ私共の祈る可き大切なる事は即ち我が主クリストよ汝
は私共の爲めに命を捧げ貴き血潮を流し給ひました、故にどうぞ私共も世の人の爲め
汝の様に働くとの出来る心を與へ生命を與へて働かしめ給へと誠實に祈る可き事であり
ます、

第二日 日曜學校に働く方法

クリスト教は他の宗教と異りて小兒に適する教訓の話があります、前母二〇二十六、全
三〇一―十まで、其れは神が小兒たるサムエルに對する扱ひが書いてあります、小兒の
大切なる重んずべきことは今も尚ほ神は矢張り小兒を重んじて居給ふ事によりて其教訓と
する事が多くあります、故に聖書中の話を以て小兒の大切なる價ある事を學ぶ可きであ
ります、米國の法律にては小兒が七歳より十四歳までは幾分の責任を負はれて居ります
るも其多分は法律上の責任を免されてあります、而かし十四歳よりは大人と同様に罪惡
に對して法律上責任を負ふ可く規定されて居ります、其れは充分に事實を調べて定め

る法律であります、即ち其れは十四歳よりは充分に道徳上の責を負ふ行爲の判断を決定
する力があるからであります、其れで小兒をして神を知らせ是れに従はしめんとどの決心
をかさしめざれば或は迷ひの他の道に這入るの怖れがあります、或人の調べによれば人
は廿歳前に其生涯の善惡が定まると言ひます、果して然る者にや今まクリスト信者
とあるもの多くは廿歳以前に従ふものが多くして廿歳以後に従ふものは却て少いので
あります尚ほ之れを精密に調べますれば十二歳より十五歳までの間にクリストに従ふも
のは最も多いどの事であります、其れ故に日曜學校の教は一掃大切なるものである、其
はクリストに従はず一番安き時は此幼年の時である、然れば教役者の働く可き一番適當
なる場所即ち此日曜學校であります、前に述べたる事は素より小兒の爲めになる事な
れども又教役者の爲めにも宜しき教である、亦其日曜學校は小兒を教へる所なれども亦
教役者をも教へ育てる所であります、即ち世の多くの教役者も皆此學校の鍛鍊を経て出
てたるものである、何となれば日曜學校に於ては種々の書籍や月刊の學課の説明や色々
の修學と實地の經驗を得る事が出来す又或は色々異なる人々又智力の異なる人々

の人々も何れも皆其適當なる方面を見出して働く事の出来る場所でありませぬ、併し此日曜學校に働く時に先づ必要なる事は自分を修める事である、其性質短氣なる人は多く失敗を致たし柔和なる忍耐ある人又愛深く且つ學課に勉強なる人は最も能く成功するのであります、是故に教ゆると共に自ら鍛練するの場所と云ふのである、併かし其教ゆる方法に付ては極簡易に明白に小兒をして愉快に學ばしむる様其心を得る事が大切である若しも大人に話す様に致しますれば小兒は遊んで少しも耳を傾ける事は有りませぬ、其事實は教ゆる人が直ちに見る所である、而し此れはやはり教ゆる人の欠點であります、斯様ある失敗や色々の經驗を経まして次第に熟練して小兒の心を得る事が出来る様に話があ上手となりませぬ何事にも初めより上手にはかりませずして何れも鍛練の功であります牧師傳道者となりたいとの希望を以て居るからして別に小兒に對して話す事を好まないと云ふて其實習を務めにせぬ事があります、是れは成程道理の様に思はれますが實は大なる誤である其れは畢竟此の小兒に對する適當なる話しは即ち又大人に教ゆる最も勢力ある事たるを知らざるからである、又或る牧師傳道者の話しには自分の得意心に驅られ

て縦へ其話しは面白く耳を喜はすとも其れを聞く所の人には感應する事なく心に喜びを興ふる力がなき事がある、是れ等は牧師傳道者に於ける大部分なる缺點で即ち失敗の源である、其話が理窟に込み入りて聽衆の一二人の者には或は悟り得られんも其大部分の人には頭の上を飛んで行く彈丸の様に少も心に感ずる事はありませぬ、是れは説教者が自分の力に應じて説くからであります、併かし説教は其聽衆の力度によりて説く事は最も肝要ある事である、是れは説教の目的である、又實際の證據であるのであります、其れで偉大なる説教者は唯だ六ヶ敷議論家ではなくして却て單純明白なる説教をなさるゝが多いのであります、米國プレビリヤン派の最大なる都會にホール博士と云ふ先生がある、で其信者には二百萬弗三百萬弗の有力なる富豪が澤山ある而して其會堂は三百萬弗を要したる大教會であります、斯様なる大會堂の牧師おれどもホール博士は單純にして平易なる説教を致されて居ます、是れは其聽衆中には紳士淑女も多く在る事なれども亦た下女下男の如き低度の人も多くあるからであると云ひます、是れはやはり説教は其聽衆の中の一掃無學なる人に解せらるゝ様に單純に説く可しとの説教の法則に適ひたる

ものであります、譬へば或る漁師が魚を獲んとするに當り網の目の少きものを用ひますれば大なる魚も少き魚も皆な併せて獲らるゝ便利があるのであります、斯様に説教に於ても低度の人に解せらるゝ事は即ち智識ある人にも感化を與ふるの利益があります、故に教役者は勤めて小兒に話す事によりて鍛練を経て大なる説教者となり成功ある働きを成す事が出来るものであります、

第三日

集會に於ける勧め(祈禱又は感話)

或人が一人の人に話し勧めるには六ヶ敷いと云ふも集會に於ては之れを恐れぬ人が有る或は又他の人は個人に話すとは出来ぬ様に恐れて到底六ヶ敷いとして止める人も有る而し是れ等は皆能くかい事でありませぬ、昔しモーセは私は云ふ事が出来ぬとて辭退を致しましたなれども神様は其れを許し給ひませんでした、(出埃及記十章に就て精讀玩味かされませ)是に一の事實あり其れは此書の原著者の知人が或時一人の牧師より祈禱を勧められました其人は祈る事が出来ませぬ爲めに倒れました、斯様ある経験が普通の人に有りますると大概其れきりに止める處ですが此人は撓まず再び牧師に前の様に致

され度いと願ふた斯くおしたる此人は幾分恐れを抱けるおれども其れは神様に事ふるの道なる事を信じて居りますから縱令初めに失敗しても更に堅き決心を以て再び之れをおしたることであります、斯様ある人に付ての話しは度々教役者の話しよりも著しき勢力があるとがある、其れはやはり聞く所の人が牧師教役者の話しが理論的話たるも餘り感化を興さるゝが其自身と同様の境遇又は経験よりの話には格別に感化して強く聞く事があります、元來クリスト教は學問ではあくして生命である故に生命は生命より引くの事實がある、例へば火は火より引くの法則ある如く此洋燈の火は彼のランプの火より移す如きものである、勿論化學的作用を以て別に火を起す事が出来る事おれども直に火より移すとが容易である如斯理論的にクリスト教に従はするとも出来るなれどもこれよりやはり経験より直接に感化を起さるとは容易にして且つ勢力あるとす、其れ故に集會に於て自分の経験上の事を談して勧める事は大なる勢力を有し感動を與ふるものである、併かし其場合に色々注意をなさねばならぬ事があります、其れは極眞面目に其れを話す事であるもしも、其れを飾りたる語調を以て話すとや又は他の面白き色々の事を加へて話さず

は却て益なきこと能くない事である、されば斯様なる経験談は單純にして眞率なる語調をもて誠心より其事實を語り勸める事であり、其色々面白く組立つ如きは却て其力を失ふものとなり、是れ其の語の價のあり能力あるは其言にあるにあらずして全く其事實であるからであります、故に唯要する所は自分が眞實経験したるとをのみ語るとは生命あること知らねばありませぬ、尚ほ又注意すべき事は成る可く簡單明瞭に話すことである、夫れは自分の経験あれば自分には面白く話す事が出来るも餘り長く話すと聞く人は自然其れを面白く感せずして悪ひ結果になるとで誠むべきことであり、彼の藥は水を混入するにより機能を減じますが斯様なる勸めの場合にも亦極簡單なるものが却て勢力あるものであります、其れで唯だ経験を示すのみか主たるものに非らずして其経験を以て人を勸めるとが第一の主旨なることを忘れてはなりません、畢竟充分に鍛錬せぬ人が餘り長く話しする傾きがある、されば豫め能く考へて簡單に勢力あることに務むべきであります、其の最も肝要なる事は神の前に黙禱をなしてすることです、尚ほ今一つ最も注意すべきことは自分の経験を話す時に自己の未信者たりし時にあしたる昔時の悪事を餘

り詳しく亦長く或は面白き様に話すとは最も戒むべきである、此れは其話の結果が却て害を興へる事に爲るからであります、或る日曜學校の教師が自分は前に悪い事をなしましたるも今は信者となりて幸福であると話ししました、是れを聞く人は思ふに自分は此人の様に悪い事をした事がない故此先生の様に信者となる事は不適當であるやとの感じを起さしめたと云ひます、其れで其經驗談中に必要なる場合は單に私は悪い人でありましたが今は神の恩に浴して幸福ある生涯に入りました、それ其感したる聖句があるからば其れを示して専ら神の愛と其恩を蒙りし事を話すべきであります、其れで今其經驗を話す時の注意を念の爲め再びわけます、(一)餘り長く語らぬと、(二)餘り辯士的演舌的又は面白く話さんとの風を避くべきと、(三)經驗談は多くの自分の名譽を顯はすの傾向あるものである故殊更ら能く心して自分の爲め自分の名譽とならぬ様に注意すべきである、是れは極秘密なる危険であります、如何となれば其れは即ち他の人を誘ひ導く爲めにせんとて自分の神より受けたる経験を話して居ることなれども自然心の中には秘密に自分を顯はさんとする感情が起るものである、此誘惑は斷じて制す可きものであり

ます、尙ほ最後に加へ度き注意は即ち以上の如き經驗を話して勧めをさすとは唯に集會の席上に於てのみならず個人を勧める時にも同様の注意と熱心とを以て活用するにありませぬ、

第四日 書翰の傳道

友人に對して書翰をもて勧める方法は益なるとにて誰にても出来るのであります、新約聖書の大部分は即ち書翰であります、此書翰の中には又個人の手紙があります、彼の有名なブルックス監督は手紙を以て度々人を勧め善き傳道の結果を得られたと云ふ事である、其れは手紙を以て勧める事は善き結果を得る利益の点がある即ち手紙には初めより終りまで能く考へて思想を整へ判明に意志を通ずることが出来る、普通話をなすとは初めに考へても中途に迷に入り又別の考を加へ挿して充分に首尾一貫したることを悉く期しがたく困る事があります、又話す時は或は初めの話と終りの主旨との關係等も充分に判明する事の能はざるとや又は早く話さんで聞き取るこの困難なる意味の了解し難き所や色々記憶に困難なることがあります、併かし手紙は以上の弊に陥ぬとのみならず其れを

靜に再讀して反覆叮嚀に其主旨を考へ盡すことが出来ます、尙ほ又普通に話するとは容易なるが爲め聞く人をして特別に感ぜしむることを重くするとはありませんが而かし手紙に認めて送ります事は餘程大切なる事であると考へられ又其眞情を深く感じられて叮嚀に讀まると利益がある、併かし注意すべき事は人が直接に話すとは遠慮があるからとて油斷し只遠方より手紙を送るのみを以て足れりとするとは宜しくない、却て其手紙を以て話の機會を作ることは適當なることである、斯様に個人的話の關係を結ぶことが出来ましたからば其人が其手紙の爲めに問題の事を豫め心にどめて居りますから後に會合の場合に大なる利益がわるとである、而れども此手紙によりて人を導くとは信者が多く油斷することでありませぬ、而かし又雜誌書籍等を送り或は自分の手紙を少しく書添ゆる等の働も亦善き結果を得る方法であります、或時私共が年齢の違ひや地位の等差の爲めに其人の會合する機會の乏しき場合に傳道をおさんとすれば先づ第一に手紙を以て其端緒を開き會合の善き機會を待つとである、しかし手紙は祈の上によく考へて認む可きである、最も文典の事を六ッ敷くする必要はありませぬが只誠實に誠と愛をもつて所謂親しく感情的に認むる

とが必要であります、尚ほ此手紙を書くに付ては第六及び第十二學課に付て注意すべきである、如斯して手紙を發送したならば毎日々々神の前に祈りて其手紙の祝福せられんとを祈る可きである、此祈りの伴はざることは成功なき事である、祈りは實に大切あるとである、是れが即ち眞實なる同情愛のある働きである、其熱心は必ず善き結果を待ち望んで與へらるゝ事であります、此れ神の御約束の如く確かに恩恵を與へらるゝと待ち望む信仰であります、斯様にして送りたる手紙に對し先方より返書を受けたる時は其人の聞く有様等を調べ其傾嚮を熟察して其必要なる點に付て更に手紙を送りて勸めることである、而かし此場合に於て必ず其返書の來る可き様注意すべきである、此の場合に於ける手紙の認め方もやはり普通の交りの様に平易にする事である、其論文的に流る事は大害である、以上は特別に勸めの爲めに送る手紙でありますが尚ほ信者は普通の文書中に於てもやはり傳道的文を加へて勤める事は餘程導きにある事である、或は先方の人によりては殊更に傳道的手紙を以て教へ勤めらるゝ事は却て心悪しく嫌がる可き有るかも知れぬ、普通の書翰中に幾分教の道を示して勤める事は却て先方の感情を害せず次第に感

じを惹起せしめます、之れは友人に對して信者たるものゝなすべき愛情たるのみならず全くクリストに忠實ある信仰上の働きであります、若しも信者にして此働きをかざるに於ては友は其同情なきを疑ひ其信仰を傷るに至ります、是れ自分が自ら信する所に忠實ならず自ら己れを傷るに至るのみならずクリストに不忠實なる事である、尚ほ又手紙を送る時注意すべきことは人の頭の上から書く様氣のよいやうにすることである即ち私には既に救はれて汝よりは清きもの善きものであると言ふ様な語調なき様に少しも誇りを帯びざる様に謙遜に書く事です然かし自分が基督より受けたる經驗恩恵を確かに言ふことは差支はありませぬ、例へば茲に一人の人が一種の病ありて其藥を知りて居るならば其人は醫者にあらずとも其經驗を話すと出来ず、斯様に私共が哲學者神學者であくとも自分の確かに經驗したる事ならば其れは何人の前にも一番貴き學者の前にも話す事出来ぬ事である、以上に掲げましたる様に手紙を送りて勸めることは餘程人を益する事であると共に又自分の信仰上にも大なる益ある事でありませぬ、

第五日 祈禱の組 (Prayer Circles)

主基督の昇天をされましてより弟子等は事業を始める前には十日間集まりて祈禱をされました、此れは其力を受くる爲め約束を待つて居た事である、今も個人々々に一人にても神に祈りて神より力を受けねばならぬ事は必要の個條である、其れで基督信者は組を設けて亦神の前に同じ願をなし其恩恵を祈るとは適當である、勿論教會には定まれる祈禱會や共勵會又は婦人會或は聯合祈禱會等の公の集りがあります、是れはよき方法である、併し此集會よりは今一層個人的働きの爲めには尙ほ一段目的を全ふし親密に關係して居る所の人々に於て其祈の組を設けて祈禱し共に働くとは極大切な方法です、普通なる祈禱會も素より善良なる機關でありますが幾分習慣的感情にてなすかの様に感じらるゝかも知れませんが、然し今勧める所の祈の組は折角同一の目的深き同情を以て或る一の目的の爲めに特別に働く力を得る様祈るのである、普通の教會の祈禱會は凡ての目的善き事を求むる爲めに設くる廣き意味に涉るのであります、併かし今申す祈の組は狭き意味に於て或目的に付て精細に祈り働く事でありますから其働きの爲め最も大切なるものであります、米國には斯様な結合は多く設けられてある、即ち學校

又教會或は大學々生間にある青年會又は共勵會等は是の祈りの組である、而して此祈りの組を設ける事は公けに廣告して設ける事ではありません、其れは人の多きを望む所のものではなくして却て人の少きを要するのである、其適當なる人員は四五人位を以て一組を設けるとは適當である、其れでもし多くの希望者のある時は其組を二ツ或は三ツに別ちて設くるものである、然し其初めは極熱心に働か度いと決心する二三の人さへあれば初めて適當であります、其れで其二三人が約束して或る定まりたる所に會合して祈りをなし働く方法を互に話し合ふのです、其れから其人々が親しい人同情ある人を招きて同じ組に加入せしめ互に心を合して祈り働くことであります、勿論教會の教師は公けに廣告して此様の組を設けることを勧める事でありましょう、然れば斯様の組を設くるものは牧師に相談するとは良ろしき事である、唯だ要する所は其組の多過ぎざること、又極同情同感の切あるものあると等は最も大切なる要件である、故に公けに廣告する時は或は不適當の人が加入して却て害を受け折角の主旨を達せざる事があります、其れで其組が成立致しましたならば各々が其折角定めたる人の目的の爲めに祈禱するのである、故

に若し其集りたる人が最も親しきものからは其人の名を掲げて私某私は某と明かにす
 るとも善いのである、併かし場合によりては單に或一人を指して名を云はざるとも適當
 の事があります、斯様に其人々の爲めに祈りまするのは善きことであるのみならず尙ほ皆
 な銘々が其自宅に於ても亦祈ることが出来ます、斯様に定めて集り祈りますとは次の集り
 まで各々實地に働き勸めて傳道することが伴ふのである、其故に其集りに於ては互に其經
 験を話し合ふことが出来私ばかりくど或は失敗或は成功したる経験を示し合はすことが出
 來ます、或は又或人が不信仰の理由を話し合ふて其疑点を明かにする良法は如何にと實
 際的に方法を研究するのであります、斯様にして或人は或人を招き度いと申して實地の
 働きの事を話し又祈りて互に力を盡して或人の爲めに祈るのであるから成功があります
 其成功を見ます時は喜んで感謝を捧げねばなりません、而して此に其様ある組の一の
 極大なる目的が必要であります、其れは他の信者をして同じ様な働きをなさしむる爲
 めに同一の組を設けしむる事である、此祈りの組は働きの目的即ち實地傳道の目的機關
 であります、只集りて慰め勸め祈るのみにわらずして熱心に力を盡して働き度いと目的

を定める事である、此善良なる集りの性質は即ち此祈りの組の生命である、其れで其生
 れ付きの性質を以て段々生長致します事は殆も小兒の生長發達に於けるが如く又彼の
 稻の米の稔るが如く其固有の性質の上に成熟するものである、其れを初めたる時に親睦
 を主としたる働きの集合は如何に盛になりますとも矢はり其性質を持つて居りますから
 眞正に同情深き特別な働きの集りとなすとは出来るのであります、故に其特別な働
 きの新の組を設けるには初めて二三の熱心なるものが人を導く單一なる目的を以て集り
 を設けて他人を招きて其目的方法を同ふして偕に働くのである、然れば其れは段々と發
 達して大きくあります、其の大きくなりて人數の多くなりし時は之れを別ちて組を設け
 る事は適當なることである、是れは其一組内に八人若しくは十人以上の人が一組になり居
 るは却て其目的に適せざることである、例へば彼の蜜蜂の様に餘り多くなる時は分れて二
 つになるが如く生命あるものゝ作用に従ふ可きであります、然かし其組を分かつ時には
 只新規の人のみを別つ事ではなくして其新たらしき經驗少き人と舊き經驗ある人などを
 調和し又極親たしき友と友を其組に集まる様にする事に注意すべきである、而かし一の

注意す可き事はやはり同じ目的の爲めに各々心を一にして働くとは大切であります、斯様に働く所の組は少しも信仰の箇條を論ずるとも又教會の働くことを論ずるとも宜しくな
 いです、即ち同じ目的の許に同情深きものゝみ集まりに加入すべきことにて少しにても意
 志の異なるものは別に組をささしむ可きである、是れ其人數の少きを以て特徴とする所
 以である、如何とされば人は其面の異なる如く種々の意見を以て強く其れを注意せんと
 する傾きかわるからです、然かし男子の組と女子の組とを別つ事は適當なる事でありま
 す、勿論其組は度々牧師の勧めを受け又は相談をあして助力を仰ぎ其教會の許に屬して
 働く事は必要である、亦教會内の他の會員に一致して働く事も同様であります、其れで
 私共の働きは他の教會の働きであるとか何れとか考ふるとは極善くないことであると堅
 き信仰の上にならねばならぬ、終りに主基督の御約束を考へ度くあります、即ち馬太十八
 ○十九、廿に「我れまた爾曹に告げんもし爾曹のうち二人のもの地に於て心を合はせ何
 事にても求めば天に在ます我父は彼れ等の爲めに之れをなし給ふ可し蓋我名の爲めに二
 三人の集まる所には我れも其中に在ればなり」と斯様に主は堅き御約束を給りました、

故に私共能く一致して願ふ時は其力を受け喜び勇んで働くことが出来るのみならず自ら神
 の喜びに入るの光榮を得て大なる成功を奏することでありませ

第六日 他人を働かすに導く

行傳十一〇二五〓二六を見ますればバルナバが大切なる勤めに任せられてタルンまで行
 ましてソウロを招きて参りました、ソウロは幻を見て熱心に働かんと致して居りました
 がダマスコに於て差支が出来又エルサレムに於ても大なる防げがありました、彼れソウ
 ロは初め熱心なる迫害者でありましたるも其改悔して基督教を信するに至りてや大に主
 の爲めに働かんと志し多くの望みを抱て働かんと致しました、なれども其妨げの爲めに
 なされませんでした、故に彼れは故郷に歸りて大凡十年間位留まり居りました、斯様に
 彼れは基督に従ふて居りまして其働く場所があく其道が開けて居りませんから其間
 傳道したるとは聖書に書いて無いのであります、かゝる折りに當りて熱心ある傳道者バ
 ルナバが其ソウロを招いて傳道の大切なる事を勧め終に彼れをして熱心傳道に従事する
 様に勧めました、今も凡ての教會に此のソウロの様な人があります、其れは悔改める時

は大層熱心で何か傳道の働きをしたいと願ひますが唯其適當なる機會がありませんから働くことが出来ませす次第に其熱心の度か冷却して遂に働かざるやうな状態にあることありませす、是れは誠に残念な事である、其れで其様な人を招いて折角其爲すべきことに導き其機會を興ふるとは極大切なる事である、若し此導き助けがなければ或は有力なるソウロの様な働き人も失ふことがあるかも知れませせん、主クリストは唯に牧師傳道者にのみ働かざるを求め給ふにわらずして凡て皆に傳道することを確かに求め給ふことでありませす即ち此働かざるから進歩するのである、近時朝鮮國に於ける基督教の傳道の熾なる事實も全く信者の熱心ある活動の結果顯はれたる實例である、而かし世の教會の内には其働かざる役目的に考へて自分は牧師傳道者又は委員でなければ別に働く可き筈でなく又其働かざる場所も無き様に思ふ傾きがある、是れは誤りでありませす、其故に斯様な人々に對して其働かざるの大切なるを教ゆるは勿論尙ほ其働かざるの方法場所等を示して之れを導くことは最も大切なる事である、彼の其屬會や青年會等の發達成功するとは唯此信者各自が働く法則を設けて皆なが皆に働くからであります、併し法則は實行することを油斷すれば死んで

しまひます、其れで若し人を委員として何かの働かざるを託すとを托するも其人が其方法を知らざる時には何の益もありません、故に方法を知らしめ導くとは大切である、一の實例は私の幼年の時に青年會の會員になりまして委員に擧げられました、其れは或日の事會長より書翰を受けて或人が病氣でありますから今日か明日に訪問して之を看護し慰む可きと命せられました、然るに其病人は市の有名なる富豪でありました、當時私は幼年の身分であるより幾分懼れを抱きて居りましたなれども幸ひに會長よりの紹介の手紙の換りに經驗ある導き人か私を伴ふて行く様になりました故私には安心して其任を全ふすることが出来たことがあります、斯様な譯で傳道に付ても教役者が或一人の信者を伴ふて其人と共に實地に働くとは餘程成功ある事である、のみならず其人をして熱心なる教役者ともなすに至る事があります、其様に病人を慰め或は貧しき人を助ける等の憐憫の働かざるも素より大切であるが更に大切なることはクリストを知らざるものをしてクリストに従はしむるのである、是れ第九學課第五日の學課によりて其方法を學ぶ事が出来ませす、其なすべき法則は只凡ての信者が神の爲めに傳道することである、若しも一の教會にして

其様の働きの一人だも無しとすれば是れは教會の缺點である、而かしこふ云ふ教會は世に稀れなることでありましよう、其れで或一人の人をして働かすとは最も大切なることである、而かし唯だ行つて働く様に勧めのみにては何の功もありません、即ち偕に働く事が其結果を得るとの出来る基であります、でか様の働きは他人を益するのみならず又自分の力を養ひ得らるゝのである、

第十學課 會ふ所の人に傳導する

第一日 家族及び親族の者

「人は自分の僕の前には豪傑であらう」と申します、其は私共家庭の人が私共の缺點を能く見て居りますから其家族又は親族の者に傳導するとは餘程六ヶ敷とであります、なれども其れは一番大切なる義務である、其れは自分が最も深く關係して居るから他の人々より先づ自分の力を盡して勤む可き當然の働きのみならず必ず成功を見るべき事である、世の多くの人が他人に叮嚀にして家庭の人に對して無禮あることを致してしまふといと思ふが之れは確かに誤りであります、即ち人は自分の親兄弟や親族の者を愛すること

は他人を愛するより優つて居るとは事實である、其れで傳道の事業は愛の事業なれば殊更に家族及び親族の者を招き度いと感ずるは當然の筈であります、若其内の信者たるものが是の勧めを致しませぬならば幾等他人より勧められましても其血肉の者が勧めませぬならば敢て大切あることではあるまいと感ずるに至ります、斯様な譯でありますから若しも信者が少しも勧めを致しませぬば其は全く内の人を踏かして之れ等の靈魂を滅亡に至らしむるものとなりませぬ、是れ誠に親子兄弟又親族の間の愛の關係より重大なる事でありませぬ、馬可傳五章に記されたる(馬可五〇一—二五)彼のガダラ人が己れの惡鬼を逐ひ出だされ喜びに溢れて主と共に居らんとを願ひ求めました時に主は之れを許さずして命じて「爾の家に歸り親族に行きて主の爾に行し大なる事と爾を恤みしとを告げよ」と申されました、するとかれは其當初の望みを翻へして其命を守りました、故に彼は主の大なる事をデカボリスの地に言揚めて衆人をして駭かしむる事が出来のであります、斯様に私共も自分の親しく且よく知り合つて居る關係から其人の周圍には極熱心力がであります、其れで私共が傳道の機會と便利が多いのである、而かし是に必要のものは即ち自

分が其行を極清くすることである、是れは一番大切であります、若しも彼の鬼を逐ひ出だされ救はれたる人にして確かに潔められたる経験がありませぬならば其れは少しも力がありません、即ち私共がクリストに教はれ潔められましたと言ふ許りにてあらば其行ひによりて明らかにクリストの力が顯はるゝ事が無ければなりません、是の自分の潔き行が傳道をなす時最も必要のものであります、其れは彼の鬼に憑れたるものが如何に勸めをなしましても其人がやはり鬼に憑れて居る様であつたらば何の力も奇いと全じとです、斯様に私共も以前に異なりたる品性と行がありませぬならば私共が如何に勸めをして何の益もなきものである、此種の傳道に於て最も要する所は唯だ説教にわらず行ひに力があるのであります、併し教を勸めることを大切でないと油斷する事ではありませぬやはり必要です、實際基督教は其信者が幾分か其宗教の内に感化誘導の力を顯はして進歩する勢力の有様があるものであります、或一人が初めて信者になりました其親族の人々が次第に信者になりますとは常に多くある事實であります、是れは信者が當然の働きと神が斯かる傳道に特に祝福を給ふからであります、斯様な傳道は他の一般なる傳道

事業よりは大に成功すべき筈であります、而して此傳道は一番喜びの多き特別傳道である、凡そ眞實なる人情を有するものは只自分が救はれたるを以て満足すべきに非らず他人を救ひ度いとすることは當然の情感であります、又特に自分を愛するものに對して其深き同情の念は大に進んで其救ひに預からずすることを極力勤むべき筈であります、此れは其人の爲めにも又自分の爲めにも大なる喜びである、斯の如き傳道は神より賜はるる祝福を給ふ約束がありますから確かに成功する方法であります、

第二日 宿屋下宿屋等に居住する人に勸めること

是様な製造場所や學校等に行く所の人々が色々の譯にて宿屋下宿屋等に付て居るとは近時だん／＼増しつゝある、凡そ人は家庭内にては色々の事により罪の誘惑より救はるゝ事があるなれども彼の宿屋下宿屋等にある人は其罪の誘惑が多くあります、其れは親密なる友人又は兄弟がありませぬから自然に淋しく感じます、其れから酒を飲み放蕩をみすに至るのであります、例へ大なる都會群衆の中に居りましても其交際する親しき友人がおりませぬならば其れは一番苦痛なることであります、下宿屋の主の内にはまゝ己れ

の家庭の如く扱ふものがあるなれども普通其様の事はないのである、其れで若しも信者が下宿屋をさすならば矢張り愛と同情を以て扱ふことが出来ずから其れは大なる働きとなるのである、斯様な基督主義の寄宿舎を設けるとは餘程大切なることであります、或は基督信者が其様を下宿屋に住みて居りますならば其れは又他人を慰め助けて基督に導くことが出来るものであります、此信者の働きは確かに人を救ひの喜びに入る事なるのみならず又自分の信仰の益となることである、或は又他の家庭のある人又は友人の多くある人が彼の淋しい宿屋下宿屋等に住みて居る人々に交りあるべく勧め助けて實際的傳道をなすとは餘程効力の多い事であり、彼のヨセフは自分の(創世紀三十九、四十章)故郷より放れ獄屋に入れられて淋しき時にも神を忘れず又人情を失はず自分の苦しき境遇中にも唯自分の爲めに眞實ある生活をするのみならず尚ほ其同じ囚人を慰め助けて傳道して居りました、是れはクリスト信者のさすべき模範である、クリスト教は特別に人を慰め愛し助けを與へる主旨の宗教であります、故にかゝる境遇の人に對して大に同情をよせ助く可きであります、苦しも此の愛の活動がありませんならば其れ如何に説教を致

しましても効力がないのであります、唯だ懇切に働き助け勸むる所の實行の上に大なる善果を結ぶものであります、

第三日 商賣の徒輩

一般の人が其生涯中の大部分の時間を職業の爲めに費すのであります、其れ故人は其職業の内に傳道することがありませんならば生涯中殆ど傳道の機會は無くなるものと云はねばならぬものである、而して其傳道する機會は大部ある業の間に於てあるのである、即ち懇意なる人や勢力ある人は其取引中に出會ふ人々の中に多くありますから常に傳道の適當なる機會が多いのである、然るに世には或る人々が其自分の生涯を二つに別けて宗教的と生活的との別を立て此様の場合に宗教的に彼の時には生活的にせんと自分の勝手な區別をする事があります、是れは明かに間違て居る、即ち基督信者たるものゝ斷じてあす可からざる事であり、クリスト信者は皆な牧師傳道者の様に専ら説教をなし傳道に従事する事は出来ない事なれども自分の商賣職業の上に於て神の榮を顯はすことが出来ます、此の信仰は傳道となるのである、今若し假りに牧師傳道者の働きが皆々自分の

爲めになすことでありましたならば其れは耻である又恐ろしいことでもあります、斯様に業務ある人にては唯だ自分の爲めにのみ働くのに動くものでありますならば其れは又同一の事であります、「勤めて惰らず心を熱くして主に事へ」(羅十二〇十一)是れはギリシヤ語の意味によりますれば職業に怠らずして神に事へるとを教へるとであります、私の知る人に大なる製造場を持つて常に千二三百の職工を雇ふて大なる事業を致して居るものがありません、其人が申しますには私の使ふ製造場は神様の爲めに使ふ場所であり其利益は神様の爲めに用ゆるのみならず其多くの職人に對しても恒に神様の爲めに使役する事を心配して居ると申しました、是れは誠に適當なる考へであります、其れで下の如きこの考が大切であると信じます、第一は――申すまでもなく基督信者の商人職人は基督信者らしき賣買の働さをなさねばなりません、即ち只洗禮を受けたるのみにてはいけないう其約束は正直確實あるよりクリスト的勢力を顯はす可きである、第二、職分に働くの機會を利用して進んで大に基督的の働をなすべきである、即ち是れはなし得らるゝの事實にして其働は人を益し又自分をも益することである、又或る有名なる大金満家にして居

牛商を營む人が或人に向つて申しますには私の職分は神様に事へる爲めである、而し其入費の爲めに肉を賣るのである、と其良き信仰である、又或人は人を雇ふて使役すると共に其各自にクリスト的勸めをなすの親切あるものがありません、斯くすることは毎日其人に接し本心の傾向を知つて居りますから其勸めが大に勢力を得まして結果の宜敷いことであります、彼の公けの集會には恰かも遠方から話す様でありますけれども是れは家庭の様に互に親しく交りて充分に勸める事か出来るにより勢力あるとであります、故に信者が斯様な事を致しませんならば其れは却て人を躓かすこと恐る可きことであると考へねばならぬ、或人は私は信者であると云ひまするも少しも傳道すると云ふ志がありません、其れは其の人自分の躓きである不信仰である、而かし信者か傳道的働きを致しするに一の注意すべきことは先づ自分の行が潔白であければなりません、多くの人は自分の品行が餘り充分でありませぬから傳道するとか出来ぬのであります、此の自分の行が清きと否やは傳道の成敗と自身の爲めとに大に考慮を費すべきであります、

第四日

教會の出席者

教會に始終出席する所の未信者がありません、又熱心ある求道者がある、只禮拜に望みて信者と交際するとのみにて満足するものがある、是等の方面の人々に對して個人的勸めは必要である、素より普通の説教も其人を導くに効あるは云迄もあきことなるが是れで満足するとは出来ない、必ず個人の勸めが必要なのである、以上の如き公平なる求道者にして未だ信者にならざるは何か心に妨害があるからであります、而して牧師の勸めが其様かどに適應しないかも知れません、故に個人的勸めに於て其信者自ら経験したる事實を以て充分に其人の妨害を取り除く事が出来るのが度々あります、元來クリスト教は學問でなければ道理にのみ依りて信するものでありません、即ち實際的交際の間に生命より生命を延て信するとは普通の實例である、是の信者の靈的感化の力と實際の親密は大に求道者に力を興へるのである、彼の支那や印度等にては地位の傲慢より上の人には下の人に交際することを禁ずる法則があります、で日本國には左様の事はあいと申すが實際ないでしようか、或は其様な習慣が教會の中にありはしますまいか、其れは残念ながら丁度彼の放蕩息子 of 譬の中にある彼の長子の如き心の人が教會内に澤山あるのであります

す、即ち私は貴下より正しき人であると考へ汝は放蕩息子不信者の人なれば私共と交際することは出来まいと自ら傲慢に傾くものが多い様である、其未信者は其様な感覺あることを認め信者と交ることを拒み又教會に入ること嫌思む様になるのであります、是れクリスト信者に於ける道徳的の傲慢唯自ら潔きものと誇る丁度彼の放蕩息子の兄の様な大缺點にしてやはり罪であります、斯様にして私共教會の交際が冷淡に陥りまして氷より冷たいことでありますならば人は教會に這入れば凍るかも知れぬと恐れて居るかも知れませぬ、是れ敢て牧師の缺點でありませぬ、大概普通に信者の缺點である、即ち信者が宗教を唯自分の慰め利益の爲め信するから善くまいとであります、以上に申しましたる如く教會に出席したるものに對して傳道するとは一番適當なる機會であります、其れは何故なれば其人が教會に行く時は必ず一ツ望みを持つて居るからである、あれども其洗禮を受けたいのは必ず何かの妨げがあるからであります、斯様な境遇な人にこそ助け與ゆべき適當なる機會である、或る求道者は斯く申します、即ち私は汝の教會へ何年何月頃より長い間出で居ります、未だ別に個人的に勸めをせられたとはあいと是

れは教會の缺点であります、畢竟教會たるものは世の中と異り人情に於て殊に靈魂上特別に重んぜられて愛情温かき筈であります、故に此世の中の冷たさに比して教會にして極く温かく同情の燃へ居るとあらば其れは確かに多くの人の喜んで來り神を信じクリストに従ふことであります、

第五日

世人の休み樂むの時に相會ふ人を勧め導く事

人々が夏の休み學校の休みの時に他處に移つて樂むとは近時の流行であります、斯様な時に當たりて少しも信仰の義務を弛めるとは良くない、蓋は其様な時に多くの難船をした生命があるからであります、通常是等の休み樂む所は大概誘惑の多き虚樂の場所であつて又多く罪ある樂しみをなすことであります、凡そ人は己れの家庭の内には其親兄弟や親族や又は他の親しき徒輩と共に接するを以て自然に心を堅くして種々の誘惑に打勝つ事が出来るなれども一度他所に行きて離れ居る時は又自然に心弛く誰も見て居らぬ爲め遂に誘惑に打負け罪を犯すに至るものであります、其れは矢張り其人が油断して心の内が掃き清まつて居りませぬから惡魔が這入るのであります、然れば此事に付き主キリス

ト戒を與へ給ひました、(馬太十二〇四四、四五を見よ) 斯様な樂しみの場所に於てクリスト信者たるものが先づ第一に自分が誘はれて罪に陥らぬのは勿論の事、尙ほ斯の如き誘惑にある人をして躓かない様に氣を付けて保護するとはなすべき事である、併し其様な時は人々を基督に導くよき機會である、其れは多くの人が其様を樂しみの時には別になすべき勤めもないから心か弛やかになつて居ります故に基督敎を聞き學ぶ事出来る場合であります、彼の棘の多くある土地は其種が實を結びませぬ、其れは地を塞かれるか故である、然し今更此休みの時の如きは其土地を塞ぐ棘が多く有りませぬから福音の種を蒔くには適當なる機會であります、成程一面には誘惑が多くありますなれども又一面には又能く考へ學ぶの暇が多くありますから大切なる時であります、併し我が世の基督信者には其様の休みの時には又自分の宗敎の務めを休む傾きがあります、勿論信者が其疲れを休むの必要が有りますなれども斯様に他人の誘惑多き時に是れを導き助けねば世の人は誠に氣の毒であります、信者の休みは他人の誘ひに合ふと比較的少き時に休む様につとめたくあります、例せば普通の信者が六日働いて七日に休むも牧師傳道

者は其日に働いて他の日に休息のものです、
 今此の休みの時に就ての注意は又他の宴會娛樂の場合にも其誘惑多き時に際して同様に
 適切なる事である、或は通常に其様な楽しみの場合には勧める事は不必要のことであると
 考ふる人があるかも知れませんが、併かし其楽しみに居る人の心中には餘程不満足である
 境遇の人があります、それは其楽しみの中にも心中餓へて悲しんで居る人が度々あります、
 而して其楽しみは人の心の糧となりて此様な場合に信者が適當に働いて勤めをなすから
 ば其人は確かに道を求むることであります、もしも信者が其様な場合に自ら楽しみ許りし
 て他人を眞面目に勧め導くことがありませぬならば基督教は餘り價値なきものとの感と他
 人が起すかも知れませんが其れは併し信者には常に楽しみが全く苦痛なる生涯を送ると云
 ふ譯ではありません、充分に楽しむ可きであります、しかし他の人よりも心正しく一層
 眞面目ある楽しみをなさねばならぬ、又信者は疑を生じ妨げを招く様の楽しみをなすと
 は宜しくありません、よしや其楽しみは自分を害するとは有りませずとも他人を是れに
 より躓かしはせぬかと注意して慎しむ可きである、即ち彼の保羅が偶像の前に供へたる

パンを食するは己れを躓かすことは亦い他人を躓かすかも知らぬと云ひて之を拒んで
 之れを食ふとを慎んだ様にすべきであります、

第六日 學校の輩

學校の學生は特別に導くべき機會にあるものである、即ち學生には特別の性質もあり、
 又多くは其家庭に居らずして他所に寄宿し其境遇上懼る可き誘惑多く且經驗なき爲め頗
 る危険なる時であります、故に其様な場合に深切に勧め導くとは大切なる事です、何故
 なれば其好機には人は心が開けて居りまして適當に受くる傾きのあるものである、大人
 は其生命が既に決定して居りますから容易に動くとはありませんも學生の如きは未だ決
 定して居りませんので常に新らしきを求めて大に學ばんと致して居ります、故に基督教
 を研究するとは彼等の道徳性の希望する所であります、然かし學生は疑ひの多い時代で
 あります、其れ自分の智慧學問を誇り重んじて居りますから凡てのことに判断を下すことが
 容易であります、彼等は其遺傳せられたるを考へ又宗教も疑ふ傾きがありますからやは
 り基督教に對する疑ひも強くなりますのは當然です、斯様な場合故其人々を勧めることは

餘程の熱心を以て教へませねば容易に信ずるには至りません、併し學生たるの時はクリ
 スト教を信ずるの最も好き機會であります、即ち學生は殊更道理を重んずる力が強くわ
 りますから一度議論し其道理を明かにする事が出来たれば従ふの心があるからであ
 ります、人の學生たるの時代は未だ其心が堅く決定して居りませず弱い時に於て此心の柔
 かい時は即ち其人の一生の傾きの定まる大切なる時機であります、是を例へば恰も土
 の柔らかい時は何の形に作るかを得るも一度其れを焼いて堅くなりて後は最早何の形に變
 ずるとも出来ぬ様になります、人も十二三歳より二十歳までの間は未だ熟して居りませ
 んので如何様にふるまふ事が出来るのである、二十歳よりは其性質の傾きは決定するもの
 でありますので、是の學生時代は年若きより人々は交際に心安く隨て人より度々勧め
 を受くる時機である、故に信者たる學生は特別に其學友を勧め働かすとは他人の爲
 め又自分の爲めに誠に宜しきことであります、彼の世上の商賣人や役人や等の人々の特別
 にも個人的の考へが強く唯だ自分の爲めにのみ偏する弊があります、されども學生は之
 れに反して其境遇と自然に共同的思想が熾んにありますより、互に信じ助け合ふの心

が強く其故に誠なる傳道の勧めを受入るとは容易なることとあります、元來學校なるものは
 恰も小さい一の世界でありますから其二三百人或は其數百人は即ち一團の下に特別に交
 する性質に富んで居ります、故に其學生が其友を導くとは餘程必要たるのみならず、其勢
 力のあると實際上疑を容れざる所である、又學生は其學校中の或る學生に眞似て其風
 を習ふの傾きあるものです、其で或學校の學生の氣風は同様に大概自然に一定するもの
 であります、例へば一年生は二年生に二年生は三四年生にと矢張り其學風の感化に引か
 れて居るものである、斯様な次第ですから其學生中特別に秀でたるものある時は他の學
 生は自ら之れに感化せらるゝものである、而して今其學校中に於て秀でたる學生たる
 べきものはクリスト信者でなければなりません、併かし世上の實際には又果して信者の
 學生が一番強いものたるのを見るものである、是れ畢竟信者たるものは比較的性質の善
 良なると勤勉なるより隨て其修學上にも異なる点がある筈です、故に斯様な地位にあ
 る信者にして唯だ自分の爲めに信ずるとは宜しくないと勿論大に他人の利益
 の爲めにも勧めクリフトに従はする様其力を善用す可きである、然れば如何にして他

の學生を導くかと言はざ即ち自分の品格を純清潔白にして基督的行をなすべきであります、故に其責任は餘程重大なのであります、しかも若し之れに反して其信者たるの品格が少しも有りませんならば其れは非常に學生の躓きとなるのであります、尙ほ信者たる學生は其一校中學課に於ても他より優れたる修業の實を顯はさねばなりません、若しも其勉強を怠りて居りますならば其れもやはりクリスト教を辱かしむるものとなり、是に於て學生を勸めるに付ての方法には一の注意すべき事は普通には學問的の道理を以てするとも一の方法なれども尙ほ實地の問題を以て即ちクリスト教が人間の品格に及ぼす力を示して實際的に勸めるは更に善良なる方法である、唯理論にのみ偏する時は學生は元來論を好むの傾きあるより大に異論を考へて議論にのみ走るの弊がある、故に理論と併にキリスト教の實地の勢力とを説いて勸めるとは効あることです、自分の經歷、行等の事實を以て勸めるとも餘程大切であります、更に特別に注意すべき点は人間は神に對して責任ある理由を以て説くことである、普通學生の者には基督教も矢張り哲學である故に他の宗教と比較して恰も裁判官が甲乙を批評決定せんとする如く考へる傾きがあまり

す、併かし是れは間違であります、クリスト教は哲學ではありません、眞正の宗教天下の依り頼む可き唯一の救の道であります、されば人間の神に對する責任より人類の罪あると又救ひの途あるとを説いて基督の愛に依らしむる様に積極的に勸む可きであります、學生は理論に偏する様に見えまするも又内心潔白にありますより自分の罪あると缺點のあるとは自ら悟るとのあるものであります、故に罪の救しの必要を勸めるとは勢力あるとである、更に進んでは人が立派なる人物とならんとするには神の助を受け罪に打勝つるの信仰を要するとより基督教は實際に其力を與へ神の祝福を受くことを示して勸めるとは最大なる要件であります、而して其何れの場合に於ても普通に學生に對するには理論的に陥るの傾きを慎んで實際的に直接に神に對して義務あるを主張し謙遜に神と交通をなさしむる様に勸むるとは最も勢力あるとであります、

第十一學課 從はし度と思ふ人を觀察すること

第一日 其人の性質

凡る如何なる事業に在ても其事業に成效するには其人を研究することが大切である殊に

傳道の事業は殊更に人を改心せしめ丸で新しき人と爲らしめんとすることなれば其人を能く知ることは極く大切である若も此事を忘るときは其働の成効は餘程六ヶ敷です人が度々或人を基督に従ふ様にと働きますとも其人の信ずること思ふと重んずると等が明にありませんで却て其人を基督より離らす様の勸を爲すの傾きがある例へば大層昔のこととを重する人に向て基督教は二十世紀の文明の根本であると勸めますれば其人は基督教は昔の著しき風俗を變化する悪いものと考へます之に反して今の文明廿世紀の事を重する人に對し基督教は昔からの風俗を引き重する宗教なりと説かば之も其人の氣に入らぬ事でありませす實際主義の商賣人等に向て基督教の深き秘密の理由を述ぶること餘り利益がありません又哲學者等の深く眞理を研かんとする人々に其目的に適ふ様に深く眞理の説明を要するのである人間は斯の如く各自違つた性質がありますから又異た質を持つて居ります例へば砲兵には砲兵騎兵には騎兵歩兵には歩兵と各種各様の特質と要求があるが如きである若しも人が其砲臺を取る道具を以て騎兵に向ふならば失敗である騎兵と戦ふものにて砲兵と戦ふならば亦失敗であります唯肝要なるは各其特質に適する道を選むべきであります

第一その氣質の短氣ある人

此種の人に對して違た扱が必要である此様な人に對しては極く氣を付けて其氣に支はらぬ様に注意すべきである即ち其れは殊更に自分の心を警めて忍耐深く柔和と謙遜を以て眞實の愛よりすることは極めて必要であります

第二又一ツ利己の深き人

此種の人には常に自分の苦を重じて居ります故に自分の欠点自分の罪を重じて居りませんで却て神が余りに苦を與へるとの批難の心があります其様を人を勸めることは特別に六ヶ敷ひが矢張神の權威と其計畫又は人間の智慧と其力の事を説きて神の智と人間の愚を悟らしむることが大切であります

第三大なる苦にある人若しくは大なる富を持ち居る人

此の特別に悲み又特別に誇つて居る人に向て各々違つた扱が必要です即ち一は慰め一は戒しむる爲に神の助と其懲とを説きて教ゆべきであります要するに如斯人各の性質に對して其の最も適當する方法を採ることは傳道上の一秘談であります

第二日

其境遇を調べること

人の境遇を充分明に知りませんならば其人を導くに就て其方法を設くることである即ち信者の家庭に育てられたる人と極く悪ひ家庭に育てる人との別は大に導くに於て異なることでありませぬ例へば或人は極く冷めたい境遇にて餘り友人が無く亦親類も無くて常に一人で淋しく生活して居ります此様な人に向ては交際を求め同情を以て其の友と爲りて導くことは一番適當なる事でありませぬ然し或る他の人は友人も澤山にあり親類も多く温い境遇に生活して居り升此様な人は別に交際も同情をも求むることはありませぬ故に他の方法にあらざれば適當せぬのである亦た或る人は餘程貧究に陥て居りますなれば其人を助けることは大層心得るの勢力が有ります然し他の金持の人は其の助は必要がわりませんなれども他に大なる心の苦痛が有りますれば其れは方法に依りて助けることが出来ませぬ斯様に色々境遇が違ひ其求むる處も異ります故に其適當なる扱がなければ其働が成効することはありませぬ而して其人の境遇を調べて適當の方法を知る事は矢張り教役者自分の境遇に比べ考へて充分に悟る事が出来るであります主基督は仰せ給ひました即ち（凡て人に爲られんと欲ふ事は爾曹また人にも其の如く爲よ太七〇十二）如

斯凡ての場合に深き同情を以て其人の境遇を量り其眞實なる愛を施すことは最も大切なることでありませぬ、

第三日 目的の人の徒輩

前の二日の教訓の境遇に於ける其人の徒輩は大なる關係あるものである故に茲には其徒輩の事を説きます人間は特別に眞似をする動物です即ち人の風俗行爲而已ならず其考へ其信することは矢張幾分か他の人の其親しき者と同様に爲の傾を有するものであります（哥前第十五〇三十三、三十四、三十三）爾曹みづから欺く勿れ惡交は善行を害ふあり三十四 爾曹醒て義を行ふ可し罪を犯す勿れ爾曹のうち神を知らざる者あり我かく言て爾曹を愧しむる也）然るに其れは徒輩の理窟的議論を以て阻ける事では無くして却て嘲笑を以てするです然し其の一言は存外に人の信仰を傷けるに効力が多くあります勿論此等の嘲笑的談は素より基督教を知らざる無智と悪心より生ずるものであります而も是れが爲めに信仰の動く事は誠に殘念な事です斯様に重大なる關係を持つものであります故に他より大に助を與ふるの必需あるものであります其れで初て其人の徒輩が基督教を惡む

ものからば之を覺て其の阻げに勝てる様に注意して其人を助けることは大切です然し其折角其罵る人に向て議論を以て戦ふと言ふ譯ではありません矢張其の嘲笑に依りて其人が動されない様に其人の心を強くする事です即ち忍耐と勇氣を起さしめたることであります若しも其眞實なる徒輩が眞面目に議論を致して居るならば其れは議論を以て懇切に開明する必要がありす併し餘り議論に偏することは利益はありません蓋は却て議論の傾きを養ひ勞して功なきに終るからであります故に議論的の必要あるとも唯自ら其論戦を避け積極的自己の主張を丁寧な説明し神の教を示すことは一番適當であります若し又其人の徒輩が何時も理學的の談を以て奇蹟を論じまするならば其れは直接に奇蹟の信すべき説を論するよりも矢張神の全智全能と其在さざる所無く且つ其の救の大切なることは神の大なる目的ある事を説べきである而し盛大なる目的の爲に基督は顯はれ給ひました即ち神の性質を備へたるものである然れば基督は最も愛深きものあるが故に人類の其苦しみ悲しみ又病たる者に對して其愛情禁ずる能はず之を痊し給ふのでありますと間接に奇蹟を説明して矢張議論する傾きを避け勤めて其人の疑を明にする様に助けるです

尙又其徒輩が非道に妨げを遣ふする場合には不得止其人をして其友と絶交することを勸むべきである是れ決して憎ましむる爲にはあらで全く避けしめて其信仰を養成するが爲めでありす然し如此徒輩は悪人である最早友人とする價かありません故に之を離れて他の善人に交際することに改むると當然爲すべきことです(太五〇二十九、一三十、二十九、若し右の眼なんちを罪に陥さば抉出して之を棄よ蓋五体の一を失ふは全身を地獄に投入らるゝよりは勝れりもし右の手なんちを罪に陥さば之を斷て棄てよ蓋五体の一を失ふは全身を地獄に投入らるゝよりは勝れり)即ち斯様に勸め其人をして基督信者に交る様に爲さしむる事は大に信仰の助となり次て教會の交に結び斯くて其徒輩の妨げを離れ善良なる感化の許に至き信者と爲さしむるに到るのであります、

第四日 導かんとする先の人の弱き点を知ること

鎖が切れる時は其一番弱き所より切れる如く人が躓く時は亦一番弱点に依りて躓くの氣遣か多くありす然し基督教は人をして早く悔改めて罪より離れることであるから其弱点を見て其所に助を與へるとは大層必要であります凡る人は如何に善く武器が具はり居る

とも必ず一ツの傷を受くる缺點の處があります併し其弱い点が弱い点を隠して度々見へ
 ませんかれども實際は必ず弱き所があります人は一番弱い点に打勝つとが出来れば完全
 に勝利を期することは六ヶ敷でせうパウロは其武器を鍛ふ事に付命しました(弗六〇十
 一—十三、十一、なんぢら悪魔の奸計を禦ん爲に神の武器を以て裝ふ可し 十二、我儕は
 血肉と戦ふに非ず 政また權威また斯世の幽暗を宰る者又天の所にある惡の靈と戦ふか
 り 十三、是故に神の武器を取る可し是あしき日に遇て敵を禦き凡の事を成就して立ん爲
 なり(尙是は希臘原語聖書に依れば其武器を皆な残らず鍛ふべしの意味であります然し
 人の弱點は人各々異なりて居ります即ち或人は飲泄、色情、短氣、傲慢、我儘、利己、
 不忍耐、迷信、疑念、無學、不熱心、因循、臆病心等種々に性質境遇に依て違て居るの
 である併し其人を見るには其弱點を見て之を輕することなく其れに就て助けることを勤
 むべきであります若も出來ないことと思ふも尙其の勸を油斷することは宜敷ありません
 例は或人の弱點か酒色にあれば其れに議論的推理を以て勸めるよりは實際神の能力神の
 助けを勸めて導くです又或人の弱點は知覺の缺點即ち疑ひ迷信又充分に道理を解し能は

されば其人には深い道理に依り罪より救はるゝ事を得ると述ふるよりも却て極く單純に
 平易に神の教と恩とを傳へることである即ち實際的行ひに感せしむることであります人
 の信仰の妨害をする弱點は必らず何かの罪を犯す事である然しこの罪即ち敵を能く知る
 ことが出來れば其人を助けることが出來ます例令は軍隊の砲臺に戦ふ時には人の居らぬ
 處に戦ふは無益です必す其の目的の敵の居る所を衝くべきとである故に人を導く時には
 唯其人に勸めるよりも却て其人の話を聞くとか極大切である蓋即ち信仰上の敵の所在を
 知ることを得るからである是れ個人的働きの大切なる要點であります蓋は何と云へば説
 教する時には一般に普通の教を述べます故に個人の弱きことを助けることが出來ません併
 し個人的にする時は其人に會話して其人の考を告げしめ亦其求むる要點に對して談する
 の利益があります其れで一つ極大切なる注意がある即ち人が十分に自分の考を示しませ
 ぬならば其人は又汝の談を充分に聞くともありません何となれば其は必ず其人の要求に
 適切ならざるに依るからであらう其れは丁度人が病氣の時に醫師が來りて少しも其容態
 を聞くことなくして藥を投すればドモ此醫師は私の弱ひ所病の根本を充分に知りませ

んとて其人は醫師を信用することが出来ません然し之に反して醫師が充分に其病を聞正したる以上是に適應したる投劑を爲すに到らば信用も高く其病を退治するに於て完全の道を取ることが出来るのであります今靈魂上の病者たる人々に對して療法の傳道を爲さんとする事も亦此道理に外なることは有りません、

第五日 導んど思ふ先の人の強い点を知ること

凡ての人は弱点あれば亦強き点もあります是故に消極的 働より積極的 働に益がわる即ち其人の弱い点妨げある所を助けるは善きことあれども尙其人の強き点を以て打勝たしむるとは尙更に利益でありませぬ故に其人の強い智ひ点を調へて之を助け導くことは最も好きとである例令ば人が酒を飲む杯の習慣ありども其人が若し愛深き憐憫の心がわるならば其長所を以て其人を導き助ける或人が音楽の上手ある時は其人を教會の音楽の時に招くと其れに依て教會に導くことが出来る是等は實際多くの人か英語を學び度どの希望よりして基督教に導かれて居るが如き事でありませぬ又唯人に談じ勧めるよりも却て先方の人より何かの助を受けて其人の長所を借りることも双方の利益であります是は只

求道者に對するのみならず亦凡の信者に於ても何かの働を爲さしむることは同様であります若しも何も働くことが無としませれば其教會の半分或は大部分は死だものであると申すべきである故に牧師教役者は信者に勧めて働かしむることは極大切です而も其信者の働きは即ち自分他の人よりも多く働く可きであると自覺し喜でなす様に到らしむべきであります夫れで普通に人を勧むる時には先づ其の強き点を發見して其れに依りて其人を勧めることは必要である例令ば空氣を徳利の中より追出さんとするには他の物(水の如き)を入れることを要するが如く即ち其人の惡習慣を取り除かしむるには消極的に是れは爲す可らずと言ふて制するよりも却て其人に善き望善き行を爲さしむる積極的の勸めが大なる利益であります又一の方法には人を勧める時には其強い力の点を使ふて勸めることが利益である即ち若し人が思想家にして智覺の強きものならば基督教の深い意義教訓を教ゆるならば其人は斯く立派なる教なりと信仰するに到ります然し無學文盲なる人に向て其様々談は適しませぬ却て實際的方面より其人の長所を用ひて勸むべきである又た慈善を重んずる人には基督の慈愛キリスト教の社會に於ける勢力を勧めて以て導

くのです亦た或人が特別に公平なる人ならば基督教の公平なる真理の教にして人心の要
 求に適應するものなることを示して勧め更に亦或る人が善き人に爲り度と望みて居るな
 らば基督教は即ち完全なる人を作り出す権能あることを説き勧めるとは何れも適應せる
 方法でありませぬ例令は或人が極罪に汚れて悪い事を致して居ります時に臆々汝は神の罰
 に處せらるゝ罪に陥りますと言ふよりも其の人の心の中に假令些少なる希望たりとも其
 の善き人になり度との望があることを認め其の望の点を引き起して積極的に勧めること
 である然し又事は一利一害の法則がありまして更に一つの注意をすべきことがある蓋は或
 る時には其人の強い点が其の妨害になることがあります即ち人が強いから自分に誇りて
 傲慢になることがある例令は思想家であるが故に或は議論家に成て終ふ欠点があります
 矢張り長所が亦短所である夫れ故に人が度々強い處が却て欠点であることがあるから他の
 点より勧めることの必要がありませぬ即ち思想家學者である人は汝の考汝の宗教よりも私は
 斯く考ますと言ふ誇りの氣遣がある亦た慈善家の人は宗教の必要が無と思ふ事がありま
 す其様な場合には即ち他の方面より勧めることが必要であります丁度基督が富める青年を

扱ひ給ひし様に方面を選むべきであります其は矢張り小兒が如何に學校で智を學ぶも若し
 も親に對して孝を盡しませんならば其れは欠点です即ち不孝である斯様に人が如何に人
 に好くとも神に事へざれば是は大なる不信の罪です更に亦人あり其れは學問ある人にて自
 ら誇り居るに其人の考の誤りなることを示すことは六ヶ敷い併し其人の行の悪しきことを
 指示して其人を悟らしむることが出来るのである彼羅馬の國の有名なる哲學者偏理學者に
 ても自分が言ふ所は立派なるも其行が汚い事があります是れは人には教ふるも自らを
 教へざる事である斯様に人々は弱きあれば強きあり長所あれば短所あるものである故に
 其点を充分に觀察して適する方法を取ることが大切であります

第六日 導かんとする人の最早信して居る程度を知ること

求道者に對し自分の經驗に付て話さんとする時は先其人の如何なる程度迄は信して居る
 かと聞くことが大切です然し疑に就て論ずるは却て信仰を妨害する氣遣があります然し
 若しも其人が疑点を言ふことを是非に望むならば其を能く聞て出来る丈け助けを與へる
 とは必要です亦れども矢張り積極的に信仰する方面に付て堅く爲らしむることが利益であり

まず丁度例せば大將が常に敵の力を重んじ恐るゝならば其の力が弱いが味方の力を重んじて居るならば段々と勇氣が加ります信仰の戦も亦同様であります然し場合に依り先その人に汝は如何なる点迄信じて居ると問ふならば却て少し怪む程信じて居ることを發見することもあります其は別に其人が左程に進んで居ると迄思ふて居りません事であるなれども是は其人が信じて度と望んで居るより却て多くの疑が残つて居り自分は信仰することが出来ぬと失望するけれども其時に能く考ふれば信じて居る方が疑ふ点より餘程多くあるのを知り得るであります是れは實際信することは疑ひより多くなれども恒に疑計りを見て居りますから信仰を見誤ります然し斯様な人は其信じて度と精神が不確なる証據であるから其れを以て勘めることが出来るです(約十一〇二十三―二十七)に就て詳細に觀察すれば主は彼れが疑の点よりも更に其信す可き必要の点に付て即ち我は復活なり生命ありと示し給ふたのである矢張り信することを以て其の疑を消すとが出来ます然し又た或人は時としては間違た信仰を持って居ることもあります故に其人に信する所を示さずることも必要である又或場合には少しの欠点を正せば完全になる信仰の道にある人もあ

ります是等は其の少しの点に導き加ふれば立派なるものと爲ることであります丁度或る一の機械が用を爲さない様に爲て居りますときに其専門の人が来て少しく修繕すれば其れは立派なる機械と爲るが如きであります人の信仰の道に於けるも亦是れと同一である或青年が牧師に往て私は大變に信じ度く望んで居るけれども未だ信することが出来ません願くば其道を聞き呉れよと言ひました牧師答へて其は貴下第一疑ふことのなき事を基礎として其上に信仰の建物を建可しと申しました青年は其様な疑の無い道理はかいと答へました其處で牧師は再答へて其の道理は世界の一番大切なるものである即ち潔き人格であると言ひました青年曰く其れは尤であります牧師は更に進で曰く世の中の人々の中に一番完全なる圓滿なる人格は即ちキリストありと嚴に申しました青年は暫く考へて曰く承知しました成程キリストの人格より潔き人格を見たとはないと答へました夫れから牧師曰くキリストの人格其行は基督の教が實行せられたることによりて疑ひませぬ青年又考へて曰く其れは尤です最後に牧師曰く汝の信仰は大きくて巖石の上に立て居ります故に其を基として眞直くに汝の生活にキリストの教を實行しますれば汝は少しも信仰が

無と憂ひまする夫れは充分全きに達せられます青年曰くこれでは左様に致しますと斯て二三年の後彼青年は立派なる教役者に爲りました夫れで又實際傳道の働きには其求道者が完全なる信仰が出来た迄神に祈ることを猶豫する譯は無い矢張り初めより爲さしめて宜し併し問々是れを完全なる信仰が無ければ偽善であるとして見合すことがある是は誤解でありませ其は若しも基督教が智覺的のもの即ち頭の働きならば學問的、神學的の事業ならば其様な理由があるかも知れぬ併し基督教は矢張實際的生命の問題である故に神に祈ることは第一の必要である然し完全なる信仰なくば完全なる喜びを得ることが無かも知れぬ併し不完全なる信仰を以て神に祈ることは丸で祈らない心よりは神の旨に適ふことである畢竟神は私共の價値の爲めに恩を與へることではなくして與へ度との聖旨がありて其れを受け度との心さへあれば充分に受けらるゝである夫れで人が疑の心ありても誠實に願ひ求むるならば神は之を拒み給ひません信仰も矢張神の賜物であります然れば斯の如く其人の程度に應じて適當の導を與へることは功力あることである併し第一に神に祈ると第二に罪に打勝たしむることが用要であります、

第十二學課 實際働く方法

第一日 定つた個人に對しての準備

今迄申した準備を致して居ましても尙充分でありません尙一つの要する準備がある、即ち是は個人に對して適當なる準備をする事である、第一は祈り、第二は其個人に對する責任と愛と同情を感ずる事である、第一祈り、其定つた人の爲に祈る事は神の御約束の通り祈に應じて恩恵を與へらるであります、即ち人の心を愛する事は聖靈の働きに因るのであります、祈りを致しませぬならば其人は恐らくは自分の智慧自分の辨舌自分の力に依頼むの氣遣がであります、併し祈りは其れに依て矢張り其人を愛する心を起します、故に其働きは役目的にある事なくして實際愛の働きとなりませ、又其様に祈りますれば自分が其人の救はるゝ事を望むの感覺が益々強く爲ります、元より一般に人を見て其云ふべき事を見るものあるも殊更に定まつた人の爲に祈りまする事は尙一層其人の爲に感覺が強くあります、矢張り祈るときには適當なる言葉を以て其人を導く事の出来る様に神に求むるのである、又祈を致します心が其眞實の個條、眞實の事實を見認める即ち自

分の働くは唯に恩の通る管の様であり、神の爲に働く機械であると感ずるに到ります。第二其人を助ける望を起す、勿論其一般通常の支度は人間を助ける傳道の根本たる方法とするは必要ですが、個人に話すときには殊更に此人を助け度いどの一層熱切なる感情を起すのである、是れは矢張り祈りに依りて其様な方法を得るので、併し祈りの他にも感情を起す事が出来、夫れは其人の境遇を想像して、若し自分が其人でありしならば如何と考へる事である或は今迄の人が基督に従ひませんならば其結果は如何であるか、色々考へると其人に對する感情を起す事が出来、人間が六官能を有する機械なるか否やは判然と云ふ事が出来ませんが他の人の感情を考へることが出来、或は是れは第六官能ではありますまいか、併し眞實の同情を以て働いて居るならば眼より光つて聲より響て其言ふ言葉は百倍程の力あるものであります。

第二日 勸める時に己を秀でたる者となす如き態度なき様慎むべき事

人を導かんとするに際し自分が秀でたる者との態度が有りますれば其働の勢力を全く失ひます其は恐らくは其様な秀たる事實の無き者である故に却て自分の不肖なる事、欠

点ある事と言顯はすのであつて、謙遜に勸める事は勢力が多くあります、昔しヨセフがパロ王の前に夢の意味を説明するには私が他の人より特別の事はないが神が私を通して夢の意味を解かしむると申しました、同じ様に人に向て私は實際他人よりも善き者でないが神の力基督の助けに依り段々と誘惑に打勝て居ります、私は祈ります時には誘惑に打勝つ力を受けますが併し度々祈りを絶て止める時に私も度々悪い事を致しましたと白狀して自分の欠点を顯し其經驗を談し信仰の必要を勸むる時は惡しき感情を起さしめず導くに益が有ります、若しも之れに反して自分の秀でたる事を以て人の罪をのみ示す時は其人は思ふに此人は私を審判するものかと 感情を以て其説を受け納るゝ事は無いのであります、元來普通未信者は自分は品格の善い者であると考へて居ますから、信者の内に墮落せる者あれば其を見て自分は信者よりは優れて居るとの感情を持つて自分の品格を高く思ふて居る事であり、故に信者より却て自己の欠点ある事弱きものなる事罪深き者ある事を示して勸むる事は、却てその人に弱きを知り罪を悟らしむる事が出来るのである今左に三つの要点を説きます。

第一、私は汝より善きものとは申す事が出来ません(即ち消極的に勸むる事)
 第二、私は基督の力に依りて前よりも善きものになる事を得ました、
 第三、私は基督教に依りて、多くの慰め助け心の安息を與へられます、
 即ち第二第三は積極的に勸むる事である、然かも恒に注意すべき事は自己を秀てたるものどせざる事でありませぬ、

第三日 何時も積極的方法を重んずる事

前學課には初て如何程信じてゐるかど發見する方法でありました、即ち一般に疑を解くより積極的事實を以て信仰の基を建てる事が宜しい、凡そ何の事柄でも解せられない点はあります、何の問題でも明になる点と又解する事の出来ぬ点とがあります、例へば哲學理學の問題でも亦同じであります、即ち例は理學は事實的研究であると人は思ひまするも、矢張り事實上多くの解する事の出来ない奧義があります、鐵、銅、錫等に就きても是れは銅、鐵、錫どのの形狀有様に依りて知る事は出来るも、其の何に依りて何故斯く成立て居るやど其本質の究意の理を明白にする事は到底出来ぬのである、又磁石

は何故に鐵を引か更に又太陽の引力等に就てもその奧義を明瞭に解説する事は困難の事である、即ちこれが人力の及ばざる奧義であります、それであるから宗教上の研究にも亦同様に考へねばならぬ、然し或る人は之に反して諸々の奧義が判明する迄は信仰せぬといふ傾向があります、即ち三位一体の事は充分には解せられませぬ、又人間意志の自由と神の支配し賜ふ事とは明かに解く事が出来ませぬ、或は又奇跡のある事は充分解りませぬ、或は何或は何と種々の疑ががあります、併し是等の奧義までも解らぬから信せぬとは、全く哲學理學の法則と反對であります、故にその解せられたる点を取りて之を研究し、其の奧義のある所は見合す事が適當の方法であります、即ちそれは何事でも或る知る事の出来る事實がある、その上に解る事の出来ぬ奧義があります、或人の傾きは其の事柄に對して土臺とする奧義を解せぬならばいけぬとて之を捨て受けませぬ、又他の人の方法は奧義を見合し其解る事の出来る事實を以て其の上に信を置くのであります、出来る丈詮索して出来る丈發見します、之は即ち哲學理學を研究するものゝ法則であります、是故に人を勸める時には、深く問題を解し難い信じにくい方面より説くよりは却

て明解し易き事實の實際を以て人を勸める事が捷徑である、然れば人々に向つて、宗教ですから勿論與義があります亦た他の何の學問にても同じく研究しても明らんと處の與義がありますと併し與義がありて解らん所があるにしても解る所の事實があります、即ちその事實は斯々であると示す方が宜しいのである、

一、基督の教は道徳上の圓滿なる教である、

二、基督教は世の中の人の品格を正しくする勢力がある、

三、基督教は實際に人の心に大なる安心立命を興へるの結果があります、
斯様に疑ふ事が出来ぬ事實を土臺として、それより進んで基督教は何である即ち神に對する人間の途神の人間に對する罪の免赦し愛の則を示して基督教を解き明す事である、而して是等の結果に付て世の政治家學者の基督教を研究したるものは明らかに基督教は歴史上の事實的のものであると多く言ひし事わりと實例を示す事は更に適切である是れ即ち積極的方法を重するの例であります、

第四日 導かんとする先きの人の切に信する事を承知すべき事

凡そ人は誰れでも全く間違つた説の人はありません即ち其の多くの点の中には或る間違つた説が混じて居るのです、例せば最も甚しき迷信のある人にでもその考へには多くの眞實の考へ宗教上の眞の感情が必ず混じてをります、故に先きの人が信する所の眞理ある点を見出せばそれを承知して、其人を導く助けに爲す事が適當であります、それでは人に向つて汝の説は全然間違た馬鹿な考であると言へば、其人は立腹を致しませう、併しその人に向つて汝の斯く信する事は私の即ち斯く言ふ事である故にその信仰を加へるならば汝は完全なる信仰と爲り汝の爲めに余程利益ですと勸めるならば其人は喜んで聞きます、パウロはアデンス人に説教したるときには初めに彼等の宗教に強い心を賞めまし
た、パウロ、アレオ山の中に立ちて曰ひけるはアデンス人よ我れなんぢらが毎事に鬼神を敬ふの甚しきを觀る」(徒十七〇二十二)「それ我れは彼れによりて生きまた動きたる存ことを得るなり爾曹の詩人たちも我れは其裔なりと云ひしが如し」(同上二十八節)即ちこれらは皆な希臘聖書に於ては彼等の宗教心を賞賛した事の意を含んで居ります、それではパウロはアデンス人の宗教上の信する事を承知して其上に尙大なるを私は加へると

した、即ちパウロはなくてはならぬ所と見定てゐる宗教の根本たるキリストの死と甦りの事を説きました、パウロは一ツの事を常に主張してそれを疑ふ事を少しも許しません、基督の神たる事、基督のなくてはならぬ事、基督を信する事は教の根本である事、それより他に何も依頼む事は天下に於しとせる事でありませぬ、故に定の土臺に反するものは悉く攻撃を加へました、半分はキリストに依頼し半分はユダヤ教の儀式に依り頼む説があります、パウロは其様な説は基督教を破るものと認めて一時も許しません（加二〇十一—十六参照）斯くパウロは無くてならぬ土臺に付いてはペテロに迄も攻撃する程に重んじてゐました、今頃も色々の基督教であると稱へらるゝ信仰があります、其一ツの土臺たるキリストにのみ依頼する道理を捨てる所の宗教があるから、かゝる説を許す事は出来ぬのである（ユニテリアンの如き）かゝる説は全然人間を救ふに足らんものである即ち歴史上に顯はれたる人間を救ひ人間の上に勢力ある信仰は何の時代如何なる人物にても必ず基督を主として救主として唯基督にのみ依り頼みて價あしに永生を受くると信するもの信仰の活動にある事です、然し信仰箇條の皆なを盡して其儘に信せねばなら

ぬと言ふ譯では無い、勿論その道理の中には色々ありて重大なるもの或は左程重要からざるもの等の區別があります、即ちパプテスマ——晚餐——神の主權と人間の自由意志の如き議論多き点もありません、併し土臺たる所の無くてならぬ根本的信仰があります、それを除きては絶對的に不可である、例せば人は一つの足を切りても一つの手を切り捨てても他の機關に頼りて尚生くる事が出来ませ併し其の生命を取りては全然いけません基督に信用して其れを主として基督の賜物に依りて救と永生を受くるは基督教の即ち生命であります、

第六日 神の言葉を使ふ

吾人の信仰の土臺は、神の言葉です、故に他の人を勧めるにも神の言葉を以てすることは効力がある、基督は常に議論する時には神の言葉を使ひ玉ひました、（馬太二十二〇四十一—四十六参照）「エホバわが主にのたまふ、我れなんぢの承足にするまではわが右にさすべし」是は神の言葉を以て御自分の神たる事を證明し給ふたのである、（路十〇二十五—二十八、約十〇三十四、三十五参照）基督は斯く聖書を使ひ給ひました彼の誘惑の時

の如きも三度神の言葉^{ことば}を以て答へ給ひました、又たパウロは基督教信者^{しんじや}の戦ふには、聖靈^{せいれい}の劍^{けん}は神の言^{ことば}ありと教へました、(弗六〇十七)それで特に聞く人が聖書の權威^{けんい}神の言^{ことば}であると思はる時に、神の言^{ことば}を以て勸める事は一番効力がある、若しも其人^{そのひと}が聖書を神の言^{ことば}であるまいと思ふて居るとも聖書の言^{ことば}は權威あるから、矢張り是の言^{ことば}を以て勸める事は適當^{てきとう}です、或る時賢い辯護者^{べんごしや}が基督教は公平^{こうへい}なると思ひしが意外にも道理に適ふものにてあらざりしと教師に申しました、教師は答へて聖書には貴下^{あなた}の考か書いてありますと(哥前二〇十四)生れつきのまゝなる者は神の靈の情を受けず云々と示しました、斯て其人は曰くそれは私の事であると直ぐに答へました、勿論此の學課に示したる事は唯だ手段である故に熱心なる傳道の心が無くしてはなりません、斯く是の熱烈なる心と其取る所の神の言^{ことば}即ち聖靈の劍^{けん}を以て活動するに於ては必ず大なる結果を得る事でありませぬ、

第十三學課

聖書の應用法

第一日 時として他の書物或は他の手段を聖書の前に用ふる事の必要ある事

パウロはアデンス人に説教^{せうけう}させる時に、聖書の引用^{いんよう}をささず、猶太人には常に聖書を引用^{いんよう}して以て説教^{せうけう}しました、即ちアデンス人に向つては、聖書を信じませぬから、それを説教する事は餘り益^{えき}がない故に彼等の信する詩人の言^{ことば}を引用して應用^{おうよう}しました、併し之がパウロが聖書を重んじない譯ではなく今も或人が聖書の權威^{けんい}を明かに知らず重んじない事がある、かゝる人に向つて唯聖書に斯くくありと應用するもそれは左程に力がない、又或人が聖書或は基督教に對して偏見^{へんけん}の考^{かんが}があり之れを惡む傾きがあります、かゝる人に向つて聖書に斯く書いてあると言ふも無益^{むえき}であります、又或る青年は一度基督教は正しきもの圓滿なる世の人の一番清淨潔白なるものと信じて居ります、併し聖書の奇跡や聖靈の充滿^{じゅうまん}を信じませぬ、故に聖書を読みたくないと思へます、かゝる人には、歴史上の基督教といふ書物を讀ませる、其本の説く所は即ち基督教は潔き正しきものである、萬民が彼れを信せねばならぬとの議論^{ぎろん}があります、矢張り適當なる方法の一であります、若し人が基督教の正しきものなる事又た基督教の神たる事を信するならば、聖書を神の言葉と信じ、奇跡も信じらるゝに到るでありませう、然れども通常初めから聖書を用ゐる事は大

概益ある事である、幾分他の本を用ゐる事あるも聖書を本として應用する事は矢張り適當の事であり、其れは聖書の言を議論的に用ゆる事の事ではないが私共の信仰は皆聖書に基いて居るからして基督を勧める爲めに之を應用する事は即ち適當である、即ち基督に就いて論ずるよりは基督御自身を實際的に顯す方が力がある、之れと同じく唯基督の箴言なる事を論ずるよりは基督の本主意を人に示す事は力があります、言葉を換へて言へば倫理道德的教を論ずるよりは道德の王基督に仕ふる心を起させるのは實際に道德の道を歩ます根本の方法であります、而して此等の事は聖書の應用に於て有効なる働きをなし得るのであります、

第二日 新約聖書と舊約聖書と比較的權利

両方とも神の言葉でありまして權利のあるものです、然し區別はあります、神は人間に大切なる教を興へる時には、人間が受くるより早く其以上を興へる事が出来ない、基督は曰くモーセが離縁に付いて一つの事を許したるも是れは人の心の剛脆なるからである、(可十〇二―九参照) 是れは實際の目的を以てすれば其以上を興へるならばその事は行

はれざるが爲めでありしものと思ふべきである、而かも後に基督は之れを命じて、全然離縁する事は悪いと教へました、矢張り山上の説教にも目にて目を償ひ齒にて齒を償へと教へあるも敵を愛せよと命じ給ひました(太五〇三十八―四十八) 即ち初めには神が人に應じて斯く教へたるも基督の時代にはそれが悪いと教へました、矢張り神は人間の受得る程の誠を興へました、又舊約聖書の時代は、格別に戦ひ野蠻の國々が常に争うて居る時代でした、戦の時には之れを平和にするのには極く慘酷なる事と思ふ事を澤山せねばならぬ事である、又舊約聖書の時代には其の偽りの宗教即ち偶像教神に反く所の方は大分強くなりて神に従ふの宗派は極く弱者不完全でした、極く熱心でありませんでした故に之れを守る爲に猶太人等を格別に區別して他と交際をせぬ事にして守りました、併し今は宗教心も余程熱して居ります故に基督信者をして他の國へ宗教を傳へるの必要より其義務を負はされてあります故に初めから後まで皆神の教をなすなれども前に許したる事も後ち禁じられし事がある、前に見過したる事を後でそれは慘酷なる非常の事と思はれし事がある、舊約時代に矢張り舊時に命令致しました事も後で全然境遇が異

ありたる時には之を禁じ改めました、即ちその時代の境遇によりて異なる事であり、神の命令は皆な實際的の命令である即ち此人に適するといふ事である決して理屈的ではありませぬ故に聖書を用うる時には両方即ち新約と舊約聖書とを用ふる事が出来る併し一つの實例を引く時は、常に如何なる境遇にありし時此命令を與へられしかど問ふ事が大切である、それは若し當時の境遇を明にせないならば、その聖書の眞實ある權利を明にする事出来ないからであります、例へばサウロ王はアマレク人と戦ふて皆を殺して滅亡せしめよと神の命令を受けました、けれども或者を殺さずして捕虜にし奴隷と爲したる事でした、即ちそれは来る罪に依て、サウロ王は位を取られました、今の時代の戦争にて捕虜を殺しますれば其は極く慘酷なる事であると言はれます、なれども先の時代に於ては殺す事は必要なる事でありました、何故なれば其のアマレク人は實際は強盜の様な唯だ人を殺して生活してゐる様なものであるからである、矢張り他の色々の譯から其時代には其の様な慘酷なる行も必要でありました、今の時代とは大なる違ひである英國人はアフリカ人の土人に戦ふと又獨逸人又佛人と戦ふのは丸で又違ひます、故に人に教ゆ

る時に或人が舊約聖書にある事を批難して来る時には、其の相當なる境遇を考へねばなりませんと説明すべきである、即ち若しも汝が同じ境遇同じ場合に在りますれば亦汝も同じ様に致さねばならぬ事でありませう神は世の小兒の時分には小兒のやうな教育をなすし進んで青年時分には青年の様な教へ方をし、段々進んで世の大人の様になりたる時に完全したる教育を與へ玉ひし事と思ふべきである、又た例へば醫師か胃病にはその藥を飲ませ亦感冒には亦別の藥、熱病には亦異なる方劑を與ふるが如く神が此世の病に對して別々に適する誠を與へ玉ひました、彼のアブラハムの其の子イサクを犠牲に捧げた事の如きも今の時世にありとすれば其は大なる不適當の行であります、併しその時代には風俗に習うてゐるから極く適當なる一美事たる事でありませぬ、併し亦敵を許す事、惡を爲す人に敵する事なからんとするが如きはアブラハムの時代には出来ぬ不適當の事でした、蓋し、その時代は個人にても毎日／＼戦うて居らねばならぬ境遇でありました、斯様に時代の變化に伴うて神の教育も亦た進歩してゐる事を信じ深く考察して聖書の研究を爲すべきであります、

第三日 奇跡の語の應用方

今申したる通り神が人に依りてその教の異なりたる通り私共も丁度其人に適する様に教ゆべきである、即ち小兒に向つて議論的に論ずるよりは、實際物を示して談す事は必要である適當であるが如し、數千年前には人が極く幼稚で小兒の様であつたから理屈的に論ずるよりも一度神の力ある事を示すならばそれで合点がゆくのであつた、神がイスラエル人を他國と區別して離れしめて導く時には色々の奇跡を以て神の大なる力を顯はし給ひました即ちシナイ山の奇跡の如きである是の一事は何百冊の大なる書物よりも大なる實例實際的の教へであります又基督教を以て世界中に神の宗教を建つる時にも大切なる證據を要するところがあり故に其時にも神が奇跡をせられたることであります奇跡の役目は何であるかと言へば即ち神の使ひ神が遣はしたるもの預言者である神の權利あるものであるとを保證することでありました矢張又聖書の奇跡は適當なる意味ある大切なる教訓であります新約聖書の奇跡は皆な人を助ける基督の親切神の愛を示したるものであります舊約聖書の奇跡も皆神の力神の人を守り給ふと或場合は特別に他の神を打亡すと

を示すものであります即ち埃及にて爲したることは皆直接に埃及人が拜む所の神に付て直接に教へ戒む所の意味があります(出五章より十四章參讀)又カルメル山に於けるエリヤが示したる奇跡はバアル宗教が大陽を拜するから天から火を呼び下したることにエホバはバアルを亡すの力あることを示したる意味を含で居ります今私共が基督の奇跡の談や他の奇跡の事を使ふ時には其れを能く考へて基督の力を覺り以て其超自然の人格に觸れて彼を信すべきであります(約二十〇三十、此書に記さざる外尙許多の奇跡をイエス弟子の前に行せり)然し奇跡を見て信するよりも尙大切なる事がある(約二十〇二十九、爾我を見しに因て信す見ずして信するものは福也)是れは信仰の要であります

第四日 聖書に對する疑問

聖書に就ては色々の疑問があります殊に近世に於ける聖書を研究する學者は其記者或は其記したる時又は歴史等を説明して種々の批評を爲すことであります然し聖書を書寫する時には色々の書き間違を致したることもあり得ますから今の聖書に於て前の聖書と比較して澤山に異なる所があります其一番早く出來た書物は紀元前三百年以上に書かれたるも

のでありますから其の三百年の中には別に書たものがあるかも知れぬ併し其時は印刷の術は素より無から書き寫したるものである故に間違た處のある筈であります何故ならば或書面に一字間違があるならば其書物より書き寫したるものは亦同じく誤があります書き寫したることは元からの弟子が書たものから書き寫すではなくして書き寫したるものを又書き寫したるものなれば間違のある可き事である尙ほ最一の理由は其書寫したる親書面は即ち人の持たる聖書たるを以て現今の人に於て書入を爲すが如く書入れたることのあることも知る可きである斯く人が長い間携へて或は五十年百年も経過したるものは大層尊重せらるゝに到り後世の人之を書き寫すに當りて其邊にある記入を書加ふるに至りし事もありと察せられず併し其の間違を直す方法がありません即ち其古い物が今は二千冊もありませんから其を比照して大に研究をして其間違た所は充分に定めることが出来ます而も其合ない處は左程特別の事は無くして唯比較的價値の薄い事柄のみの所であります又もう一ツの疑問は或人が其聖書記事と歴史上の教へには間々合ない點があるかと主張して居る併し此の所を能く諷べますと實際間違では無くして唯其解釋の間違の所が多く

あります例せば(約十九〇十四)にある審判の時間の十二時とありて(可十五〇二十五)には十字架の時間を朝の九時頃とあります故に是は間違の様に考ふることあるも是は解釋の間違であります即ち希伯來語聖書の約翰傳には六番目の時間馬可傳には三番目の時間とありて馬可の時間の方は猶太の風俗にて日出より日入り迄を計り約翰傳は羅馬の風俗に従て眞夜中より眞晝迄で數へたる方法に依りたるものなり故に審判の時は日本の時間にて朝の六時になります十字架の時は朝の九時に當ります又(母後書二十四〇二十四)にマビデが銀五十シケルにて或物を買へり又(代上二十一〇二十五)には六百シケルとあります一見之は間違の様に思いますが矢張間違であります即ち實際の解釋は一は其場所土地を六百シケルに買ひし事にて他は牛と禾場とをマビデに受納れ給へど願ひしに依り其れに對して銀五十シケルにて買上げたることである故に少しも間違ではありません矢張解釋の間違であります以上是等は一例なるが尙斯様に澤山なる違ひの點があります其れで其様な疑問に對して人を教ふる時個人傳道は如何にするやと問へば其れに對しては第一は導んとする人が疑問を起して質問致しませぬならば其れは特別に自

分より言出す要はありませぬが若しも其れか眞實聖書の眞で無ひ事ならば其を隠すことは勿論善くまいことでありませぬれども是は唯解釋の間違丈であるから決して差支は無です併し或人が斯様なとを能く解釋し得ると言ひて是のことが大變力のある様に思ふて人に説くことがありませぬも恐くば説明を受けて斯る議論は満足を得ることは困難であります而已ならず却て疑を起さしむに終りたる事でありませぬ夫れは唯個人的に適するのみならず又説教の上にも極く大切なる注意すべき事である多くの説教者も其様な疑問を掲げて論ずるとの傾き多き人がある其ゆう問題を説くは聞く人の信仰を助けるとの考へあるも其れは果して反對の結果を來すものである實際之を露骨的に言へば其ゆう問題を論ずる人の目的は自分の智慧を表はし度との考があるからであるでせう即ち斯ゆう消極的問題を説く説教をするよりも確に信じたる積極的救道を説くとは大なる利益あることである併し若しも聞人が其ゆう疑のある問題を掲げますならば其れは之を解くべきであるも我より之を掲げることにはある可らざる事である若しも其の導かんとする人が他の聖書を攻撃する書物から聖書に付て考へてかく質問するならば初めて其ゆう相合はない所を

充分に言ひ顯す時であります

第一 其は長い間筆で書き寫したることにて今の様に印刷の術なかりしが故に間違のあることであると答へます併し本統の聖書の主意に適するものにて主旨に於て少しも間違のある所は無と答はれませぬ

第二 其の相反する歴史上の所を充分に解する時には即ち相反する所のない様になりませぬ大體皆其通であります充分の解釋を爲せば相合ふことが出來ませぬ

第三 若しも假りに或事に於て相合ふとの出來ぬ所の点ありとするも其の靈的教の意義に於ては必ず一致して何れも眞なる事である即ち聖書は理學哲學歴史を教ふるの目的ではなくして靈的の事倫理の事を人に教ふるものであります神は其の大切なることを人間の手に依りて書かしめ給ひました若も人間が書きた時に歴史上のことに付て間違しとありても其の大切なる靈魂的のことに付ては神が其間違の無ひ様に導き給ひましたと信じます即ち神の書き給ひし方面は靈魂的の書であります有名なる畫師の書きたるものは完全なる美術の畫であります其れを揚ぐる時に他人が其れを枠に入れて顯します併し其枠は餘り美

術家の手に爲たものでは無い故に多く欠点があるかも知れませんが其美術品は矢張美術品であります斯様に神の本來の計畫たる靈魂上の事は矢張り立派なる者であります只或は人の爲めたる或事に於ての欠点があるとは知れませんが是故に私共は聖書は相合は無い所は無と信じます然も他の人が相合は無い所があるとは信するよりも假りに一步を譲るとするも聖書の靈的、教に就て少しも疑ふとを要せざるとであります、

第五日 聖書の満足と與へる効能

前學科の如く其消極的議論に依りて疑に殘らず答へることが出来るに違ひ然し疑いに答ふることは信仰を起すことに利益が少くか實際は聖書の積極的の事を以て聖書を重じて信仰を起さしむることが出来ず第一は聖書は果して人間の根本的の要求に應じて満足せしむるの効能がであります假令は一の鍵は其錠に合せずならば此鍵は果して其錠の鍵なりと信することが出来る特に此錠は極入込みたる機械にして此鍵が又極入込みて能く合するならば此鍵は即ち此錠の爲めに出来たものであると信じます矢張り其錠を造りましたる人が此錠を造りましたと信じられます斯様な譯で聖書は果して人間の性質人

間の要求に合ひます聖書に従ひ神に信賴する宗教を信する者は夫に據りて尙一層清淨潔白なる者になります夫れで充分の利益と大なる安心立命、平和、能力、勇氣、慰安、同情此世の禍、苦痛を癒し凡ての要求を達するのみならず來世にも大なる喜びの信仰を有つことが出来ず又聖書は社會に對して大なる助を與へることがあります假令は小兒は元親の所有の様ありしが聖書の教に従ふ家族には其關係は特別に愛の關係となります即ち小兒を所有物とせず極愛するものとなります元は奴隸と云ふ様心は何處までも極嚴酷なる使役をして居りました併し聖書の教によりて全然廢止して仕舞ました勞働は元賤しきものとせられましたが基督自身が勞働せられ給ひしより聖書の教にては重せられることとにありました即ち勞働は社會の元である神聖なるものであると云はるゝに至りました又殊更に婚嫁家族の縁夫婦の縁に對しては聖書は特別に教ふる所である然も他より嚴重な教がであります社會の凡てに就ても聖書は利益と與へる方法が有ます即ち其凡ての缺點を直すの効能がであります夫れは直接に戒め忠告するともありますが又間接に人間の心を改め自然に社會の改めらるゝ効能が多いです光は木や草を引き延すことは無が光が其上